天童市埋蔵文化財調査報告書第48集

天童市西沼田遺跡

― 第Ⅴ次・第Ⅵ次・第Ⅶ次発掘調査報告書 ―

令和５年３月

天童市教育委員会

天童市西沼田遺跡

— 第Ⅴ次・第Ⅵ次・第Ⅶ次発掘調査報告書 —

令和５年３月

天童市教育委員会

序

西沼田遺跡は、昭和60年度山形県営圃場整備事業にかかることから発掘調査が行われ、６世紀を中心とする古墳時代後期の農村集落遺跡であることが確認されました。遺跡からは、大量の建築部材や木製品等が当時の姿のままに発見され、東北地方の農村集落の様子や生活様式を総合的に知ることができる貴重な遺跡として、昭和62年１月26日に国史跡としての指定を受けました。

平成９年度からは、遺跡整備に向けて、指定地内における本格的な発掘調査が再開され、平成16年度までの調査により、平地式建物14棟、高床式倉庫２棟、木柵の一部、集落の東側をめぐる河川の存在などが明らかになったほか、平成11年度から平成13年度にわたり行われた調査では、水田に伴う畦畔状遺構、溝、井堰などの生産活動に関わる貴重な遺構や遺物が確認され、指定地の北側についても、平成15年８月27日に追加指定を受けています。

西沼田遺跡の整備は、これらの調査結果を踏まえ、平成14年度から平成19年度までの６年間にわたり、文化庁及び山形県からの支援を受けながら行われ、古代農村集落の様子を体感できる歴史公園として平成20年５月に開園しました。

西沼田遺跡公園の管理運営は、開園当初より、地元サポーターを中心に結成されたＮＰＯ法人が担っており、市内外の来訪者に親しまれています。

本報告書は、平成13年度、平成15年度及び平成16年度に実施した発掘調査において確認された成果について取りまとめたものとなります。この発掘調査では、高床式倉庫１棟や畦畔状遺構、溝や河川跡のほか土器や木製品などの遺物が発見されました。

今後の埋蔵文化財の調査研究、普及啓発又は教育活動の促進を図るため、本報告書を活用していただければ幸いに存じます。

最後になりましたが、発掘調査の際に御指導、御協力をいただきました関係者の皆様に対して心からお礼を申し上げます。併せて今後とも、御指導、御支援を賜りますようお願い申し上げ、挨拶といたします。

令和５年３月

天童市教育委員会
教育長　相　澤　一　彦

例　　言

1　本書は、国指定史跡「西沼田遺跡」の整備に係る第Ⅴ次発掘調査（以下「Ⅴ次調査」という。）、第Ⅵ次発掘調査（以下「Ⅵ次調査」という。）及び第Ⅶ次発掘調査（以下「Ⅶ次調査」という。）の報告書である。

2　本書に収録した内容は、「天童市西沼田遺跡－第Ⅴ次発掘調査概報－（2002）」、「天童市西沼田遺跡－第Ⅵ次発掘調査概報（2004）－」及び「天童市西沼田遺跡－第Ⅶ次発掘調査概報（2005）－」において、その概要を報告している。なお、本報告書において一部訂正を行っているので、御了承いただきたい。

3　発掘調査の報告書の刊行までに至る業務は、天童市教育委員会が実施した。

4　調査要項は、次のとおりである。

⑴　遺跡名　西沼田遺跡

⑵　所在地　山形県天童市大字矢野目3295番地ほか

⑶　遺跡番号　山形県遺跡番号06210－172（天童市遺跡番号114）

⑷　調査期間

ア　Ⅴ次調査（平成13年度）

㈠　発掘調査　平成13年10月２日から平成13年12月６日まで

㈡　第１次整理作業　平成13年12月１日～平成14年３月31日

㈢　第２次整理作業　令和３年４月１日～令和５年３月31日

イ　Ⅵ次調査（平成15年度）

㈠　発掘調査　平成15年８月４日～平成15年11月20日

㈡　第１次整理作業　平成15年11月21日～平成16年３月31日

㈢　第２次整理作業　令和３年４月１日～令和５年３月31日

ウ　Ⅶ次調査（平成16年度）

㈠　発掘調査　平成16年10月７日～平成16年12月３日

㈡　第１次整理作業　平成16年12月６日～平成17年３月31日

㈢　第２次整理作業　令和３年４月１日～令和５年３月31日

⑸　調査担当

ア　平成13年度

㈠　社会教育課長　高橋萬策

㈡　社会教育課副主幹　高橋秀司

㈢　社会教育課主事　押野一貴

㈣　社会教育課日々雇用職員　山澤　護

イ　平成15年度

㈠　文化振興課長　岡田吉春

㈡　文化振興課課長補佐兼文化財係長　高橋秀司

㈠　税務課主任　押野一貴
㈡　文化振興課主事　岡崎友美
㈢　文化振興課日々雇用職員　山澤　護

ウ　平成16年度
㈠　文化振興課長　今川文敏
㈡　文化振興課課長補佐兼文化財係長　長谷川義昭
㈢　文化振興課主査　押野一貴
㈣　文化振興課主事　岡崎友美
㈤　文化振興課日々雇用職員　山澤　護

エ　令和３年度
㈠　生涯学習課長　矢萩　茂
㈡　生涯学習課文化財係長　稲葉友美
㈢　生涯学習課主任　菊地研次
㈣　生涯学習課会計年度任用職員　黒坂広美
㈤　天童市西沼田遺跡公園臨時職員　山口禎子

オ　令和４年度
㈠　生涯学習課長　矢萩　茂
㈡　生涯学習課文化財係長　稲葉友美
㈢　生涯学習課主事　金田亘平
㈣　生涯学習課会計年度任用職員　黒坂広美
㈤　生涯学習課会計年度任用職員　長谷川輝美
㈥　天童市西沼田遺跡公園臨時職員　山口禎子

５　本書は、稲葉友美が執筆し、矢萩茂が監修した。

６　発掘調査及び整理作業の実施並びに本書の作成に当たっては、文化庁、山形県、公益財団法人山形県埋蔵文化財センター、三郷堰土地改良区、西沼田遺跡整備検討委員会委員（仲野浩氏、塩田敏志氏、渡辺定夫氏、佐藤信氏、宮本長二郎氏、田中哲雄氏、広田純一氏、北野博司氏）、川崎利夫氏、斎野裕彦氏、荒井格氏、松井敏也氏、阿子島功氏の諸機関及び諸氏から御指導並びに御協力をいただいた。記して謝意を表する。

７　本調査において出土した資料は、天童市教育委員会において一括保管する。

凡　　例

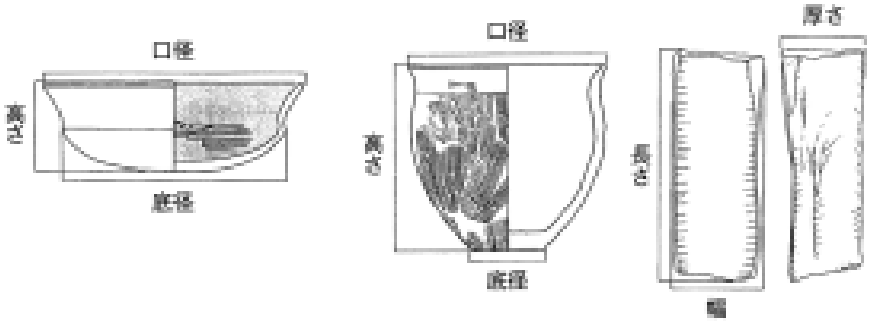
1　土層の色調の記載は、1996年版農林水産省農林水産技術会議事務局監修の「新版標準土色帖」によった。

2　遺構図に付す座標値は、平面直角座標系第Ｘ系（世界測地系）により、高さは海抜高を、方位は座標北を表す。

3　遺構及び遺物の実測図の縮尺は、各図に示した。

4　挿図中及び文中の記号は、ＳＢ－建物跡、ＳＤ－溝跡、ＳＧ－河川跡、ＳＫ－土坑、ＳＸ－性格不明遺構、ＥＢ－柱跡、Ｗ－木、木材を示す。

5　出土遺物の計測方法は、下記のとおりである。



6　遺物観察表中の計測値のうち、（　）は、推定値を示す。

7　図版掲載遺物の右下の数字は、遺物番号を示す。

8　遺物写真図版の縮尺は、任意である。

目　　次

第Ⅰ章　序…… 1
　第１節　調査に至る経緯…… 1
　第２節　遺跡の立地と環境…… 1
　第３節　周辺遺跡と歴史的環境…… 3
第Ⅱ章　調査の概要…… 8
　第１節　調査の方法及び経過…… 8
　第２節　基本層序…… 13
第Ⅲ章　遺構及び遺物…… 14
　第１節　遺構…… 14
　第２節　遺物…… 37
第Ⅳ章　まとめ…… 55
　引用・参考文献…… 57
　報告書抄録

挿図目次

第１図　周辺地形図…… 2
第２図　周辺の遺跡…… 4
第３図　グリッド設定図…… 8
第４図　発掘区設定図⑴全体図…… 9
第５図　発掘区設定図⑵Ⅴ次調査区…… 10
第６図　発掘区設定図⑶Ⅵ次調査区…… 11
第７図　発掘区設定図⑷Ⅶ次調査区…… 12
第８図　基本層序…… 13
第９図　Ⅴ次調査区第１トレンチ遺構検出状況図…… 16
第10図　Ⅴ次調査区第１トレンチ16号建物跡遺構検出状況・柱跡断面図 …… 17
第11図　Ⅴ次調査区第１レンチ遺物分布図…… 18
第12図　Ⅴ次調査区第２トレンチ遺構検出状況・土層断面図…… 19
第13図　Ⅴ次調査区第２トレンチ遺構土層断面図（ＳＫ501・畦畔状遺構）…… 20
第14図　Ⅵ次調査区グリッド設定・土層断面配置図…… 23
第15図　Ⅵ次調査区第１・第２トレンチ遺構検出状況・土層断面図…… 24
第16図　Ⅵ次調査区第１・第２トレンチ遺構検出状況図…… 26
第17図　Ⅵ次調査区第３・第４トレンチ遺構検出状況・土層断面図…… 28

第18図　Ⅵ次調査区第５・第６トレンチ遺構検出状況・土層断面図…… 29
第19図　Ⅶ次調査区トレンチ設定・土層断面図配置図…… 32
第20図　Ⅶ次調査区第１・第２トレンチ土層断面図…… 32
第21図　Ⅶ次調査区第３・第４トレンチ土層断面図…… 33
第22図　Ⅶ次調査区第５トレンチ遺構検出状況・土層断面図…… 34
第23図　Ⅶ次調査区第６トレンチ遺構検出状況・土層断面図…… 35
第24図　Ⅶ次調査区第５・第６トレンチ畦畔状遺構土層断面図…… 36
第25図　Ⅴ次調査出土遺物実測図(1)…… 42
第26図　Ⅴ次調査出土遺物実測図(2)…… 43
第27図　Ⅴ次調査出土遺物実測図(3)…… 44
第28図　Ⅴ次調査出土遺物実測図(4)…… 45
第29図　Ⅴ次調査出土遺物実測図(5)…… 46
第30図　Ⅴ次調査出土遺物実測図(6)…… 47
第31図　Ⅴ次調査出土遺物実測図(7)…… 48
第32図　Ⅴ次調査出土遺物実測図(8)…… 49
第33図　Ⅴ次調査出土遺物実測図(9)…… 50
第34図　Ⅵ次調査出土遺物実測図(1)…… 51
第35図　Ⅵ次調査出土遺物実測図(2)…… 52
第36図　Ⅵ次調査出土遺物実測図(3)…… 53
第37図　Ⅶ次調査出土遺物実測図…… 54

表 目 次

第１表　Ⅴ次調査出土土師器ほか観察表…… 58
第２表　Ⅵ次調査出土土師器ほか観察表…… 61
第３表　Ⅶ次調査出土土師器ほか観察表…… 63
第４表　須恵器観察表…… 63
第５表　石製品観察表…… 63
第６表　木製品観察表…… 63

図版目次

図版１　遺跡遠景
図版２　Ⅴ次調査第１トレンチ遺物出土状況
図版３　Ⅴ次調査第１トレンチ遺物・建築部材出土状況
図版４　Ⅴ次調査第１トレンチ拡張区・16号建物跡遺構・遺物検出状況・土層断面

図版５　Ⅴ次調査16号建物跡土層断面・全景
　　Ⅴ次調査第１トレンチ全景
図版６　Ⅴ次調査第１トレンチ拡張区全景
　　Ⅴ次調査第２トレンチ遺構検出状況
図版７　Ⅴ次調査第２トレンチ遺構検出状況
　　Ⅵ次調査第１トレンチ河川跡検出状況
図版８　Ⅵ次調査西側・北側拡張区遺構検出状況・土層断面
図版９　Ⅵ次調査西側・南側・東側拡張区・第３トレンチ遺構検出状況・土層断面
図版10　Ⅵ次調査第３・第４・第５トレンチ木材検出状況・土層断面・全景
図版11　Ⅵ次調査第５・第６トレンチ自然木検出状況・遺物出土状況・全景
　　Ⅶ次調査第１トレンチ土層断面
図版12　Ⅶ次調査第１～第４トレンチ土層断面
図版13　Ⅶ次調査第５トレンチ遺構検出状況・土層断面・遺物検出状況
図版14　Ⅶ次調査第５トレンチ遺構検出状況　第６トレンチ遺物・木材検出状況
図版15　Ⅶ次調査第６トレンチ遺構検出状況・土層断面
図版16　Ⅴ次調査出土遺物(1)
図版17　Ⅴ次調査出土遺物(2)
図版18　Ⅴ次調査出土遺物(3)
図版19　Ⅴ次調査出土遺物(4)
図版20　Ⅴ次調査出土遺物(5)
図版21　Ⅴ次調査出土遺物(6)
図版22　Ⅴ次調査出土遺物(7)
図版23　Ⅴ次調査出土遺物(8)
図版24　Ⅵ次調査出土遺物(1)
図版25　Ⅵ次調査出土遺物(2)
図版26　Ⅵ次調査出土遺物(3)
図版27　Ⅶ次調査出土遺物
図版28　Ⅴ次～Ⅶ次調査出土遺物（参考資料）

第Ⅰ章　序

第１節　調査に至る経緯

西沼田遺跡は、昭和60年度に山形県（以下「県」という。）営圃場整備事業の事前調査として、県教育委員会によって発掘調査が行われ、出土した土器や木製品等の遺物、掘立柱建物等の遺構が６世紀を中心とする古墳時代後期の農村集落に関わる大変貴重な資料であることから、当該圃場整備事業を中止し、遺跡を保存することが決定された。

このことを受け、昭和61年７月に天童市（以下「市」という。）が国指定申請を行い、翌年の昭和62年１月26日に国史跡「西沼田遺跡」として指定され、併せて当該遺跡範囲の約33,000㎡を公有化し、保存及び活用を図ることとなった。

昭和63年からは、西沼田遺跡の保存、整備及び活用に関して、有識者による「西沼田遺跡整備懇談会」が組織され、平成５年には、「西沼田遺跡整備検討委員会」に改組し、年１回又は２回の割合で検討を行ってきた。その結果、平成12年１月25日に中間答申ともいうべき経過報告書が市に対して提出され、昭和60年度の発掘調査で埋め戻した建築部材を含む木材の遺存状況や遺跡の詳細な範囲、水田や畑などの生産遺構の確認等が課題として提出された。

天童市教育委員会では、これらの課題を踏まえて、平成６年度から調査を再開し、平成９年度からは国庫補助事業として、平成14年度を除いた平成16年度までの７年間にわたり、西沼田遺跡の史跡の整備に係る調査を実施した。特に、平成11年度から平成13年度にかけて行われた当初指定地の北側に隣接する区域の調査では、水田に伴う畦畔状遺構や井堰などの生産活動に関わる貴重な遺構や遺物が確認され、平成15年８月27日付けで当該区域約12,000㎡が国指定史跡として追加指定を受け、併せて公有化を行った。

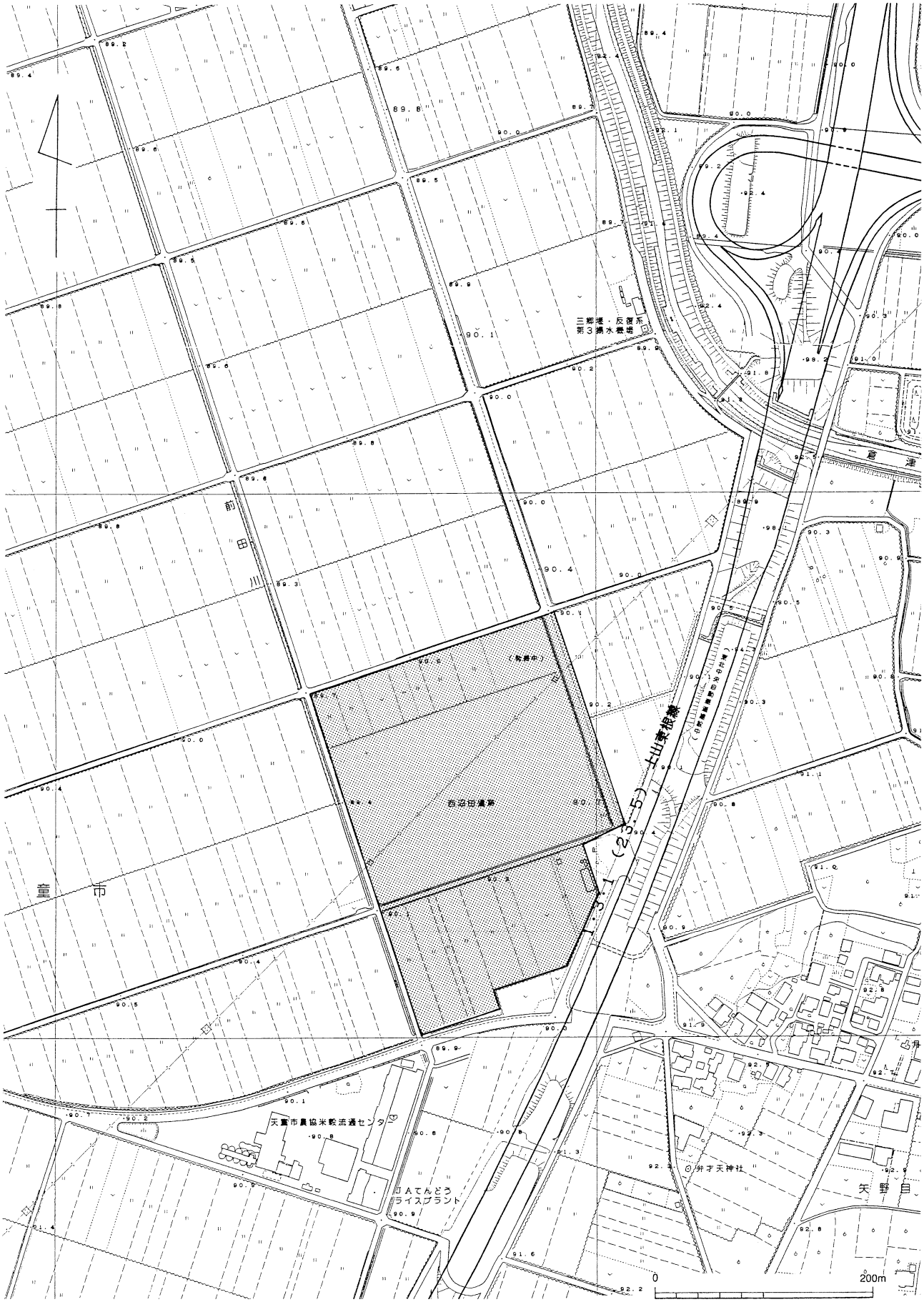
今回の報告書は、平成13年度、平成15年度及び平成16年度に、指定地及び指定地南側に隣接する区域において実施した確認調査の結果に関する報告である。

第２節　遺跡の立地と環境（第１図）

西沼田遺跡は、天童市大字矢野目字西沼田地内に所在し、市の市街地の中心部から西方約３㎞、主要地方道天童大江線（県道23号）の南側に位置しており、北緯は38°21′、東経は140°20′、標高は約90ｍである。

山形盆地は、県内のほぼ中心部に位置し、県内を縦貫する最上川は、当該盆地の西寄りを北流している。市は、この盆地の中央部に位置し、東は脊梁山脈である奥羽山脈、西は最上川、南は立谷川、北は乱川によって画されている。

立谷川及び乱川は、その水源を奥羽山脈に発し、その後、西方の最上川に流れ込み、増水時の土砂の流出により立谷川扇状地及び乱川扇状地を形成している。立谷川扇状地は、高瀬川との複合扇状地であり、当該扇状地の北半分が市域に入っている。また、乱川扇状地も半径が約11㎞の複数の支流との複合扇状地であり、その南半分が市域に入っている。



第1図　周辺地形図（S＝1：5,000）

なお、これらの扇状地の扇端部には、豊富な湧泉があるため、古くから人々の生活と密接なかかわりを持っている。

さらに、市の西方を流れる最上川の右岸には、氾濫原によって形成された、幅約１kmの帯状の微高地が続き、立谷川及び乱川の２つの扇状地に囲まれた市西域の平野部の三角形状の地域には、天童低地と呼ばれる後背湿地が広がっている。西沼田遺跡は、この天童低地の中の微高地上に立地している。

西沼田遺跡の周辺は、その東側を流れる倉津川及びかつて南東から北西方向にかけて河川があったことが確認されている旧前田川によって自然堤防状の微高地が形成されている。

この微高地は、沖積平野の特徴を良く示しており、平坦ではあるが、東から西に、また、南から北に低い傾斜がある。

西沼田遺跡周辺の土壌については、黒泥土壌が主体であり、現在も広範囲にわたって水田耕作の土地利用が図られている。地層は、シルト及び粘土の土質によって形成されているが、その基盤は、第４期完新世の固結堆積物である礫及び砂の層から成り立っている。

なお、乱川扇状地の扇端部の湧水地帯付近及び西沼田遺跡の周辺の微高地には、縄文時代から中世にかけての遺跡が数多く分布している。これは、当該微高地が比較的乾燥した気候であったことによるが、このことは、西沼田遺跡の周辺に広がる湿潤な低地が水稲農耕を発達させ、古代の農村集落の人々が暮らしていく上で非常に適した生活環境であったことを物語っている。

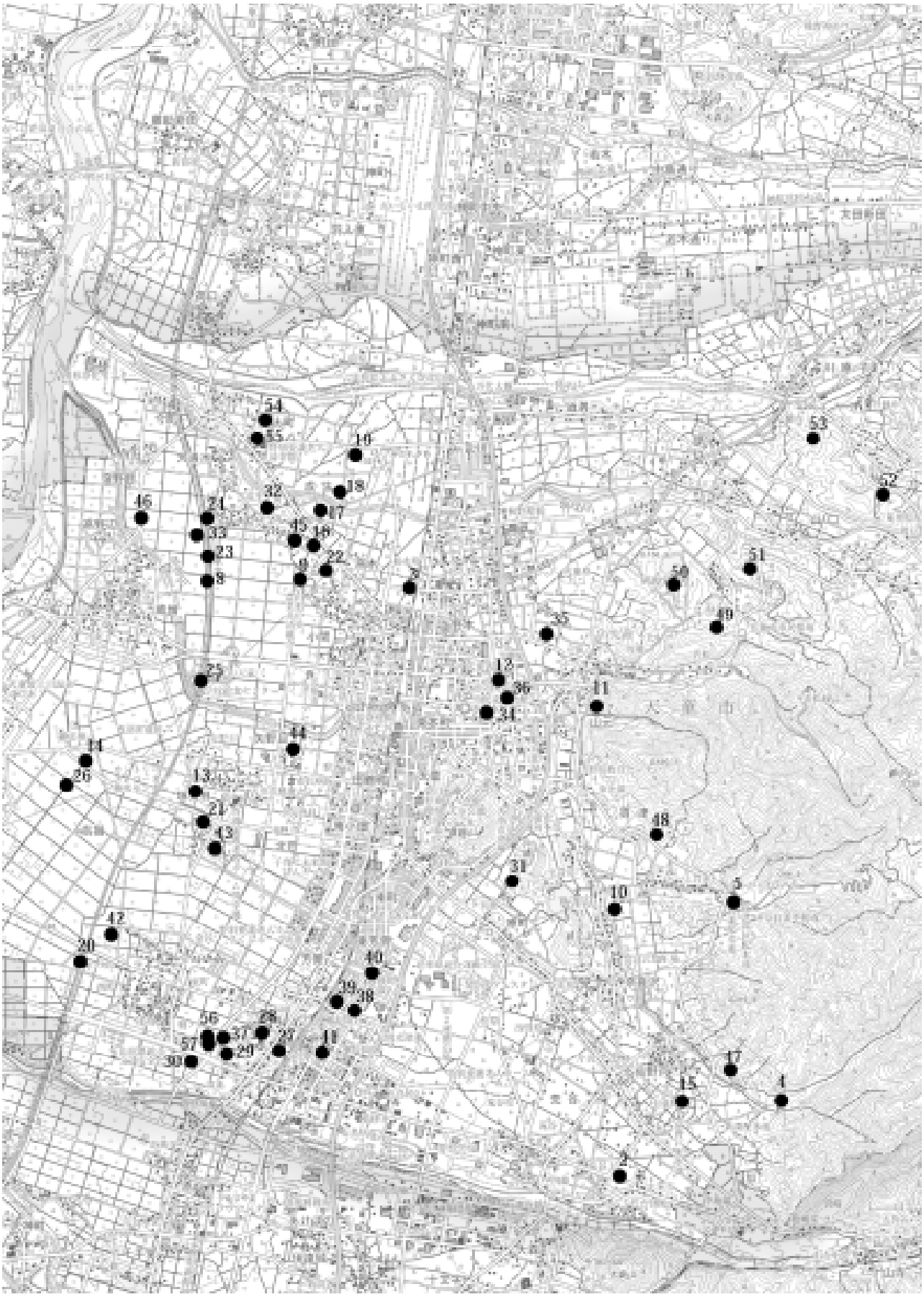
第３節　周辺遺跡と歴史的環境（第２図）

西沼田遺跡の周辺においては、東北中央自動車道相馬尾花沢線の建設に伴い、県埋蔵文化財センターによって発掘調査が行われるなど、それぞれの時代の様相が明らかになってきている。この節では、これまでに調査が実施された遺跡を中心として、西沼田遺跡の周辺の遺跡について概観しておきたい。

市内では、これまで旧石器時代の遺跡は確認されていないが、縄文時代前期の遺跡として、上荒谷（かみあらや）遺跡（２）及び柏木（かしわぎ）遺跡（３）が、また、地図外ではあるが、かくまくぼ遺跡などが確認されている。

上荒谷遺跡は、立谷川扇状地の扇頂部に位置し、出土した土器片、石鏃、土偶などから縄文時代前期初頭の遺跡であると考えられる。なお、ここから出土した土偶は、高さが7.5cmであり、頭部と両腕を胴体部に含めた素朴なものであるが、県内最古の土偶の１つである。

その後、縄文時代の中期から後期の前半にかけて、伝覚平（でんがくだいら）遺跡（４）、上貫津（かみぬくづ）遺跡（５）などが山麓の湧水地若しくは小河川の付近に、又は礼井戸（れいいど）遺跡（56）などが扇状地の湧水地に分布した。礼井戸遺跡では、市道清池南小畑線道路工事に伴い、天童市が平成27年度に発掘調査を実施し、後期の土器等の捨て場と小河川跡が検出され、多くの土器や石器、クルミなどの植物遺体、動物の骨片などのほか、柱材が出土した。また、平成10年度に県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した板橋（いたばし）１遺跡（８）からは、縄文時代中期



測量法に基づく国土地理院長承認（使用）R4JHs53-GISMAP56715号

第２図　周辺の遺跡（Ｓ＝１：50,000）

前葉の大木７ａ式の土器と縄文時代後期中葉の土器の２つの時代の遺物が出土しているが、このことは、県内では大変珍しい状況であることから、貴重な事例として注目されている。なお、縄文時代の後期の後半から晩期にかけては、高木石田遺跡（９）、白山堂遺跡（10）、毘沙門寺遺跡（11）、綿掛Ｂ遺跡（12）などが扇状地の扇端部の湧水地帯又は後背湿地上の微高地に見られるようになる。高木石田遺跡では、市道高木成生線道路工事に伴い、平成28年度に天童市が発掘調査を実施し、住居跡や埋甕を伴う複式の石組炉が確認された。さらに、西沼田遺跡の周辺の矢野目地区からは、南側に位置する矢口遺跡（13）から竪穴住居跡、土器、石器等が、西側に位置する願正壇遺跡（14）から縄文土器等が出土している。

加えて、立谷川扇状地の扇央部側縁に位置する宮田遺跡（15）からは、多くの土器や石鏃、石錘、石匙、凹石及び土製品が出土している。

縄文時代の後期の後半から晩期、弥生時代にかけての遺跡については、乱川扇状地の扇端部付近にある地蔵池Ａ遺跡（16）、金谷遺跡（17）、熊野堂前遺跡（18）、瓜小屋遺跡（19）などが成生地域の微高地に分布している。中でも、地蔵池Ａ遺跡からは、炉と思われる集石遺構を伴った住居跡の一部が検出されたほか、やや離れた地点から埋甕の遺構も検出されている。

また、立谷川扇状地の前縁部に位置する砂子田遺跡（20）からも縄文時代後期の集落跡が検出され、その西側から埋甕と思われる深鉢が大量に出土している。

古墳時代の遺跡については、立谷川及び乱川扇状地の扇端部から天童低地まで、最上川の氾濫原の東端に沿って広く分布している。

古墳時代前期の遺跡としては、塚野目Ａ遺跡（21）、高木原口遺跡（22）及び板橋２遺跡（23）、また、中期では、同じく板橋２遺跡、的場遺跡（24）及び蔵増押切遺跡（25）が、後期では、願正壇遺跡、鍋田遺跡（26）などが上げられる。なお、板橋１遺跡、板橋２遺跡、蔵増押切遺跡及び砂子田遺跡は、東北中央自動車道相馬尾花沢線の建設事業に伴い、県埋蔵文化財センターが発掘調査を行った遺跡であり、板橋２遺跡からは、第２次発掘調査において、西沼田遺跡よりも古い古墳時代前期の塩釜式の土師器が竪穴住居跡から出土し、また、第３次発掘調査においては、古墳時代中期の南小泉式の土師器が炉跡を伴う竪穴住居跡から出土している。なお、的場遺跡からも、同じく古墳時代中期の土師器が炉跡を伴う竪穴住居跡から出土しているが、この遺跡は、前述した板橋２遺跡より新しい時代の遺跡であると推測される。さらに、蔵増押切遺跡においては、古墳時代中期の竪穴住居跡が河川跡を挟んで帯状に伸びている様子を見ることができる。

古墳については、高擶地域の上遠矢塚古墳（27）が、近年までわずかに墳丘の面影を残していたが、現況は残されていない。なお、この古墳の西側には、下遠矢塚古墳（28）があったと言われているが、明治35年に旧高擶小学校が建設された際に土砂として利用されため、失われてしまっている。

また、上遠矢塚古墳の南側にある清池八幡神社の近くに火矢塚１号古墳（29）及び火

矢塚２号古墳（30）が分布していたと言われているが、昭和27年ごろに実施された圃場整備事業に伴い失われ、現在では、明治初年に発行された地籍図にその存在を確認することができるのみとなっている。なお、火矢塚１号古墳からは、割竹形木棺が出土したと言われているが、その真偽は定かではない。

上遠矢塚古墳については、昭和50年及び昭和51年に市史編さん室によって発掘調査が行われた結果、直径24ｍ前後の円墳であることが分かり、また、外周には、幅が約５ｍ、深さが0.5ｍから1.2ｍ程度の周濠が巡っていたこと及び墳丘の崩れを防ぐため、版築により土を盛り固めた後、墳丘の下部と上部の墳頂を囲むように幅約１ｍの礫石帯が葺石状に張り付けられていたことが明らかとなった。

しかしながら、明治12年の県道改修の際に行われた発掘調査において出土した、甲冑、刀剣、頭蓋骨、歯骨、甕等の遺物については、現在、その所在が不明であり、ただ当時の村役人から天童警察分署へ提出された書類の中に記述が見えるのみである。

古墳時代の晩期には、高木原口遺跡、願正壇遺跡などの低湿地のほか、山麗又は河川の谷奥部に至るまで遺跡が分布するようになり、古墳の形態についても、八幡山古墳（31）又は成生古墳群（32）のような群集墳が造られ始めている。

奈良時代に入って律令体制が整備されると、市内においても、８世紀の後半には条里制が施行されるようになったと推測されるが、そのことは、三条条里遺構（33）又は千刈条里遺構（34）にその名残を見ることができるほか、明治初年に発行された地籍図等において、成生地域、貫津地域、高擶地域などに広くその痕跡を見ることができる。

集落跡については、老野森の光戒壇遺跡（35）、温泉の北側にある千刈遺跡（36）の糠塚を含む一帯と清池の西側に位置する清池西遺跡（37）、芳賀の東側に位置する桜段遺跡（38）、岡屋敷遺跡（39）、芳賀古屋敷遺跡（40）、現在の長岡団地内にある中里Ｂ遺跡（41）などの立谷川扇状地の扇央部又は中袋遺跡(42)、塚野目Ｂ遺跡(43)、小矢野目遺跡(44)、地蔵池Ｂ遺跡（45）、蔵増北Ｂ遺跡（46）などの扇状地の扇端部に多く分布している。また、高擶東遺跡（57）では、市道清池南小畑線道路工事に伴い、天童市が平成27年度に発掘調査を実施し、平安時代の掘立柱建物跡が確認され、柱穴から柱材が出土した。なお、同時代の窯跡については、市内では、石倉窯跡（47）、貫津御阿弥陀窯跡（48）、二子沢窯跡群（49）、原崎古窯跡群（50）、瀬戸山古窯跡（51）、荒井原古窯跡（52）、谷地中窯跡（53）などが確認されている。

中世においては、蔵増押切遺跡、二階堂遺跡（54）、高野坊遺跡（55）などの成生庄に関係する遺跡が目立っている。成生庄は、現在の市のほぼ全域をその区域としており、安元２年（1176）の「八条院目録」に「出羽国大山成生」として記載されていることから、12世紀ごろには、すでに存在していたと考えられる。

その中でも、大清水地区の北側に位置する二階堂遺跡は、１辺が120ｍ、つまり、方１町の面積であり、かつ、その周りを幅約12ｍの空濠で囲まれている。また、「二階堂」、「二階堂池」などの地名が近くに現存していることから、鎌倉幕府の地頭であった二階堂氏の

館跡又は成生庄の政庁跡ではないかと考えられている。

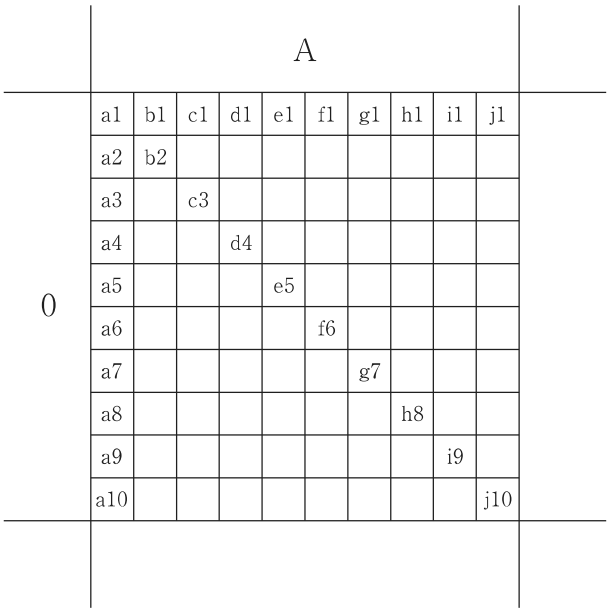
また、二階堂遺跡のすぐ南側には高野坊遺跡があり、平成８年度に市教育委員会が行った発掘調査において、成生庄や時宗の動向を示した墨書礫が多量に出土している。

さらに、二階堂遺跡の西側にある蔵増押切遺跡では、古墳時代の遺物や遺構が出土した区域よりもさらに南側の地区から、掘立柱建物跡や井戸跡などが検出され、当時の有力豪族の屋敷跡ではないかと推測されている。

第Ⅱ章　調査の概要

第１節　調査の方法及び経過（第４図）

グリッド設定は、指定区域内及び南側隣接地に対して40ｍ方眼の大グリッドを設定し、その東西方向にアルファベット（大文字）を、南北方向に数字をそれぞれ付した。また、大グリッドに４ｍ方眼の小グリッドを設定し、その東西方向にアルファベット（小文字）を南北方向に数字をそれぞれ付して呼称した。（第３図）



第３図　グリッド設定図

１　Ⅴ次調査（平成13年度）

発掘調査は、平成13年10月２日から同年12月６日まで、指定地の西側区域と北側区域において実施した。

指定地の西側区域には、指定地中央部に位置する昭和60年度の緊急発掘調査で確認された集落域の西端の把握を目的として、２ｍ幅のトレンチを東西方向に２本設定し、南から１トレンチ、２トレンチと呼称した。また、遺構・遺物の分布状況により１トレンチの一部に拡張区を設定した。さらに、北側区域には、平成11年度の第Ⅲ次発掘調査及び平成12年度の第Ⅳ次発掘調査で確認された河川及び水田遺構の範囲の確認を目的として、南北方向に２ｍ幅のトレンチを４本設定し、西から順に３～６トレンチと呼称した。さらに、指定地の中央部にテストピットを２箇所設定した（第５図）。

２　Ⅵ次調査（平成15年度）

発掘調査は、平成15年８月４日から同年11月20日まで実施した。

西沼田遺跡では、これまでの調査によって、集落の東側を大きく迂回して北流する河川跡が確認されていることから、河川跡の南側に当たる指定地の東南側区域に、水田等生産遺構の分布状況の確認を目的として、２ｍ幅の十字トレンチを設定した。トレンチはそれぞれ東西方向を１トレンチ、南北方向を２トレンチと呼称し、遺構・遺物の分布状況により拡張区を設定した。また、平成12年度の第Ⅳ次発掘調査で確認された井堰跡から西へ導入される水路の有無を確認するため、南北方向に２ｍ幅のトレンチを４本設定し、東から順に３～６トレンチと呼称した。（第６図）

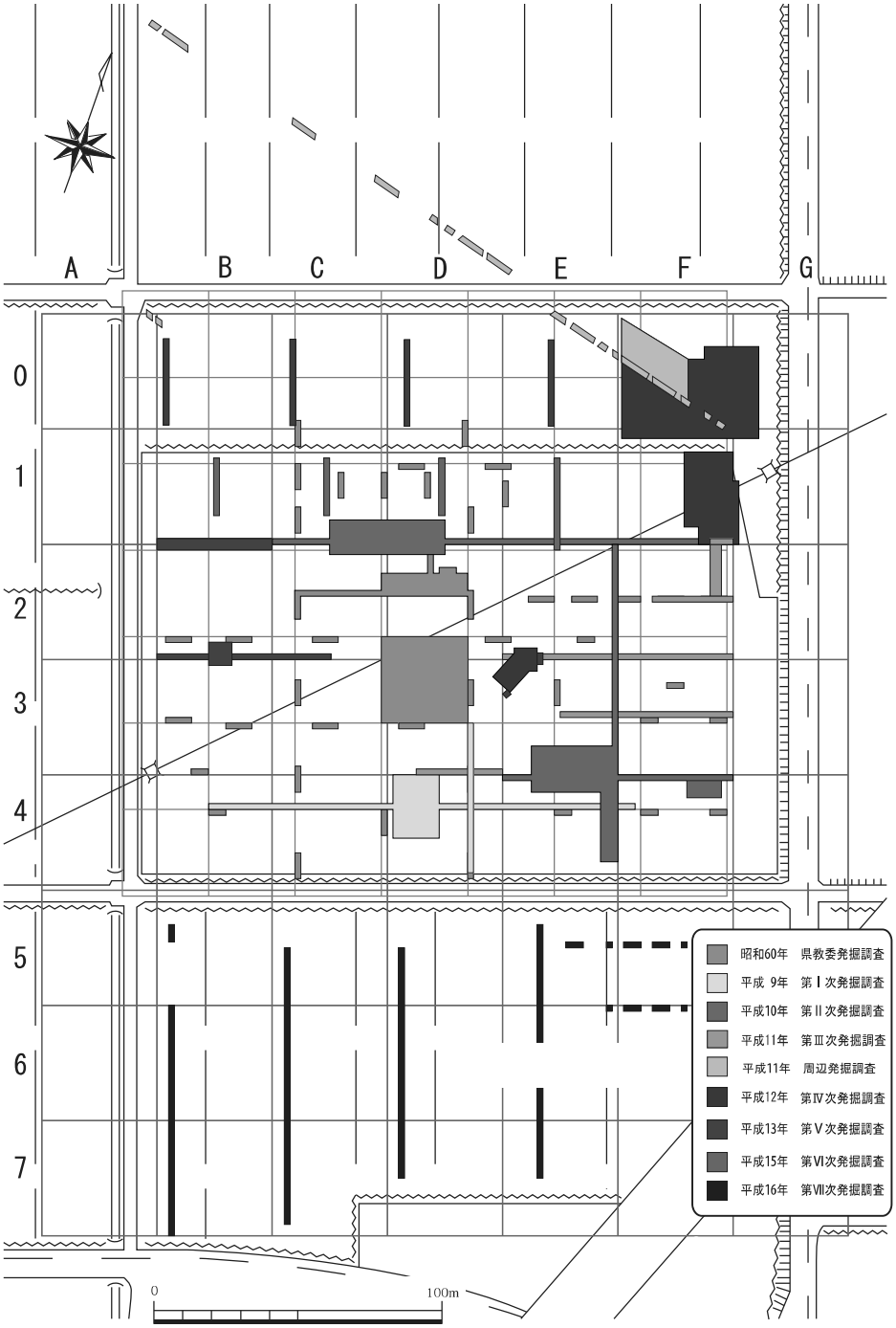
３　Ⅶ次調査（平成16年度）

発掘調査は、平成16年10月７日から同年12月３日まで、指定地の南側隣接地における

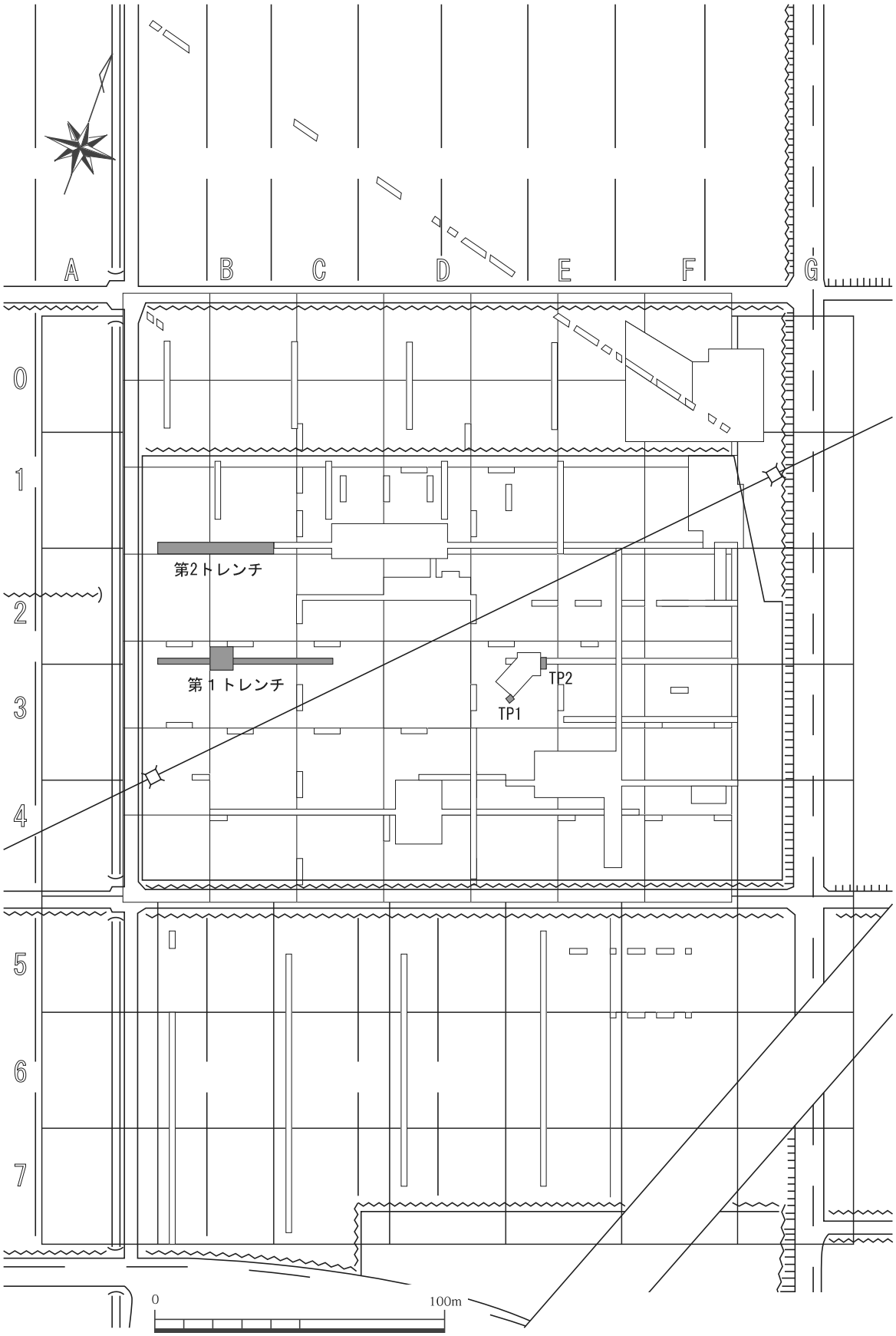
遺構・遺物の範囲確認を目的に実施した。

調査区は、事前に行った土地所有者への聞き取り調査などから旧地形を推定し、東側区域には、東西方向に２ｍ幅のトレンチを２本設定し、北から順に１トレンチ、２トレンチと呼称した。また、西側区域には、南北方向に２ｍ幅のトレンチを４本設定し、東から順に３～６トレンチと呼称した。（第７図）

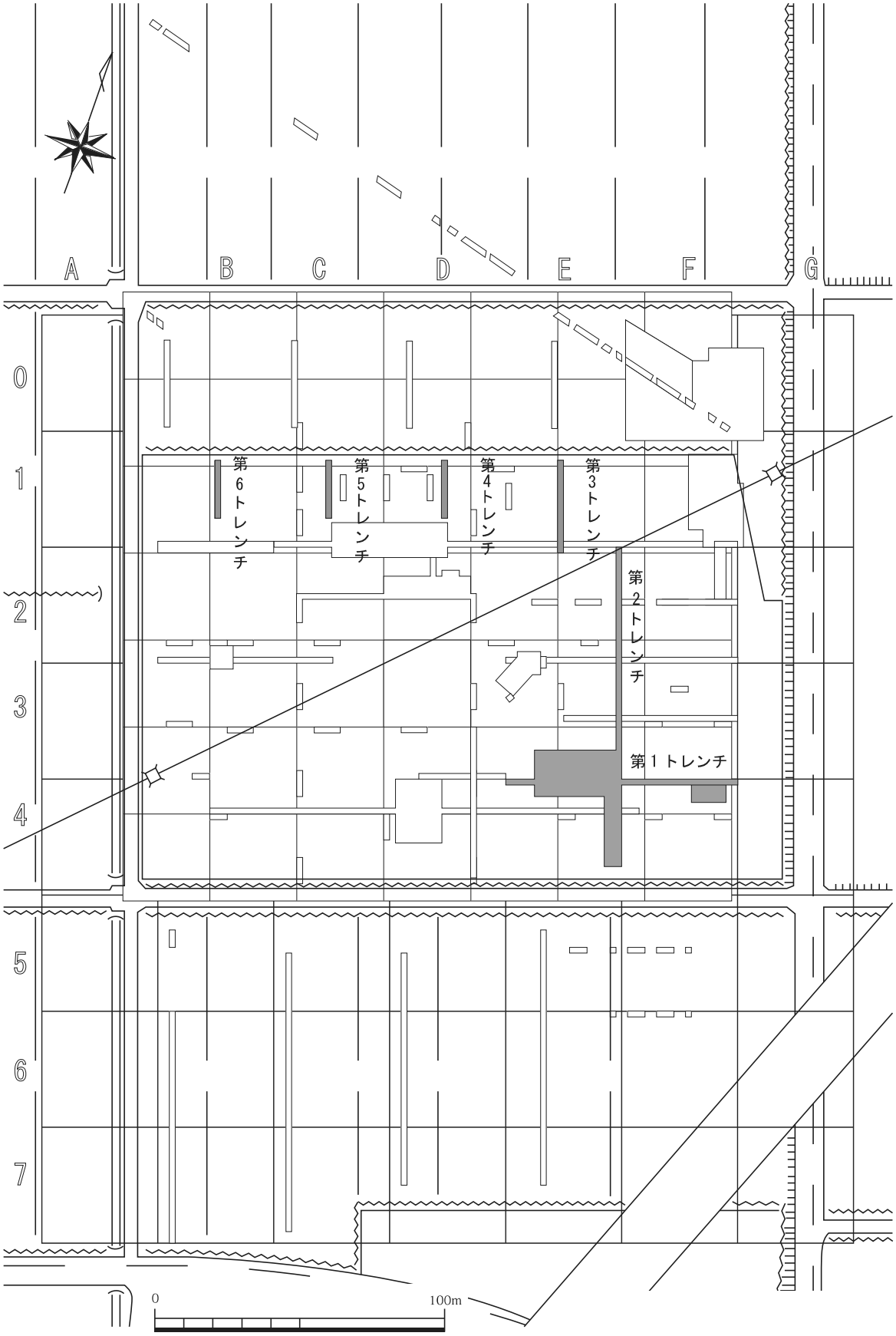
調査は、各トレンチに対して、60㎝幅のサブトレンチを設け、土層観察を行った後に、遺構が確認された地点において面的な調査を実施した。



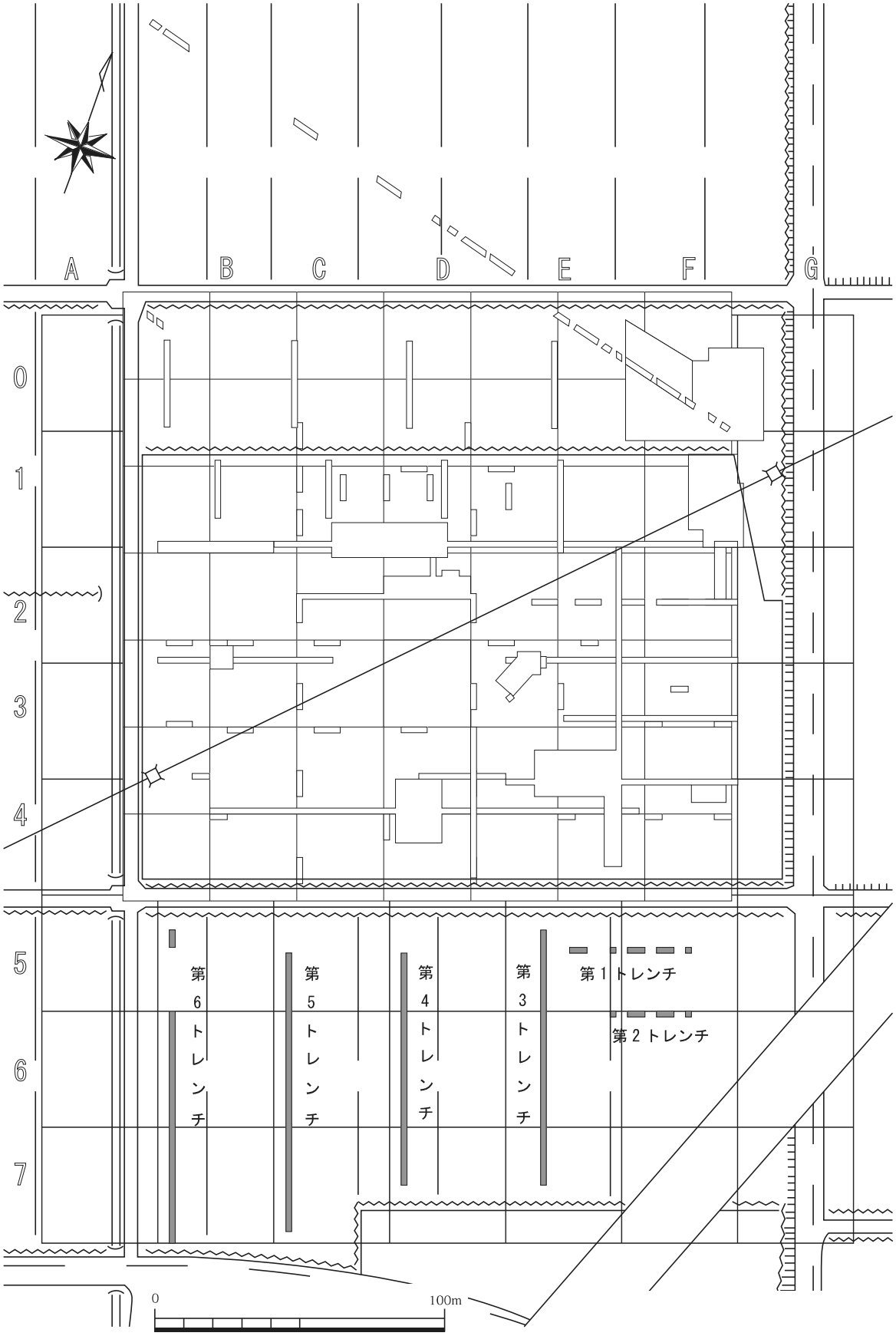
第４図　発掘区設定図(1)全体図



第５図　発掘区設定図(2)Ⅴ次調査区



第６図　発掘区設定図(3)Ⅵ次調査区



第７図　発掘区設定図(4)Ⅶ次調査区

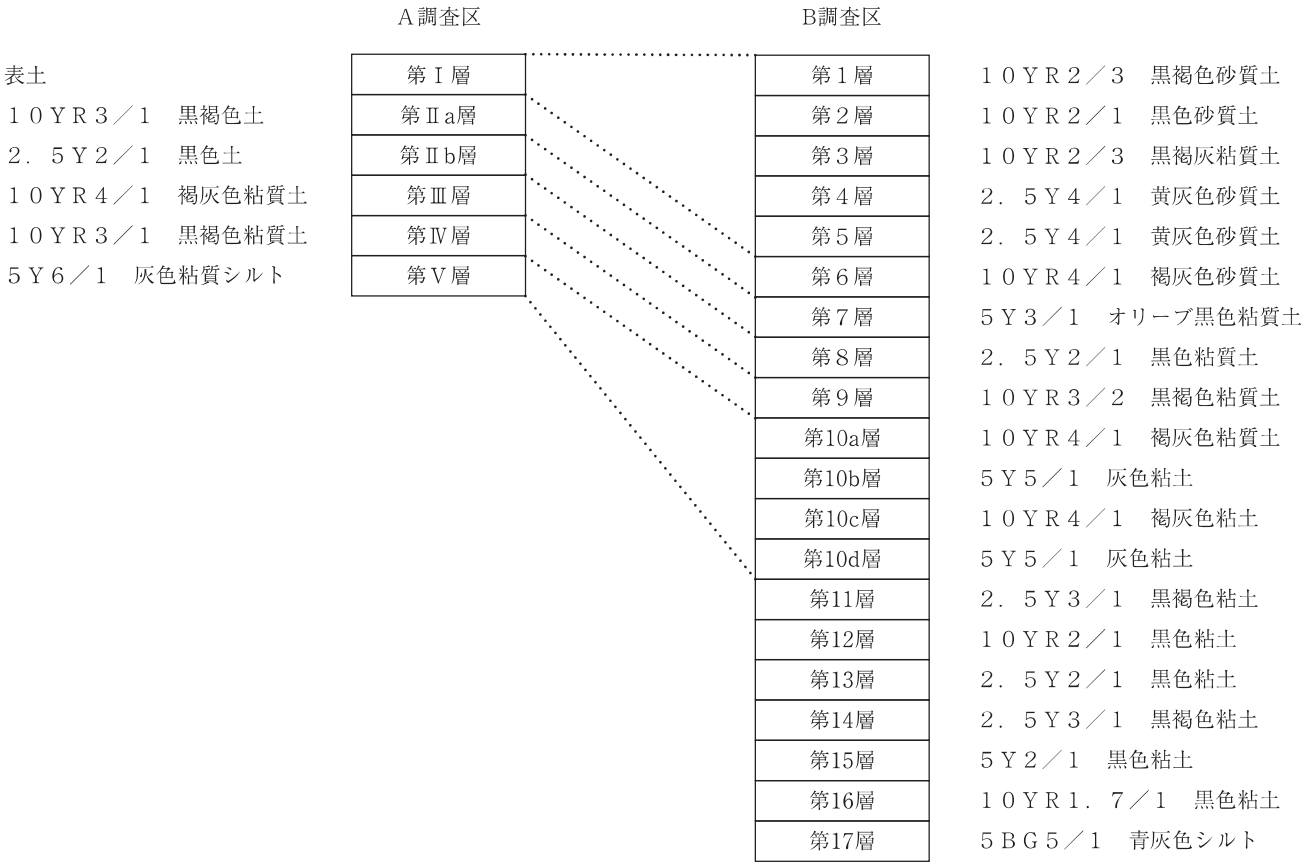
第２節　基本層序（第８図）

基本的な堆積状況は、第Ⅰ層2.5Ｙ４／２　黒色土、第Ⅱ層５Ｙ２／１　黒色粘質土、黄褐色砂層、赤褐色砂層、灰褐色砂層、第Ⅲ層7.5Ｙ２／１　黒色土、第Ⅳ層7.5Ｙ３／２　オリーブ黒色土、第Ⅴ層7.5Ｙ５／１　灰色粘土である。第Ⅱ層については、分層可能なところのみａ、ｂ層に分層している。

第Ⅰ層が表土、第Ⅱ層が奈良・平安時代、第Ⅲ層が古墳時代の遺物包含層である。平成12年度の調査の際にテフラ分析を行ったところ、第Ⅱ層中に十和田ａテフラ（915年）が堆積していることが分かった。また、第Ⅲ層中からもテフラ粒子が検出され、榛名二ツ岳伊香保テフラ（６世紀中葉）の可能性が指摘されている。(註１) 第Ⅴ層は地山である。

なお、平成11年度の発掘調査からは、層序区分を17層に分層している。

（註１）　株式会社古環境研究所2002「西沼田遺跡の自然化学分析」『天童市西沼田遺跡－周辺発掘調査報告書－』天童市埋蔵文化財調査報告書第28集



第８図　基本層序

第Ⅲ章　遺構及び遺物

第１節　遺構

１　Ｖ次調査

⑴　第１トレンチ

調査区からは、多くの建築部材、広範囲に広がる炭化米の集積、掘立柱建物跡（ＳＢ16）などが確認された。

建築部材は、Ｂ２－ｅ10区からＣ３－d10区付近にかけて検出され、Ｂ２－ｅ10区より西からはほとんど検出されなかった（第９図）。また、建築部材と同一の範囲から、鍬等の木製品や多量の土器群も出土している。土器は、土師器がほとんどで、坏、高坏、甕等で構成される。

Ｂ２－ｆ10区からＢ２－ｇ10区付近で、広範囲に炭化米が集積していたことから、拡張区を設け確認したところ、炭化米の下から打込式の柱で構成された掘立柱建物跡が検出された。炭化米は、籾殻がついたままの状態で、10cmほど堆積していた。

掘立柱建物は、２間×２間の総柱で、中央の中通りのみ３間で構成された特殊な構造をしていた。打込式の柱は、直径13cmほどで、その深さは深いもので確認面から160cmほど打ち込まれていた（第10図）。

⑵　第２トレンチ（第12図）

２トレンチでは、主に水田遺構の検出を目的として調査を行った。

Ｂ２－ｄ１区で確認された畦畔状遺構は、幅120cm、高さ20cmの大規模なもので、西側から土を寄せ盛土を行っている。この畦畔状遺構の下層からは、径160cm、深さ30cmの土坑が確認されている。土坑からの遺物の出土はない。（第13図）

Ｂ２－ｆ１区の畦畔状遺構は、幅100cm、高さ５cmで、土層断面を確認したところ、東側から盛土を行っていることが分かった。

いずれの遺構も、同一層面から明瞭な比高差で検出されたものではあるが、水田土壌の特徴が不明瞭であり、トレンチ調査での検出であることから、面的な広がりとして捉えることができないため、明確に水田畦畔とすることは難しい。

畦畔状遺構と考えられる高まりは、そのほかにも、Ｂ２－ａ１区からＢ２－ｆ１区で数条確認されているが、幅が狭く比高差も明確ではないことから、畦畔状遺構と断定するまでには至っていない。

⑶　第３・第４・第５・第６トレンチ

第３トレンチ

第３トレンチのほとんどは、古墳時代の包含層のさらに下位層まで達する削平を受けていたため、遺構面の確認調査は行えなかったが、トレンチの北端で溝跡が検出さ

れたため、この箇所のみ確認を行った。

溝の方向は、北東－南西の方向を示していた。溝の底面から打製石器３点が出土している。

第４・第５トレンチ

第４トレンチ及び第５トレンチは、削平が著しく土層断面の作成のみを行い、平面調査は中止した。

第６トレンチ

第６トレンチは、中央で丸太材により区画され、この丸太材を境にして、南側と北側の同一層に約10㎝の比高差が生じていた。丸太材は北東－南西方向に配され、掘方を伴っていた。

南側については、面的に広がる炭化米の集積が確認され、この炭化米に隣接して、地山の高まりと、それに伴う落ち込みが確認されているが、畦畔状遺構の可能性は低く、自然地形の状態と推測される。落ち込みからは木材が検出されているが人為的に作業が行われた痕跡は確認されなかった。

北側からは１ｍ四方の方形の落ち込みが確認され、この中から柱穴が確認されている。水田の可能性も考えられるが、連続した広がりは見られず、遺構の性格は不明である。

(4) テストピット（ＴＰ１・ＴＰ２）

テストピットの調査結果については、平成28年度に刊行した「天童市西沼田遺跡－第Ⅳ次発掘調査報告書（2017）－」で報告していることから、本書では概要のみ報告する。

テストピットは、平成12年度に実施した第Ⅳ次発掘調査時に、指定地のほぼ中央部に位置する昭和60年度の調査区に対して東側にあたるＥ２－ａ10区からＥ３－ｂ３区を中心に設置した120㎡ほどの調査区に連続するような形で設定した。

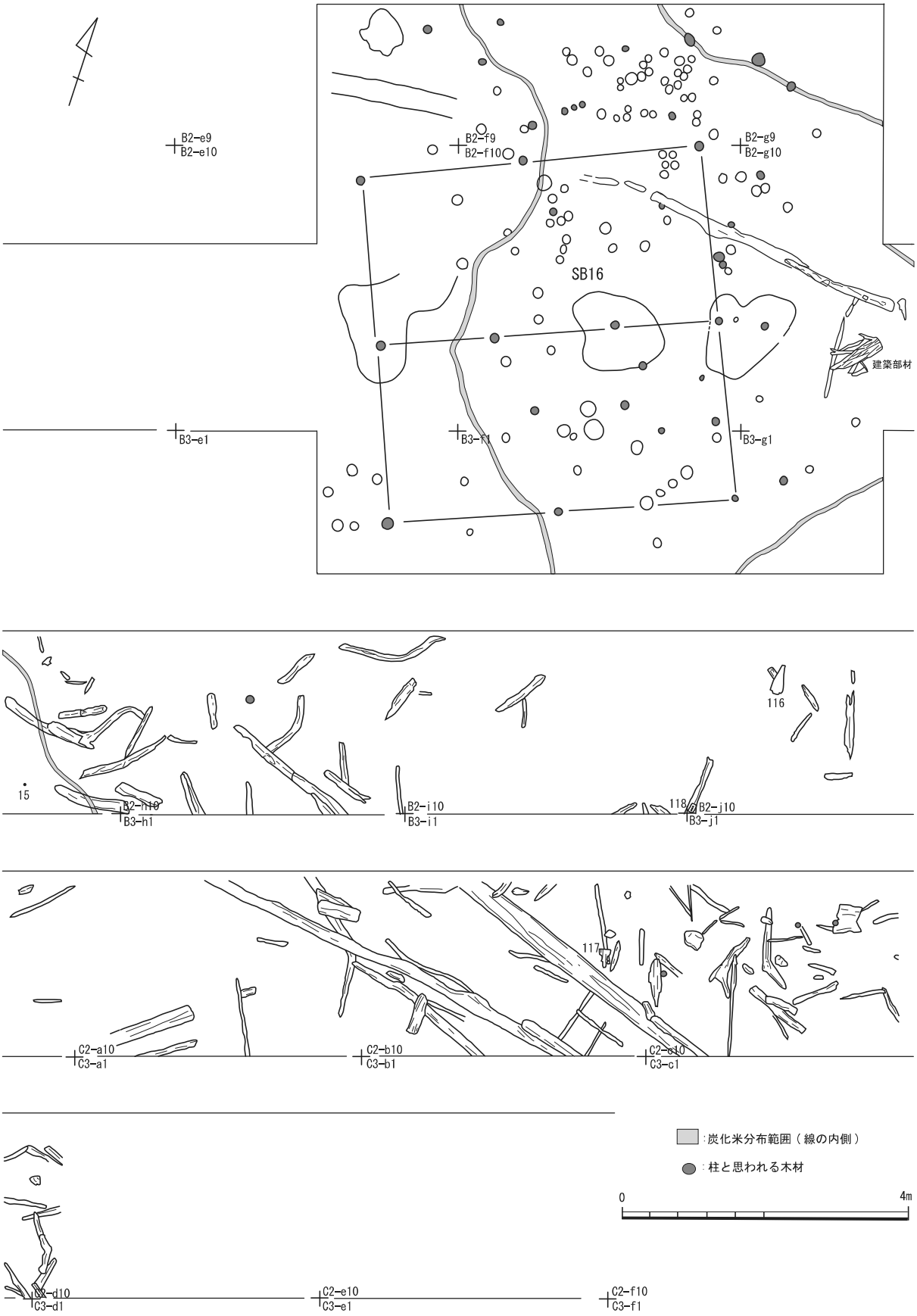
テストピット１

テストピット１の調査は、第Ⅳ次発掘調査で検出された柵と推定される径10～15㎝の丸太材の広がりの確認と、柵を建てた際の掘方、柱穴等の存在の確認を目的としたもので、Ｅ３－ａ４に設定した。根太状に敷き詰められた建築部材が出土したが、第Ⅳ次発掘調査で検出された丸太材と連続する遺構は確認されなかった。

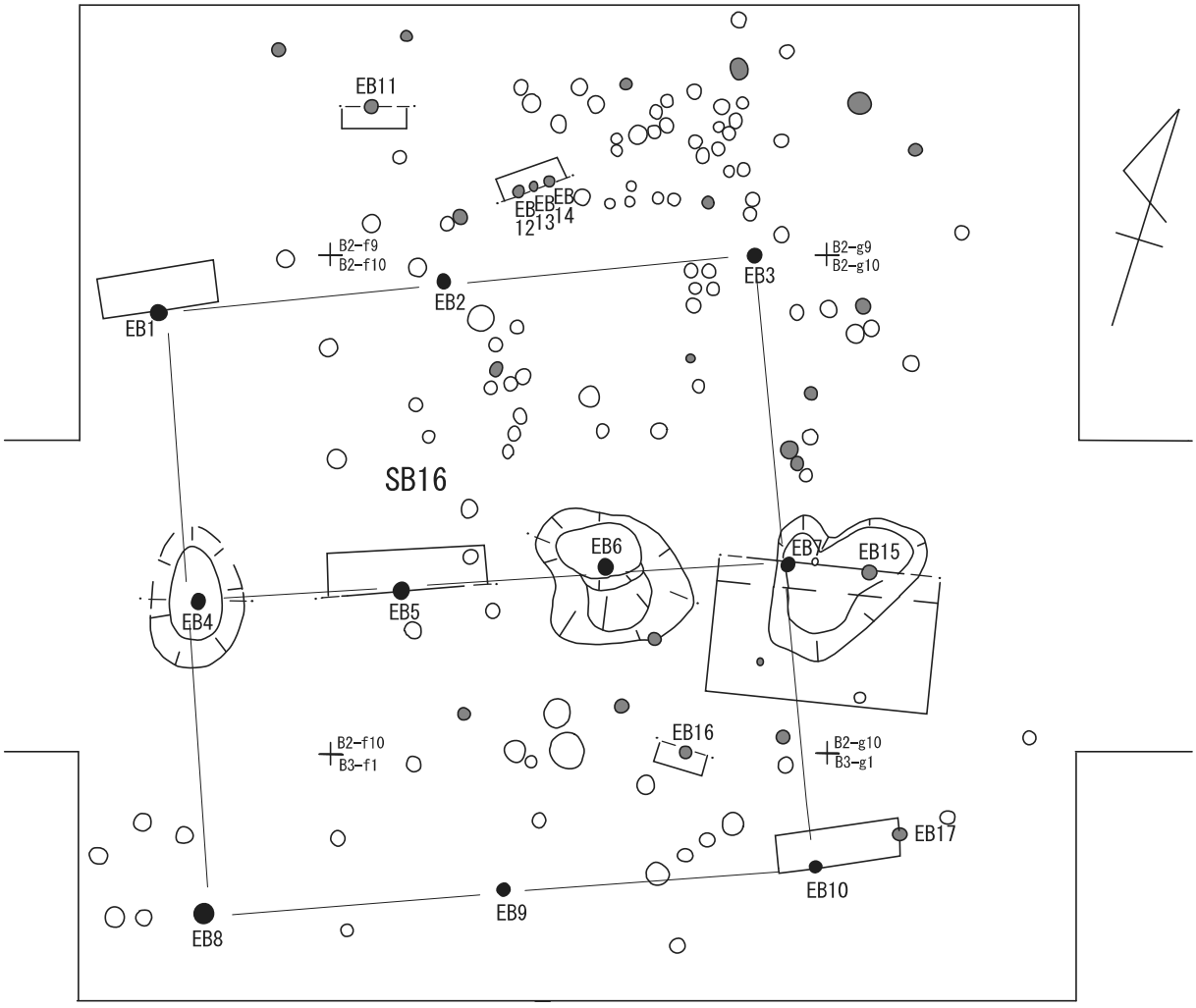
テストピット２

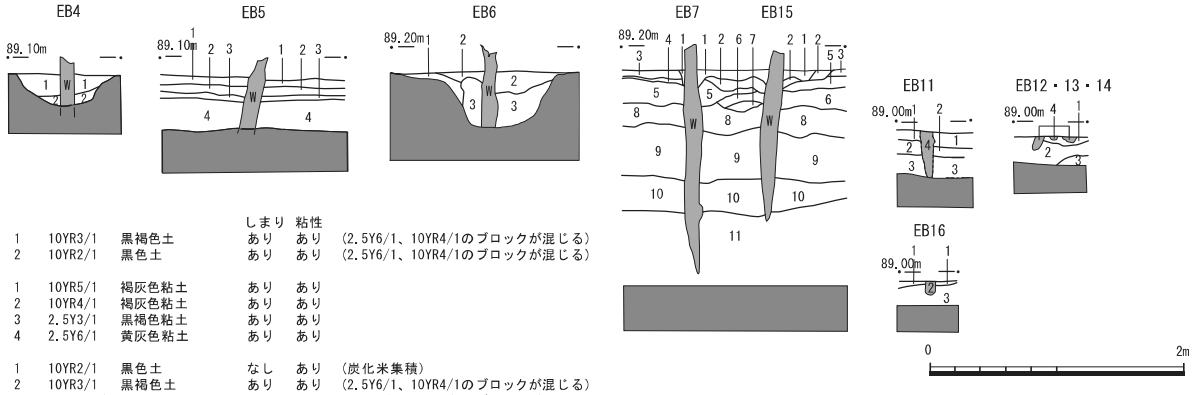
テストピット２は、第Ⅳ次発掘調査で検出された建物跡について、東側の在り方を確認することを目的として、第Ⅳ次発掘調査の調査区の東端に連続するＥ２－ｄ10に設定した。

この調査によって建物跡の角に当たる柱跡が確認できたことから、２間×１間の建物であったことを確認することができた。



第９図　Ｖ次調査区第１トレンチ遺構検出状況図

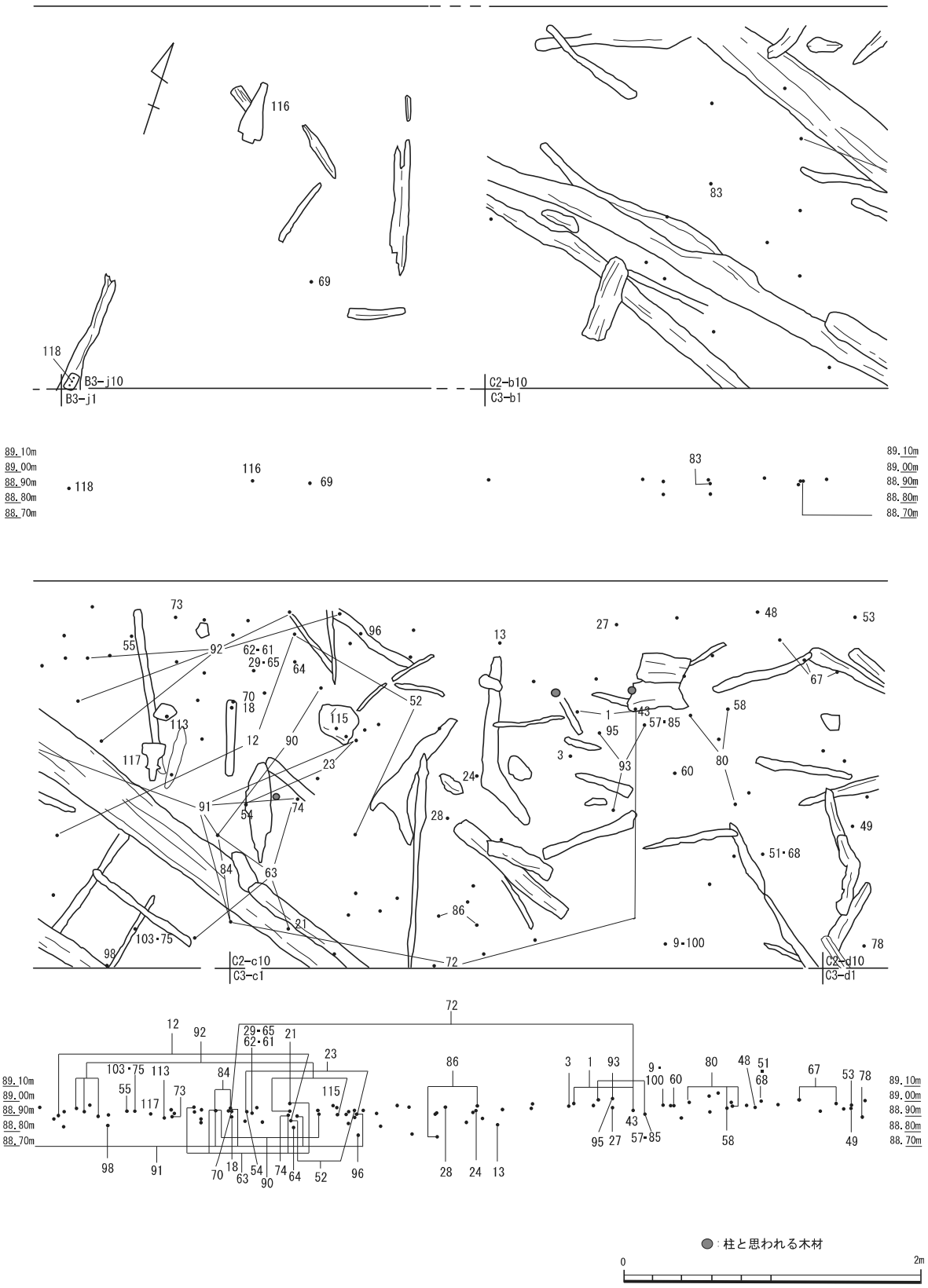




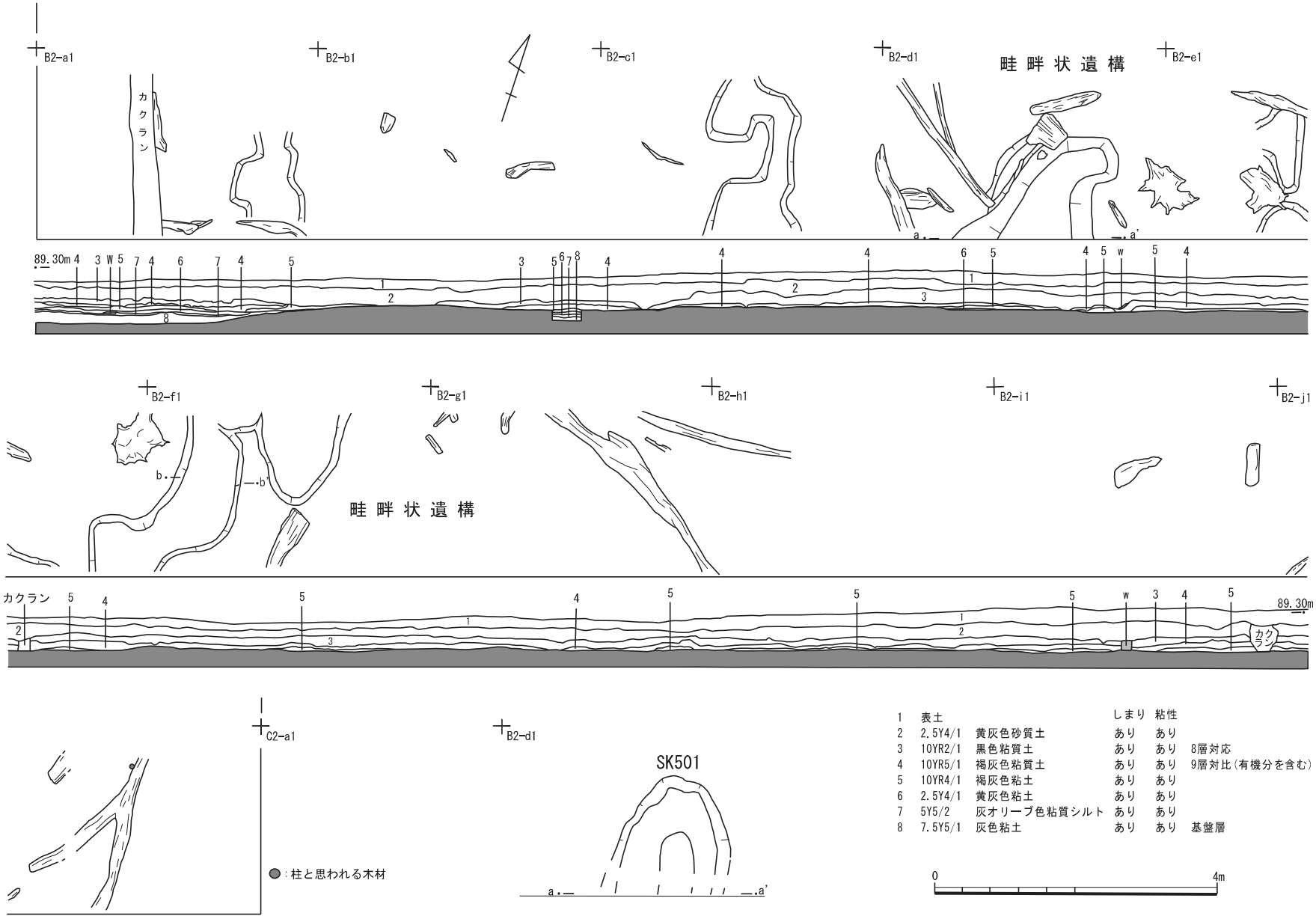
				しまり	粘性	
EB4	1	10YR3/1	黒褐色土	あり	あり	(2.5Y6/1、10YR4/1のブロックが混じる)
	2	10YR2/1	黒色土	あり	あり	(2.5Y6/1、10YR4/1のブロックが混じる)
EB5	1	10YR5/1	褐灰色粘土	あり	あり	
	2	10YR4/1	褐灰色粘土	あり	あり	
	3	2.5Y3/1	黒褐色粘土	あり	あり	
	4	2.5Y6/1	黄灰色粘土	あり	あり	
EB6	1	10YR2/1	黒色土	なし	あり	(炭化米集積)
	2	10YR3/1	黒褐色土	あり	あり	(2.5Y6/1、10YR4/1のブロックが混じる)
	3	10YR1.7/1	黒色土	あり	あり	(2.5Y6/1、10YR4/1のブロックが混じる)
EB7・EB15	1	10YR2/1	黒色粘土	あり	あり	(2.5Y6/1、10YR4/1のブロックが混じる)
	2	10YR3/1	黒褐色粘土	あり	あり	(2.5Y6/1、10YR4/1のブロックが混じる 1層よりブロックが大きく多い)
	3	10YR5/1	褐灰色粘土	あり	あり	(地山)
	4	2.5Y5/1	黄灰色粘土	あり	あり	(腐植物が混じる)
	5	10YR4/1	褐灰色粘土	あり	あり	
	6	2.5Y4/1	黄灰色砂質土	あり	あり	(細砂が混じる)
	7	2.5Y4/2	暗灰黄色砂質土	あり	なし	(粘砂)
	8	2.5Y6/1	黄灰色粘土	あり	あり	(若干腐食物が混じる)
	9	10BG1.7/1	青黒色粘土	あり	あり	(植物質を含む)
	10	10BG2/1	青黒色粘土とN6/1灰色粘土との互層			(植物質を含む)
	11	N4/1	灰色粘土	あり	あり	(酸化物が若干混じる)

				しまり	粘性
EB11	1	10YR5/1	褐灰色粘土	あり	あり
	2	10YR4/1	褐灰色粘土	あり	あり
	3	2.5Y6/1	黄灰色粘土	あり	あり
	4	抜き取り痕			
EB12・13・14	1	10YR5/1	褐灰色粘土	あり	あり
	2	10YR4/1	褐灰色粘土	あり	あり
	3	2.5Y6/1	黄灰色粘土	あり	あり
	4	抜き取り痕			
EB16	1	10YR5/1	褐灰色粘土	あり	あり
	2	抜き取り痕		あり	あり
	3	10YR4/1	褐灰色粘土	あり	あり

第10図　Ⅴ次調査区第1トレンチ16号建物跡遺構検出状況・柱跡断面図



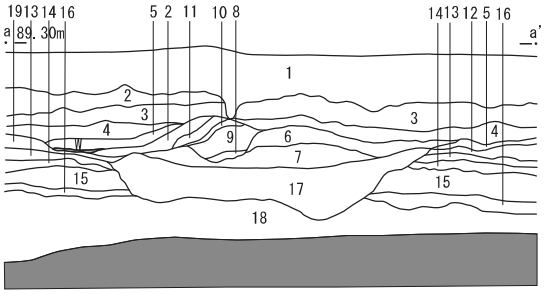
第11図　Ⅴ次調査区第1トレンチ遺物分布図



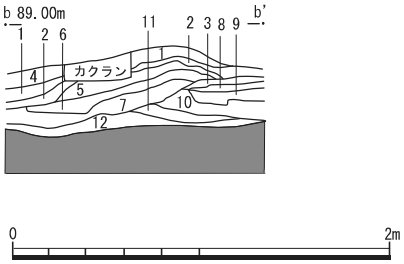
			しまり	粘性	
1	表土				
2	2.5Y4/1	黄灰色砂質土	あり	あり	
3	10YR2/1	黒色粘質土	あり	あり	8層対応
4	10YR5/1	褐灰色粘質土	あり	あり	9層対比(有機分を含む)
5	10YR4/1	褐灰色粘土	あり	あり	
6	2.5Y4/1	黄灰色粘土	あり	あり	
7	5Y5/2	灰オリーブ色粘質シルト	あり	あり	
8	7.5Y5/1	灰色粘土	あり	あり	基盤層

第12図　Ⅴ次調査区第２トレンチ遺構検出状況・土層断面図

第２トレンチ
ＳＫ５０１



第２トレンチ
畦 畔 状 遺 構



a−a'	1	表土		しまり	粘性
	2	10YR3/1	黒褐色砂質土	あり	あり	(酸化物を含む 床土)
	3	10YR1.7/1	黒色粘質土	あり	あり	(若干の酸化物を含む 8層対比)
	4	10YR2/1	黒色粘質土	ややなし	あり	(腐植物を含む 8層対比)
	5	2.5Y4/2	暗灰黄色土	ややなし	あり	(腐植物を含む 9層対比)
	6	2.5Y4/1	黄灰色土	ややなし	あり	(10YR6/1、10YR2/1、2.5Y5/2のブロックが混じる)
	7	2.5Y3/1	黒褐色土	あり	あり	(10YR6/1、10YR2/1のブロックが混じる)
	8	10YR2/1	黒色粘土	あり	あり	
	9	10YR4/1	褐灰色粘土	あり	あり	(2.5Y6/1のブロックが若干混じる)
	10	10YR5/1	褐灰色粘土	あり	あり	(2.5Y6/1のブロックが若干混じる)
	11	10YR4/1	褐灰色粘土	ややなし	あり	(2.5Y6/1の微小ブロック、10YR3/1の微小ブロックが若干混じる)
	12	10YR5/1	褐灰色粘土	あり	あり	(腐植物、2.5Y6/1のブロックが若干混じる)
	13	10YR4/2	灰黄褐色土	ややなし	あり	(腐植物を含む 上部に10YR2/1のブロックが層状に若干入る 19層と対比)
	14	10YR5/1	褐灰色粘土	あり	あり	(10YR2/1のブロックが若干混じる)
	15	10YR4/1	褐灰色粘土	あり	あり	(中間に10YR2/1のブロックが間層状に入る)
	16	10YR2/1	黒色粘土	あり	あり	
	17	10YR1.7/1	黒色土	ややなし	あり	(2.5Y6/1、10YR5/1、2.5Y4/1のブロックがまだらに混じる 水性堆積)
	18	2.5Y6/1	黄灰色粘土	あり	あり	(基盤層)
	19	10YR2/1	黒色粘土	ややなし	あり	(腐植物を含む)
b−b'	1	5Y6/1	灰色粘土	あり	あり	(2.5Y3/1のブロックが混じる)
	2	2.5Y3/1	黒褐色土	ややなし	ややなし	(腐植土)
	3	2.5Y5/1	黄灰色粘質土	あり	あり	(若干の腐植物を含む)
	4	2.5Y5/2	暗灰黄色土	ややなし	ややなし	(腐植土)
	5	5Y5/1	灰色粘土	あり	あり	(5Y3/1のブロック、2.5Y3/1のブロックが混じる)
	6	5Y3/1	オリーブ黒色粘質土	あり	あり	(若干の腐植物を含む)
	7	2.5Y3/1	黒褐色粘質土	あり	あり	(上部に10YR2/1のブロックが層状に入る 若干の腐植物が混じる)
	8	10YR3/1	黒褐色土	ややなし	ややなし	(腐植土)
	9	2.5Y5/1	黄灰色粘質土	あり	あり	(2.5Y4/1のブロックが若干混じる)
	10	2.5Y4/1	黄灰色粘質土	あり	あり	(若干の腐植物が混じる)
	11	2.5Y3/1	黒褐色粘質土10層から漸位的に変わる			
	12	10YR2/1	黒色粘質土	あり	あり	(若干の腐植物が混じる)

第13図　Ｖ次調査区第２トレンチ遺構土層断面図（ＳＫ501・畦畔状遺構）

2　Ⅵ次調査（第14図）

⑴　東南側調査区（第15図）

指定地の東南側に設定したことから、Ⅴ次調査における第１トレンチ、第２トレンチ及び各トレンチの拡張区について、東南側調査区と総称する。

この調査区は、これまでの調査で確認された、集落の東側を大きく迂回し北流する河川跡の南側にあたることから、水田等生産遺構の分布状況の確認を目的として設定した。

河川跡（ＳＧ601）（第16図）

Ｅ３－ｃ８区からＥ４－ｄ２区で河川跡が確認された。Ｅ４－ｂ１区の以北からＥ３－ｂ８区にかけては、調査区域外となっているが、同一河川と考えられる。

流路は、Ｅ３－ｂ８区検出部分では、Ｎ－60°－Ｅであるが、Ｅ４－ｂ１区では、Ｎ－30°－Ｗへと90°近く向きを変えている。河川の幅は、検出が部分的であり判然としないが、両岸が検出されているＥ４－ｂ１区からＥ４－ｃ１区付近で約620㎝であると想定される。深さは、確認面から約110㎝で、第４層及び第５層からは多量の自然木が出土した。

Ｅ４－ｃ１区からは、径15㎝程度の丸太を用いた打ち込み杭が検出された。確認できたのが１本であるため、どのようなものかは定かではないが何らかの水利施設が設けられていたことがうかがえる。河川内からは、自然木を含む多くの木材が検出されたが、一部のものについては、こうした施設に関連するものと考えられる。

溝跡（ＳＤ602）（第16図）

Ｅ３－ｈ８区からＥ４－ｇ２区にかけて溝跡が検出された。流路は、Ｅ３－ｉ10区付近でＮ－40°－ＥからＮ－30°－Ｗへ方向を大きく変えている。幅は約300㎝前後で、深さは確認面から約26㎝であった。覆土内からは、自然木が多量に検出されているが、Ｅ３－ｉ９区付近の木材は、長さが約40㎝あり、流路に沿って配されているような状況が見受けられた。また、Ｅ４－ｇ１区付近で出土している木材については、流路に対して直交して出土していることから、何らかの水利施設にかかわるものであった可能性が想定される。

溝跡（ＳＤ603）（第16図）

Ｅ４－ｉ１区からＥ４－ｊ２区付近で、Ｅ４－ｉ１区でＳＤ602に合流する溝跡が検出された。この溝跡は、Ｅ４－ｉ２区付近で二股に別れていた。

東側に伸びる部分は、幅が約130㎝と比較的狭く、深さは確認面から約8㎝であった。一方、南側に伸びる部分については、幅が約280㎝あり、深さも12㎝であった。底面の勾配から、ＳＤ602へ流れ込むものと考えられる。

畦畔状遺構（第15図）

Ｅ４－ｊ５区の以南から畦畔状遺構が検出された。畦畔状遺構の基軸は、Ｅ４－ｊ５区からＥ４－ｊ６区で検出された遺構から、ほぼ南北方向と考えられる。

上端幅は約20～50㎝､比高差は約２～８㎝であった。一区画の面積は非常に小さく、Ｅ４－ｊ５区からＥ４－ｊ６区で検出された３連のものは約1.5㎡で、そのほかについては、全体が検出されなかったことから推測の域を出ないが、上記のもの２つ分程度の辺長を有することから約６㎡程度と考えられる。

Ｆ４－ｈ１区からＦ４－ｊ２区においても畦畔状の高まりが確認されたが、先に述べた調査区のものと比較してさらに不整形なものであった。

また、両調査区において、プラント・オパール分析を実施した。サンプルは、土層断面及び遺構検出面から採取した。その結果、両方の調査区からプラント・オパールが検出された。特に、土層断面の第９層から採取したサンプルに、プラント・オパールの検出量のピークが見られることから混入である可能性は考えられない。プラント・オパールの検出量的には、１ｇ当たり700～1500点と少量であるが、畦畔状遺構の存在とあわせて当該層における水田耕作が示唆される。

⑵　北側調査区

指定地の北側に設定したことから、Ⅴ次調査における第３トレンチ、第４トレンチ、第５トレンチ及び第６トレンチについて、北側調査区と総称する。

この調査区は、平成12年度の第Ⅳ次発掘調査で確認された井堰跡から西へ導入される水路の有無の確認を目的として設定された。

第３トレンチ（第17図）

第３トレンチからは、多量の木材が出土した。断面観察から第８層に対応する面となる。これらの木材は、その形状から樹根と考えらる。樹根の数は４つあり、それぞれの間隔は約350㎝前後と、ほぼ等間隔で、一直線上に位置していた。配置に企画性があることから､人工的な植樹の可能性も考えられる。また､木製品が１点出土している。

第４トレンチ（第17図）

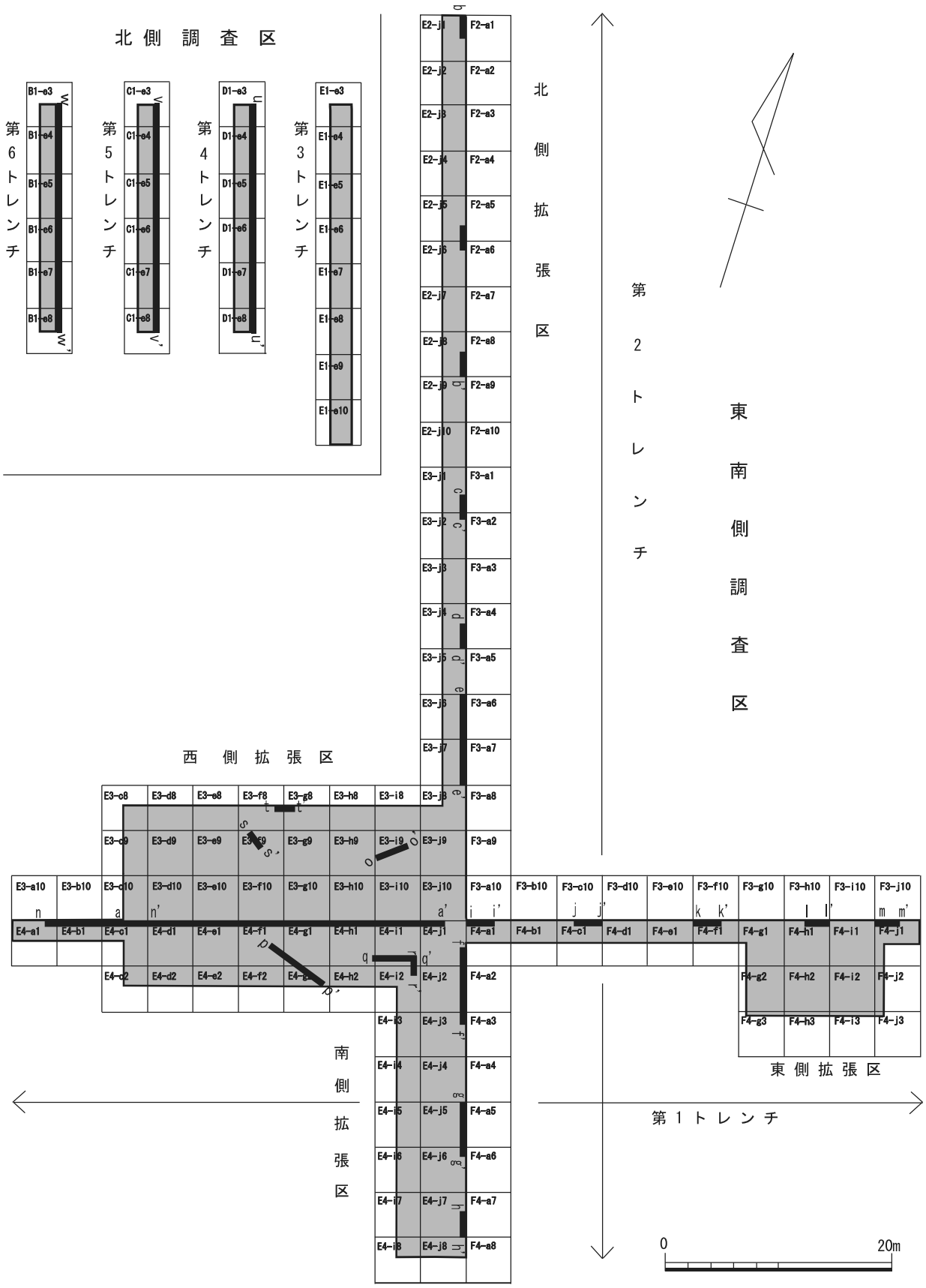
トレンチの南側で自然木がまとまって確認された。また、西沼田遺跡より新しい時期の打込み柱で土留めされた溝跡が確認された。

第５トレンチ（第18図）

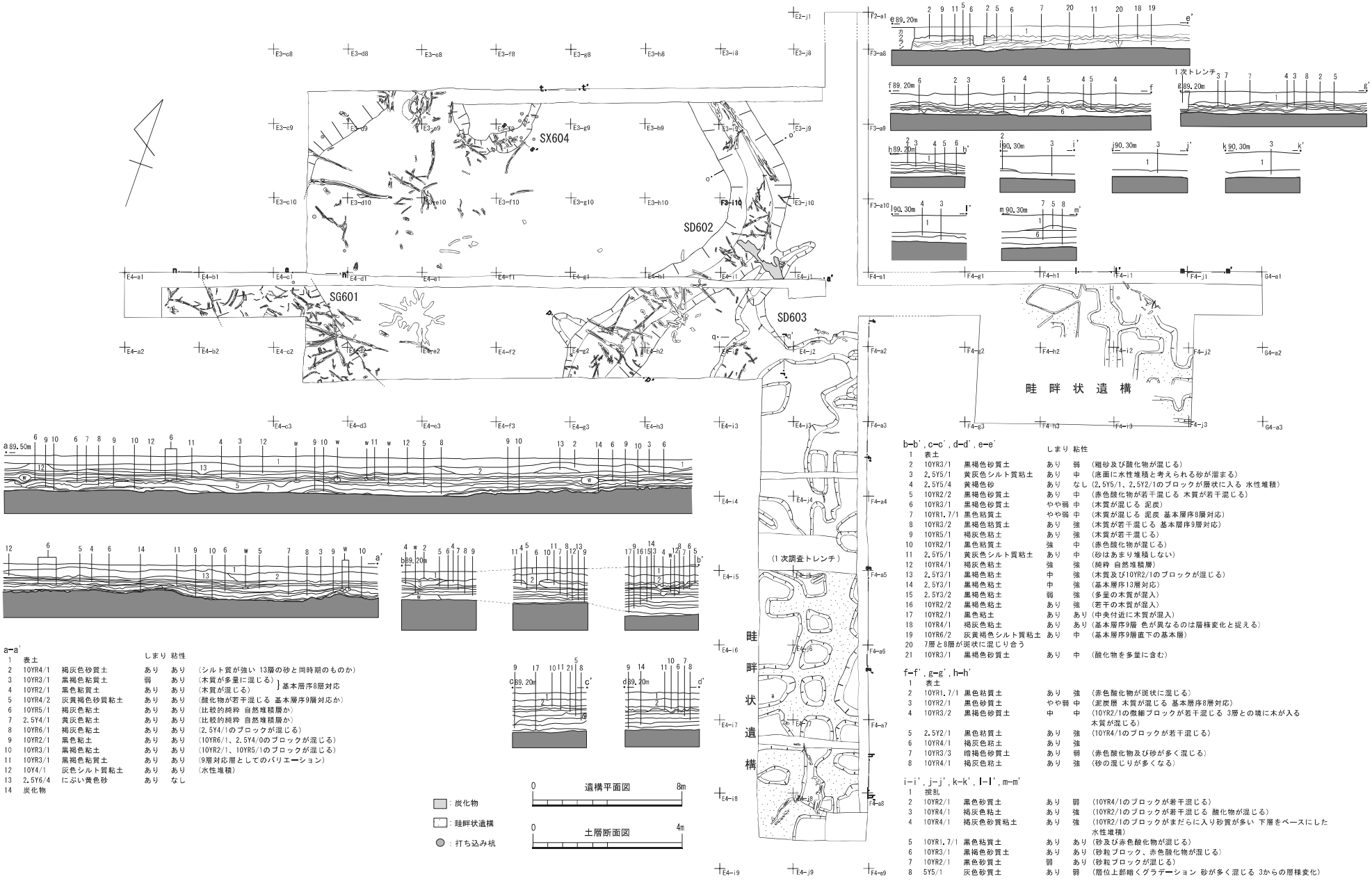
古墳時代相当層である第９層からの遺構・遺物の検出はなかった。下層の遺構・遺物の確認の結果、溝状遺構の付近から縄文土器が１点出土した。

第６トレンチ（第18図）

古墳時代相当層である第９層は削平されていたため、下層の確認を行った。その結果、マウント状の高まりと周溝が確認された。周溝の覆土内から自然木が出土した。土層断面において、噴砂の痕跡を確認することができた。



第14図　Ⅵ次調査区グリッド設定・土層断面配置図



a–a'

			しまり	粘性	
1	表土				
2	10YR4/1	褐灰色砂質土	あり	あり	(シルト質が強い 13層の砂と同時期のものか)
3	10YR3/1	黒褐色粘質土	弱	あり	(木質が多量に混じる) } 基本層序8層対応
4	10YR2/1	黒色粘質土	あり	あり	(木質が混じる)
5	10YR4/2	灰黄褐色砂質粘土	あり	あり	(酸化物が若干混じる 基本層序9層対応か)
6	10YR5/1	褐灰色粘土	あり	あり	(比較的純粋 自然堆積層か)
7	2.5Y4/1	黄灰色粘土	あり	あり	(比較的純粋 自然堆積層か)
8	10YR6/1	褐灰色粘土	あり	あり	(2.5Y4/1のブロックが混じる)
9	10YR2/1	黒色粘土	あり	あり	(10YR6/1、2.5Y4/0のブロックが混じる)
10	10YR3/1	黒褐色粘土	あり	あり	(10YR2/1、10YR5/1のブロックが混じる)
11	10YR3/1	黒褐色粘質土	あり	あり	(9層対応層としてのバリエーション)
12	10Y4/1	灰色シルト質粘土	あり	あり	(水性堆積)
13	2.5Y6/4	にぶい黄色砂	あり	なし	
14	炭化物				

b–b', c–c', d–d', e–e'

			しまり	粘性	
1	表土				
2	10YR3/1	黒褐色砂質土	あり	弱	(細砂及び酸化物が混じる)
3	2.5Y5/1	黄灰色シルト質粘土	あり	中	(底面に水性堆積と考えられる砂が溜まる)
4	2.5Y5/4	黄褐色砂	あり	なし	(2.5Y5/1、2.5Y2/1のブロックが層状に入る 水性堆積)
5	10YR2/2	黒褐色砂質土	あり	中	(赤色酸化物が若干混じる 木質が若干混じる)
6	10YR3/1	黒褐色砂質土	やや弱	中	(木質が混じる 泥炭)
7	10YR1.7/1	黒色粘質土	やや弱	中	(木質が混じる 泥炭 基本層序8層対応)
8	10YR3/2	黒褐色粘質土	あり	強	(木質が若干混じる 基本層序9層対応)
9	10YR5/1	褐灰色粘土	あり	強	(木質が若干混じる)
10	10YR2/1	黒色粘質土	強	中	(赤色酸化物が混じる)
11	2.5Y5/1	黄灰色シルト質粘土	あり	中	(砂はあまり堆積しない)
12	10YR4/1	褐灰色粘土	強	強	(純粋 自然堆積層)
13	2.5Y3/1	黒褐色粘土	中	強	(木質及び10YR2/1のブロックが混じる)
14	2.5Y3/1	黒褐色粘土	中	強	(基本層序13層対応)
15	2.5Y3/2	黒褐色粘土	弱	強	(多量の木質が混入)
16	10YR2/2	黒褐色粘土	あり	強	(若干の木質が混入)
17	10YR2/1	黒色粘土	あり	あり	(中央付近に木質が混入)
18	10YR4/1	褐灰色粘土	あり	あり	(基本層序9層 色が異なるのは層様変化と捉える)
19	10YR6/2	灰黄褐色シルト質粘土	あり	中	(基本層序9層直下の基本層)
20	7層と8層が斑状に混じり合う				
21	10YR3/1	黒褐色砂質土	あり	中	(酸化物を多量に含む)

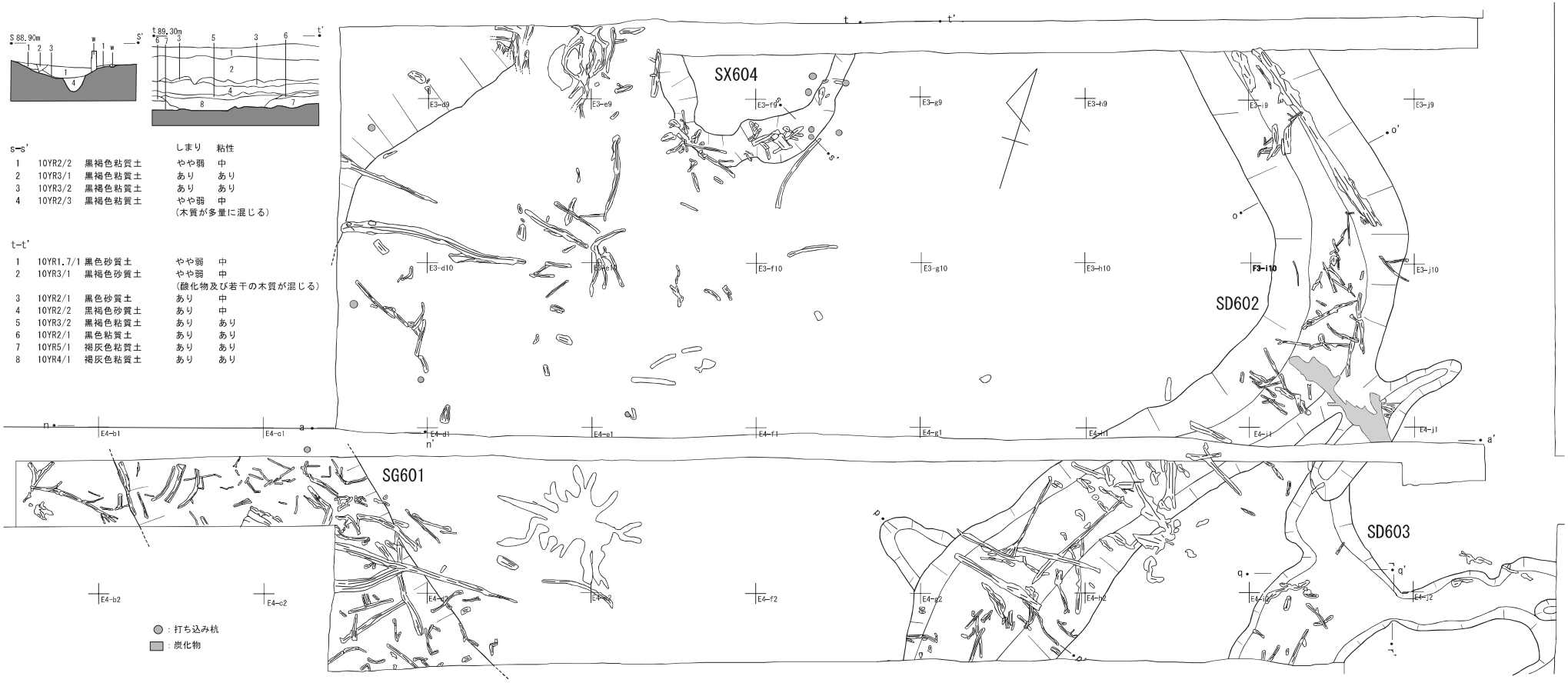
f–f', g–g', h–h'

1	表土				
2	10YR1.7/1	黒色粘質土	あり	強	(赤色酸化物が斑状に混じる)
3	10YR2/1	黒色砂質土	やや弱	中	(泥炭層 木質が混じる 基本層序8層対応)
4	10YR3/2	黒褐色砂質土	中	中	(10YR2/1の微細ブロックが若干混じる 3層との境に木が入る 木質が混じる)
5	2.5Y2/1	黒色粘質土	あり	強	(10YR4/1のブロックが若干混じる)
6	10YR4/1	褐灰色粘土	あり	強	
7	10YR3/3	暗褐色砂質土	あり	弱	(赤色酸化物及び砂が多く混じる)
8	10YR4/1	褐灰色粘土	あり	強	(砂の混じりが多くなる)

i–i', j–j', k–k', l–l', m–m'

1	撹乱				
2	10YR2/1	黒色砂質土	あり	弱	(10YR4/1のブロックが若干混じる)
3	10YR4/1	褐灰色粘土	あり	強	(10YR2/1のブロックが若干混じる 酸化物が混じる)
4	10YR4/1	褐灰色砂質粘土	あり	強	(10YR2/1のブロックがまだらに入り砂質が多い 下層をベースにした水性堆積)
5	10YR1.7/1	黒色粘質土	あり	あり	(砂及び赤色酸化物が混じる)
6	10YR3/1	黒褐色砂質土	あり	あり	(砂粒ブロック、赤色酸化物が混じる)
7	10YR2/1	黒色砂質土	弱	あり	(砂粒ブロックが混じる)
8	5Y5/1	灰色砂質土	あり	弱	(層位上部暗くグラデーション 砂が多く混じる 3からの層様変化)

第15図　Ⅵ次調査区第1・第2トレンチ遺構検出状況・土層断面図



s−s'

			しまり	粘性	
1	10YR2/2	黒褐色粘質土	やや弱	中	
2	10YR3/1	黒褐色粘質土	あり	あり	
3	10YR3/2	黒褐色粘質土	あり	あり	
4	10YR2/3	黒褐色粘質土	やや弱	中	(木質が多量に混じる)

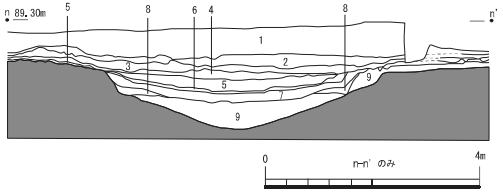
t−t'

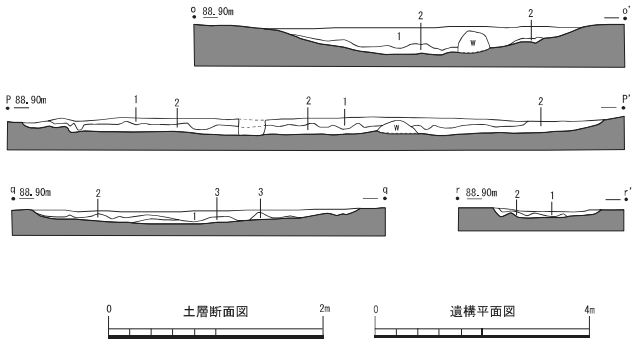
1	10YR1.7/1	黒色砂質土	やや弱	中	
2	10YR3/1	黒褐色砂質土	やや弱	中	(酸化物及び若干の木質が混じる)
3	10YR2/1	黒色砂質土	あり	中	
4	10YR2/2	黒褐色砂質土	あり	中	
5	10YR3/2	黒褐色粘質土	あり	あり	
6	10YR2/1	黒色粘質土	あり	あり	
7	10YR5/1	褐灰色粘質土	あり	あり	
8	10YR4/1	褐灰色粘質土	あり	あり	

n−n'

			しまり	粘性	
1	表土				
2	10YR1.7/1	黒色粘質土	あり	あり	(赤色酸化物、自然木、木質を含む)
3	7.5YR2/1	黒色粘質土	あり	あり	(赤色酸化物、自然木、木質を含む)
4	7.5YR3/2	黒褐色粘質土	あり	あり	(赤色酸化物、自然木、木質を含む)
5	10YR1.7/1	黒色粘質土	あり	あり	(赤色酸化物を含む)
6	10YR3/1	黒褐色粘質土	あり	あり	
7	2.5Y4/1	黄灰色粘質土	あり	あり	
8	2.5Y3/1	黒褐色粘質土	あり	あり	
9	10YR1.7/1	黒色粘質土	なし	あり	

※2.3は4.5より酸化物が多い





o−o'

			しまり	粘性	
1	10YR2/1	黒色砂質土	中	中	(木質混じる 上部に赤色酸化物が混じる)
2	10YR3/1	黒褐色粘質土	あり	あり	(10YR2/1のブロックが若干混じる)

p−p'

1	10YR3/1	黒褐色砂質土	やや弱	中	(赤色酸化物が多量に混じる)
2	10YR2/1	黒色砂質土	やや弱	中	(酸化物、木質が混じる 木材出土層)

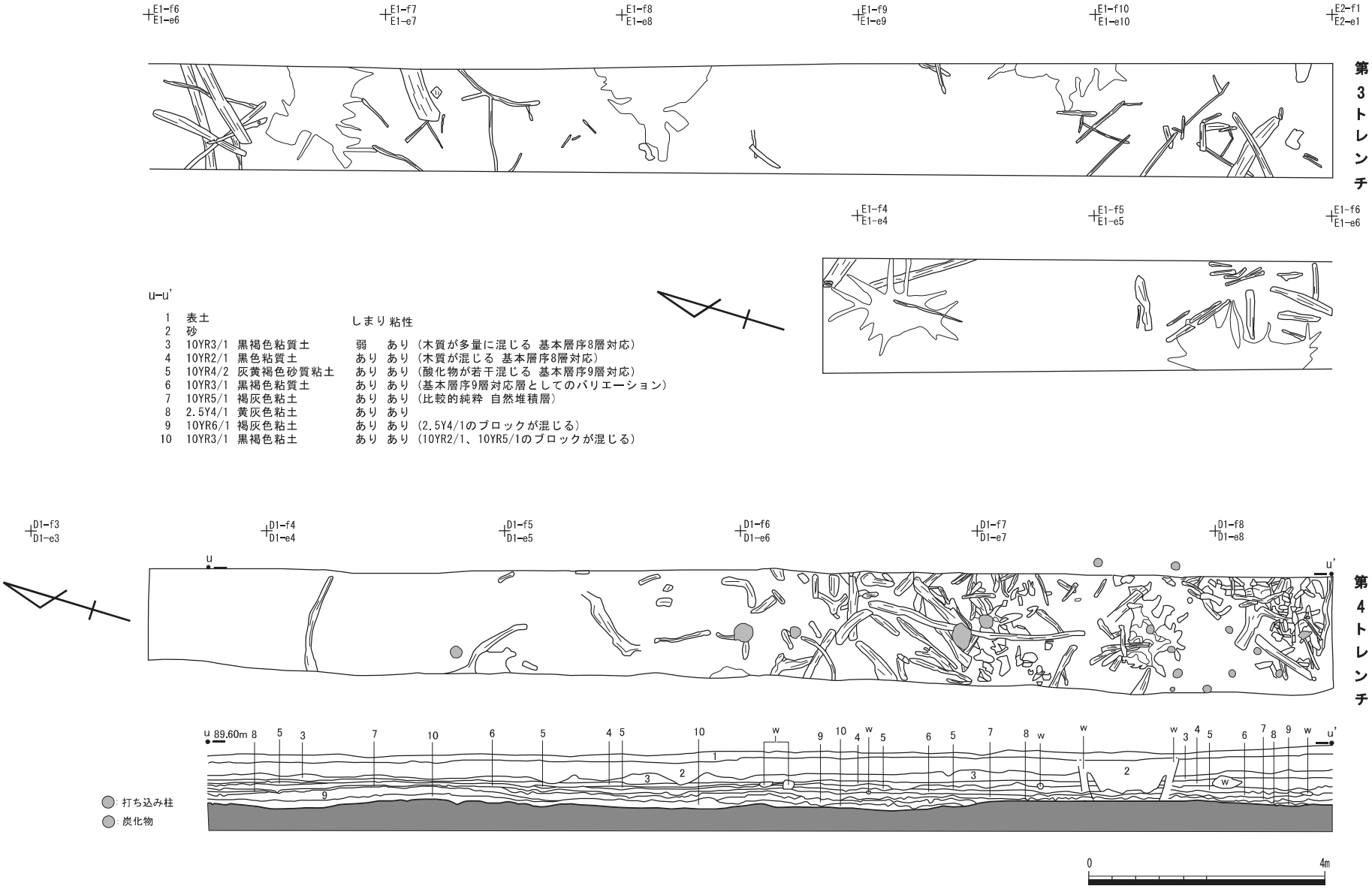
q−q'

1	10YR1.7/1	黒色砂質土	やや弱	中	(10YR3/2のブロック及び木質が混じる)
2	10YR3/2	黒褐色粘質土	あり	あり	(木質が若干混じる)
3	10YR4/1	褐灰色粘質土	あり	あり	(木質が若干混じる)

r−r'

1	10YR1.7/1	黒色砂質土	やや弱	中	(10YR3/2のブロック及び木質が混じる)
2	10YR4/1	褐灰色粘質土	あり	あり	(木質が若干混じる)

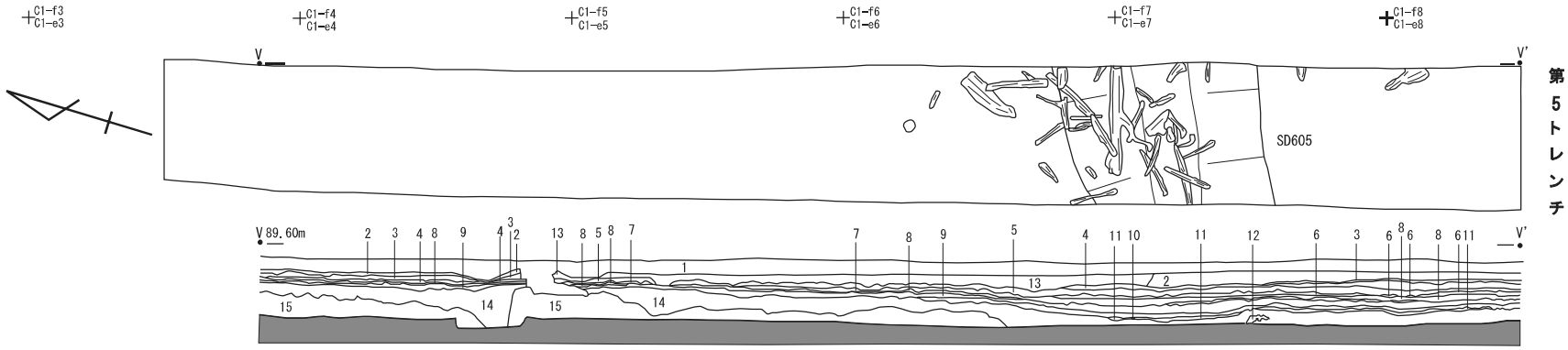
第16図　Ⅵ次調査区第1・第2トレンチ遺構検出状況図



u-u'

		しまり	粘性	
1	表土			
2	砂			
3	10YR3/1 黒褐色粘質土	弱	あり	(木質が多量に混じる 基本層序8層対応)
4	10YR2/1 黒色粘質土	あり	あり	(木質が混じる 基本層序8層対応)
5	10YR4/2 灰黄褐色砂質粘土	あり	あり	(酸化物が若干混じる 基本層序9層対応)
6	10YR3/1 黒褐色粘質土	あり	あり	(基本層序9層対応層としてのバリエーション)
7	10YR5/1 褐灰色粘土	あり	あり	(比較的純粋 自然堆積層)
8	2.5Y4/1 黄灰色粘土	あり	あり	
9	10YR6/1 褐灰色粘土	あり	あり	(2.5Y4/1のブロックが混じる)
10	10YR3/1 黒褐色粘土	あり	あり	(10YR2/1、10YR5/1のブロックが混じる)

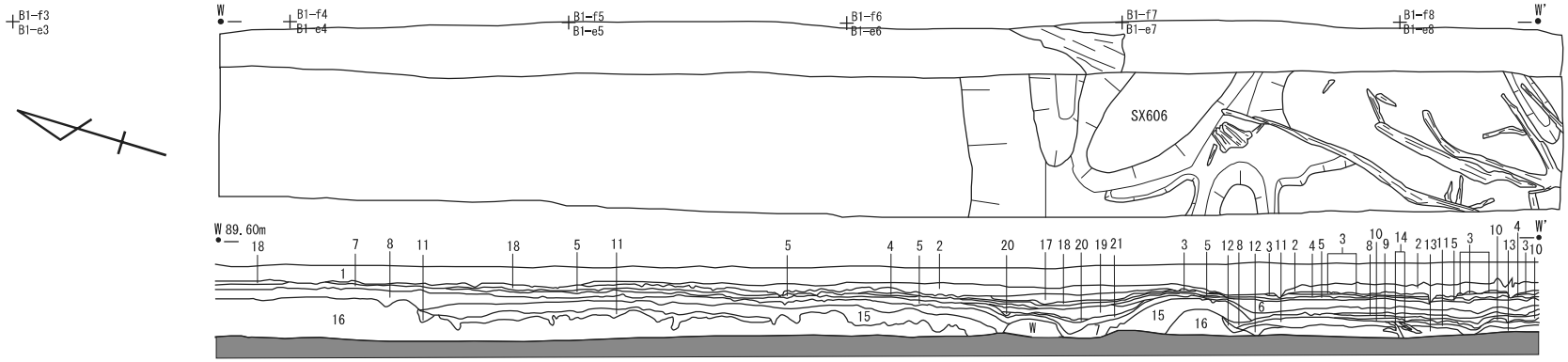
第17図　Ⅵ次調査区第３・第４トレンチ遺構検出状況・土層断面図



第5トレンチ

V-V'

			しまり	粘性	
1	表土				
2	2.5Y5/3	黄褐色砂	あり	なし	(粗砂)
3	2.5Y4/1	黄灰色砂質シルト	あり	弱	(水性堆積 2.5Y5/2の細砂が混じる)
4	10YR3/1	黒褐色粘質土	弱	あり	
5	10YR2/1	黒色粘質土	あり	あり	
6	10YR4/1	褐灰色粘土	あり	あり	(木質が混じる)
7	2.5Y4/1	黄灰色粘土	あり	あり	
8	10YR5/1	褐灰色粘土	あり	あり	
9	10YR3/1	黒褐色粘土	あり	あり	
10	10YR2/1	黒色粘土	あり	あり	
11	10YR3/1	黒褐色粘土	あり	あり	(シルトに近い砂 墳砂)
12	2.5Y6/2	灰黄色砂	あり	なし	(砂 10YR2/1のブロックが斑状に混じる 水性堆積)
13	2.5Y5/1	黄褐色砂質シルト	あり	弱	
14	10YR4/1	褐灰色シルト			
15	2.5Y5/1	黄灰色シルト			



第6トレンチ

W-W'

			しまり	粘性	
1	表土				
2	10YR1.7/1	黒色粘質土	あり	あり	(赤色酸化物が混じる)
3	7.5YR3/3	暗褐色粘質土	あり	あり	(赤色酸化物が混じる)
4	10YR2/5	灰黄褐色シルト質粘土	あり	あり	(赤色酸化物が混じる 10YR1.7/1のブロックがまばらに混じる)
5	7.5YR3/1	黒色粘質土	あり	あり	(赤色酸化物、木質が混じる 上層にブロック混入が見られる)
6	7.5YR4/2	灰褐色シルト質粘土	あり	あり	(酸化物がまばらに含む 漸位的に下層が暗くなる)
7	10YR2/1	黒色粘土	あり	あり	
8	10YR3/1	黒褐色粘土	あり	あり	
9	10YR6/2	灰黄褐色シルト	あり	弱	(酸化物をまだらに含む 上層からの混入ブロックあり)
10	10YR5/1	褐灰色シルト	あり	弱	(酸化物をまだらに含む)
11	10YR3/1	黒褐色シルト	あり	弱	(酸化物をまだらに含む)
12	10YR4/1	褐色シルト	あり	弱	(酸化物をまだらに含む)
13	10YR5/1	褐灰色シルト	あり	弱	(酸化物をまだらに含む 上層からの混入ブロックあり)
14	2.5Y6/3	にぶい黄色砂	なし	なし	
15	10YR4/2	灰黄褐色シルト	あり	弱	(まだら 漸位的に色が変化)
16	10YR7/2	にぶい黄橙色シルト	あり	弱	(酸化物、上層からの混入あり)
17	7.5YR2/1	黒色粘質土	あり	あり	(酸化物、木質混じる 上層からの混入あり)
18	7.5YR3/3	暗褐色粘質土	あり	あり	(木質を含む 上層からの混入ブロックあり)
19	10YR2/3	暗褐色粘質土	あり	あり	(木材を含む 黒色ブロックが若干混じる 上層との境に白色砂質シルトが帯状に混じる)
20	10YR5/1	褐灰色粘土	あり	あり	(酸化物を含む)
21	10YR2/2	黒褐色粘質土	あり	あり	(下層からの混入ブロックあり)

0 4m

第18図　Ⅵ次調査区第５・第６トレンチ遺構検出状況・土層断面図

３　Ⅶ次調査（第19図）

調査に際しては、はじめに、設定した各トレンチに対して、60㎝幅のサブトレンチを設け、土層観察を行ってから、遺構等が確認された地点において面的な調査を実施した。

⑴　第１・第２トレンチ（第20図）

土層観察の結果、最下位の層は、基本層序第17層対応層と考えられ、第１～４層は、土層の堆積状況から現耕作土及び床土と思われる。

遺構や遺物は検出されなかったため、土層確認のみを行い、平面調査は行っていない。

⑵　第３・第４トレンチ（第21図）

土層観察の結果、旧地形については南から北に向かって傾斜していることが確認された。第３・第４トレンチともに、北側部分については、基本層序第８層対応層及び基本層序第９層対応層を確認することができたが、第３トレンチのＥ６－ｄ６区及び第４トレンチのＤ７－ｂ５区以南の調査区については、基本層序第８層対応層のさらに下位層に達する削平を受けていたため確認することができなかった。

遺構や遺物は確認されず、土層断面からサンプルを採取し、プラント・オパール分析を行ったが、イネのプラント・オパールは検出されず、ヨシ属のプラント・オパールが多量に検出された。

⑶　第５トレンチ（第22図）

畦畔状遺構（第24図）

土層観察の結果、水田土壌の特徴である、下層からの土粒の巻き上げや層位下面に見られる波状の乱れは確認できず、畦畔状遺構等を示すような痕跡についても確認することはできなかったが、プラント・オパール分析を行ったところ、Ｃ７－ｂ１区の基本層序第９層対応層から採取したサンプルから、１ｇ当たり約2,600点のイネのプラント・オパールが検出された。

この結果を受け、遺構面の確認調査を行ったところ、Ｃ６－ｂ３区からＣ７－ｂ２区にかけて不整形ではあるが畦畔状遺構が確認された。

畦畔状遺構は、トレンチとほぼ平行して検出されたことから、基軸は、Ｎ－18°－Ｗと推定される。上端幅は約18～30㎝で、比高差は約２～８㎝であった。Ｃ６－ｂ３区で検出された畦畔状遺構を観察してみると、軸方向の畦畔間が約200㎝、Ｃ７－ｂ１区で検出された畦畔状遺構の畦畔間で約160㎝であることから、水田区画としては、約2.6～４㎡と想定される。

Ｃ７－ｂ３区より以南の調査区においても、畦畔状遺構は検出されているが、不明瞭なうえ、一部に削平を受けているため判然としない。

Ｃ７－ｂ５区より以南の調査区については、基本層序第９層対応層にまで及ぶ削平

を受けていることから、平面の調査は行っていない。

溝跡（ＳＤ701）

Ｃ６－ｂ８区付近から溝跡が検出された。流路はＮ－80°－Ｗで、溝の幅は約300㎝と想定される。深さは、確認面から約20㎝であった。トレンチ調査での検出であることから、面的な広がりとして捉えることができなかったため、畦畔状遺構との関連については明らかにすることができなかった。

遺物は出土していない。

土層断面を観察した結果、噴砂の痕跡が確認された。

⑷　第６トレンチ（第23図）

河川跡（ＳＧ702）

Ｂ６－ｂ８区からＢ６－ｂ10区で河川跡が確認された。流路はＮ－29°－Ｅで、幅は検出が部分的であるため判然としないが、約620㎝と想定される。深さは、確認面から約50㎝であった。

覆土内からは多量の自然木が出土した。

検出された河川は、層序の切り合い関係や覆土の堆積状況等から、指定地内の発掘調査で確認されている河川と同一河川と考えられる。

また、Ｂ６－ｂ８区付近の河床面からは、磨製石斧が１点出土している。

溝跡（ＳＤ703）

Ｂ７－ｂ10区付近から溝跡が検出された。流路はＮ－49°－Ｅで、幅は約240㎝、深さは確認面から約33㎝であった。

覆土内からは倒木が検出された。

また、土層断面を観察した結果、噴砂の痕跡が確認された。

畦畔状遺構（第24図）

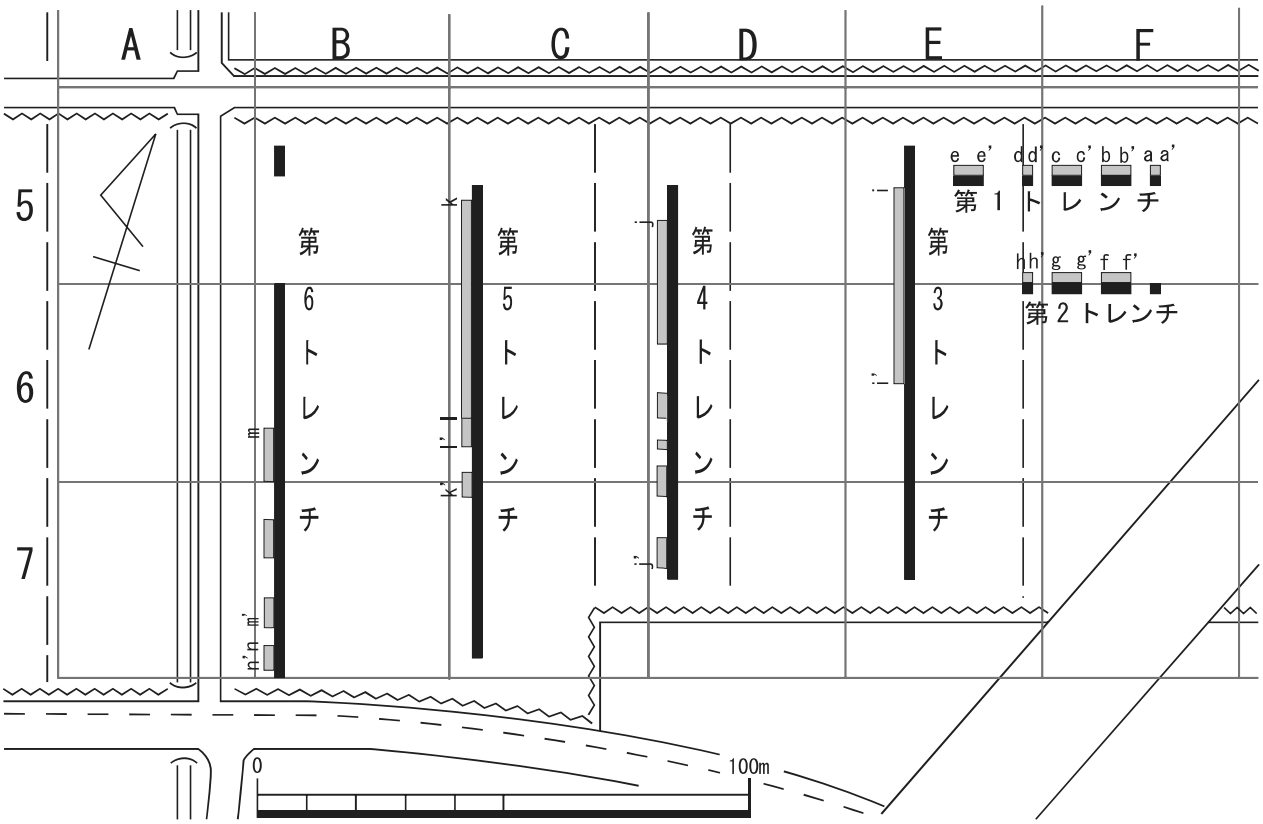
Ｂ７－ｂ１区より以南の調査区において、畦畔状遺構と考えられる高まりが数条検出されたが、土層観察からは水田土壌の特徴を捉えることができなかった。また、大部分が幅狭で、比高差もほぼないことから畦畔状遺構と断定するまでには至らなかった。プラント・オパール分析調査も実施したが、イネのプラント・オパールは、１ｇ当たり500～700点と低い値しか得ることができなかった。

また、Ｂ７－ｂ６区より以南の調査区においては、基本層序第９層対応層にまでおよぶ削平を受けていたことから、平面の調査は行っていない。

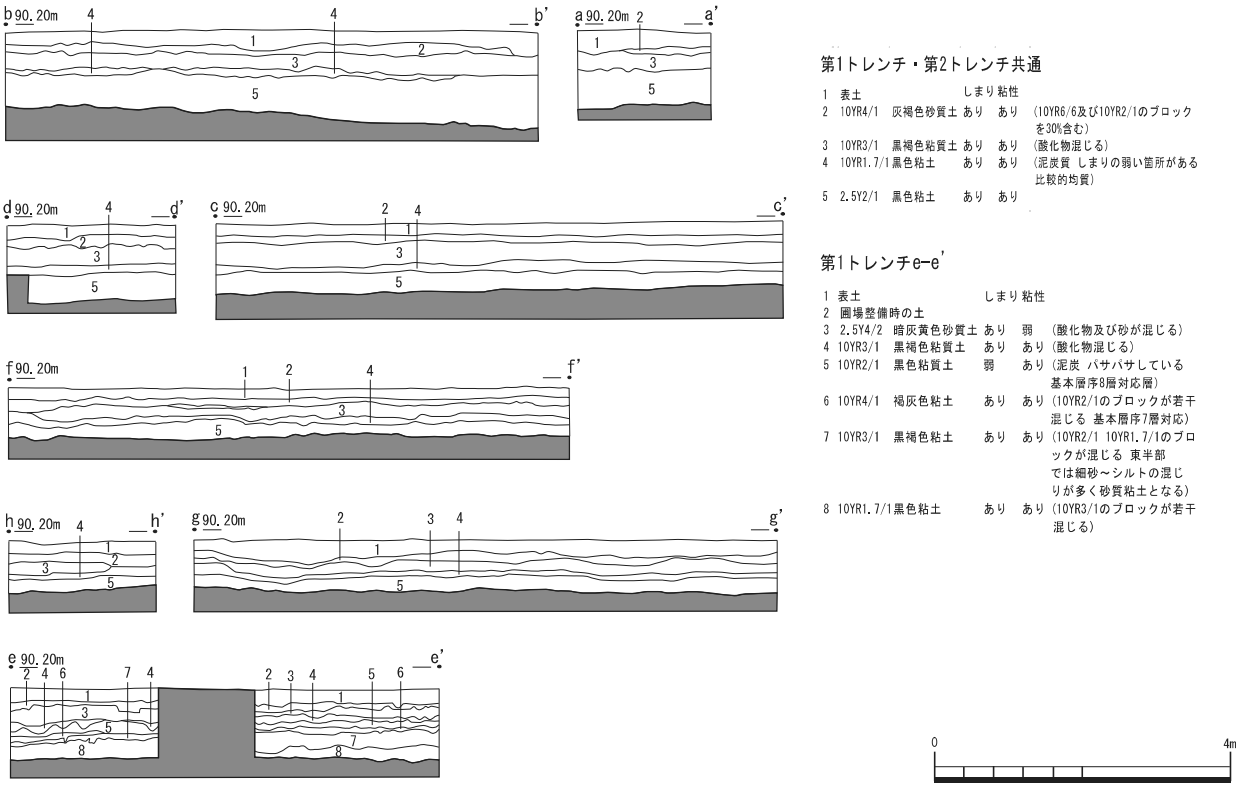
その他

Ｂ５－ｂ５区の基本層序第17層対応層から、縄文土器が出土している。

出土状況は、遺構に伴うものではなく、付近にも遺構を確認することはできなかった。時期的には、十腰内式に比定されるものと考えられる。



第19図　Ⅶ次調査区トレンチ設定・土層断面図配置図



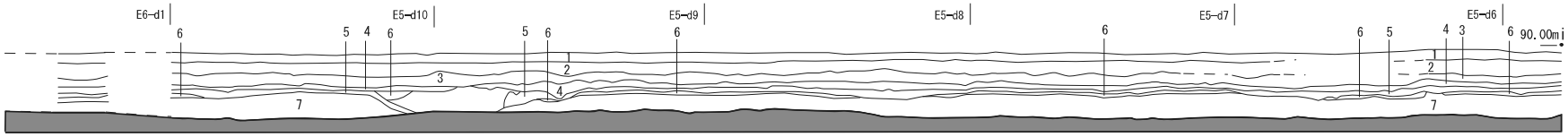
第1トレンチ・第2トレンチ共通

			しまり	粘性	
1	表土				
2	10YR4/1	灰褐色砂質土	あり	あり	(10YR6/6及び10YR2/1のブロックを30%含む)
3	10YR3/1	黒褐色粘質土	あり	あり	(酸化物混じる)
4	10YR1.7/1	黒色粘土	あり	あり	(泥炭質 しまりの弱い箇所がある比較的均質)
5	2.5Y2/1	黒色粘土	あり	あり	

第1トレンチe-e'

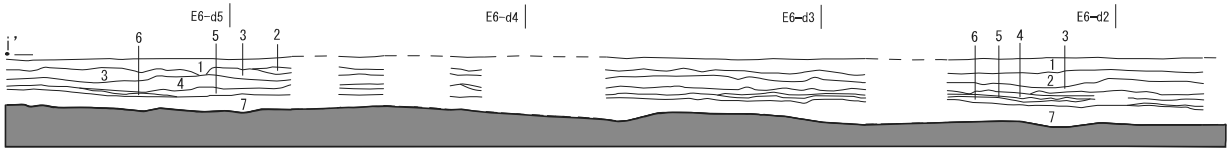
			しまり	粘性	
1	表土				
2	圃場整備時の土				
3	2.5Y4/2	暗灰黄色砂質土	あり	弱	(酸化物及び砂が混じる)
4	10YR3/1	黒褐色粘質土	あり	あり	(酸化物混じる)
5	10YR2/1	黒色粘質土	弱	あり	(泥炭 パサパサしている 基本層序8層対応層)
6	10YR4/1	褐灰色粘土	あり	あり	(10YR2/1のブロックが若干混じる 基本層序7層対応)
7	10YR3/1	黒褐色粘土	あり	あり	(10YR2/1 10YR1.7/1のブロックが混じる 東半部では細砂～シルトの混じりが多く砂質粘土となる)
8	10YR1.7/1	黒色粘土	あり	あり	(10YR3/1のブロックが若干混じる)

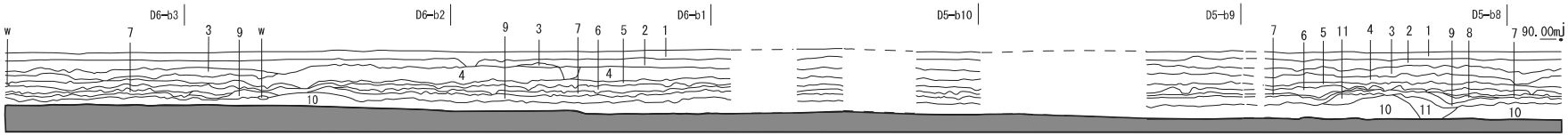
第20図　Ⅶ次調査区第１・第２トレンチ土層断面図

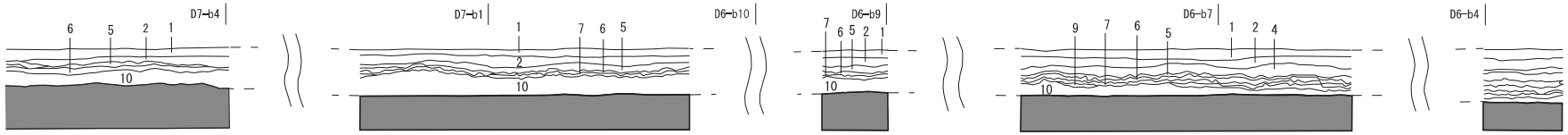


第3トレンチ

			しまり	粘性
1	表土			
2	10YR2/2	黒褐色砂質土	あり	あり（酸化物を含む）
3	10YR1.7/1	黒色粘質土	あり	あり（酸化物を含む）
4	10YR1.7/1	黒色粘質土	やや弱	あり（酸化物 木質混じる 泥炭 基本層序8層対応）
5	10YR3/2	黒褐色粘土	あり	あり（酸化物 炭化物若干混じる 基本層序9層対応）
6	2.5Y2/1	黒色粘土	あり	あり（炭化物を含む）
7	10G2/1	緑黒色粘土	あり	あり（6との境に薄く7.5Y6/1のブロックが入る箇所がある）

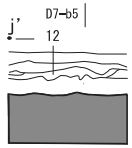




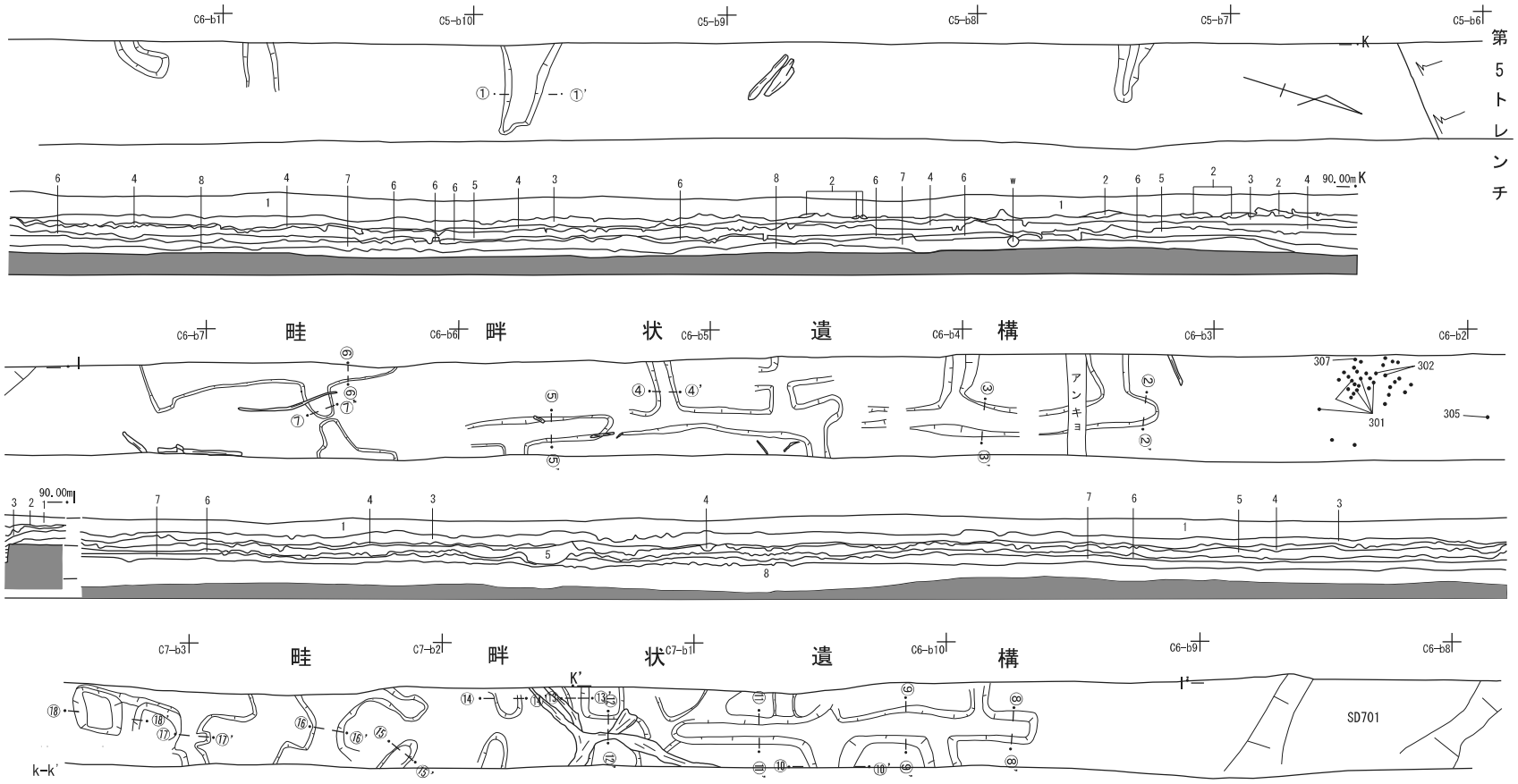


第4トレンチ

			しまり	粘性
1	表土			
2	2.5Y3/1	黒褐色砂質土	あり	あり（N2/0の粘土ブロック及び酸化物混じる）
3	10YR3/1	黒褐色砂質土	あり	あり（小石楽含み砂質多い 酸化物混じる）
4	10YR7/1	黒色粘質土	あり	あり（酸化物混じる 泥炭）
5	10YR1.7/1	黒色粘質土	弱	あり（泥炭 パサパサしている 基本層序8層対応）
6	2.5Y4/1	黄灰色粘土	あり	あり（10YR1.7/1のブロック若干混じる 基本層序9層対応）
7	10YR1.7/1	黒色粘土	あり	あり（6及び9のブロック混じる）
8	5Y4/1	灰色粘土	あり	あり（10YR10/1のブロック混じる）
9	7.5Y6/1	灰色粘土	あり	あり（10YR7/1のブロック混じる 場所によっては帯状に入る 炭化物を含む）
10	2.5GY2/1	黒色粘土	あり	あり（9層由来ののブロックが若干混じる）
11	7.5Y4/1	灰色粘土	あり	あり（10YR7/1のブロック混じる）
12	10YR5/1	褐灰色砂質土	あり	弱（細砂）



第21図　Ⅶ次調査区第３・第４トレンチ土層断面図



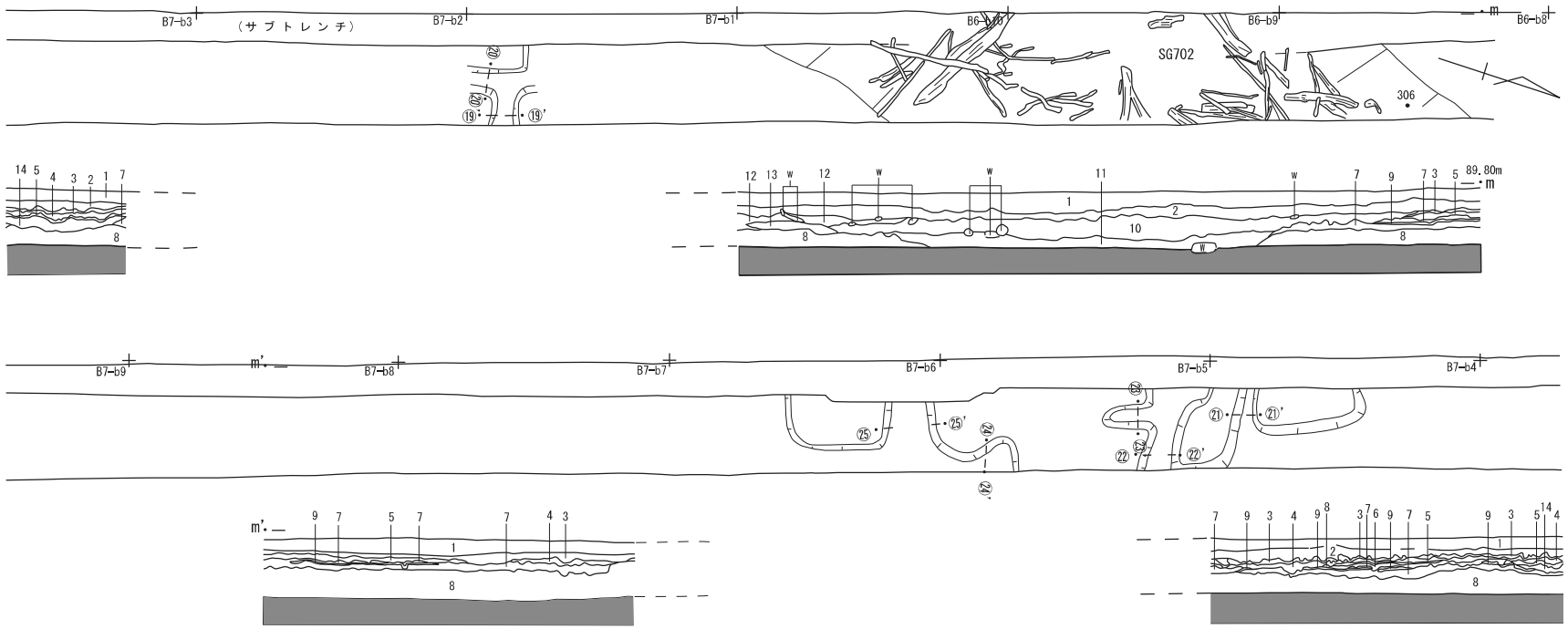
1 表土
2 10YR2/3 黒褐色砂質シルト
3 10YR3/4 暗褐色シルト （黄褐色砂質土が縞状に50%混入 基本層序7層対応）
4 10YR2/2 黒褐色シルト （有機質 基本層序8層対応）
5 10YR6/2 灰黄褐色シルト （黄褐色の極小ブロックが30%混入）
6 10YR2/1 黒色シルト
7 10YR6/1 褐灰色シルト
8 10YR4/1 褐灰色シルト （中間に灰白色砂質シルトが層状に混入）

l-l'

			しまり	粘性	
1	表土				
2	10YR3/3	暗褐色砂質土	あり	弱	（10YR2/1のブロック、酸化物、砂が混じる）
3	10YR2/2	黒褐色砂質土	あり	弱	（10YR2/1のブロック、酸化物が混じる）
4	10YR2/1	黒褐色砂質土	あり	弱	（10YR3/3のブロック、酸化物、砂が混じる）
5	10YR2/1	黒褐色粘土	あり	あり	（比較的均質 基本層序8層対応）
6	10YR3/2	黒褐色粘土	あり	あり	（酸化物が若干混じる 基本層序9層対応）
7	10YR1.7/1	黒色粘土	あり	あり	（比較的均質）
8	10YR5/1	褐灰色粘土	あり	あり	（10YR7/1、10YR1.7/1のブロックが混じる）
9	10YR7/1	黒色粘土	あり	あり	（木質が混じる 泥炭）
10	2.5Y5/4	黄褐色砂	あり	なし	（10YR2/2、10YR1.7/1のブロックが混じる 噴砂している箇所がある）
11	6層とほぼ同一				
12	3層とほぼ同一				
13	4層とほぼ同一				
14	2層とほぼ同一				

0 4m

第22図 Ⅶ次調査区第5トレンチ遺構検出状況・土層断面図



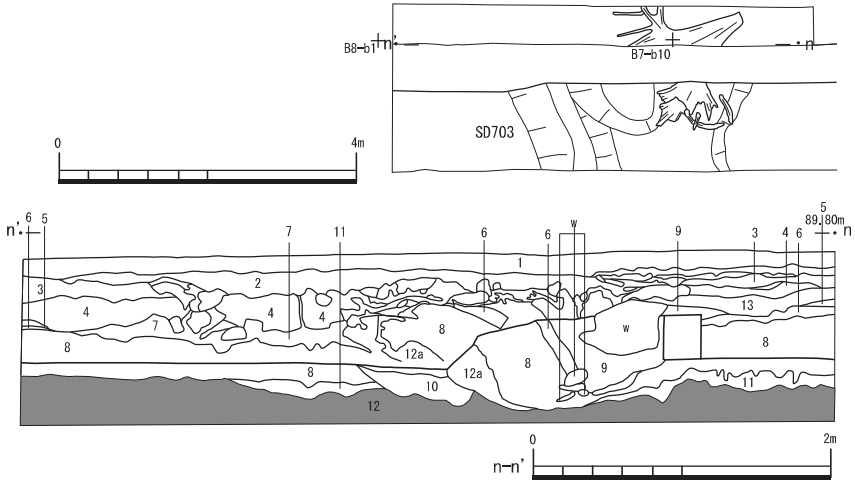
m-m'

			しまり	粘性	
1	表土				
2	2.5Y2/1	黒色粘質土	やや弱	あり	(泥炭　酸化物が混じる 基本層序8層対応)
3	10YR4/2	灰黄褐色粘質土	あり	あり	(上層からの2.5Y2/1のブロックの混入が若干、酸化物が混じる 基本層序9層対応)
4	2.5Y3/1	黒褐色粘質土	あり	あり	(比較的均質 酸化物が混じる)
5	10YR1.7/1	黒色粘土	あり	あり	(上層からの2.5Y3/1のブロックが混入 炭化物を含む)
6	10YR4/1	褐灰色粘土	あり	あり	(10YR1.7/1のブロックが混入)
7	10YR6/1	褐灰色粘土	あり	あり	(炭化物が混入)
8	5Y4/1	灰色粘土	あり	あり	(炭化物が混入)
9	10YR4/1	褐灰色粘土	あり	あり	(8層中に現れる間層 炭化物を含む)
10	10YR2/1	黒色砂質土	やや弱	あり	(炭化物、自然木が混じる)
11	2.5Y3/2	黒褐色砂質土	やや弱	あり	(砂の含有が多い 10YR2/1のブロックが混じる)
12	10YR2/2	黒褐色砂質土	あり	あり	(自然木が混じる)
13	10YR2/1	黒色砂質土	あり	あり	(11と基本的に同一だが8由来のブロックが混じる 自然木が混じる)
14	2.5Y2/1	黒色粘質土	あり	あり	(炭化物、8由来ブロックが若干混じる)

河川の覆土

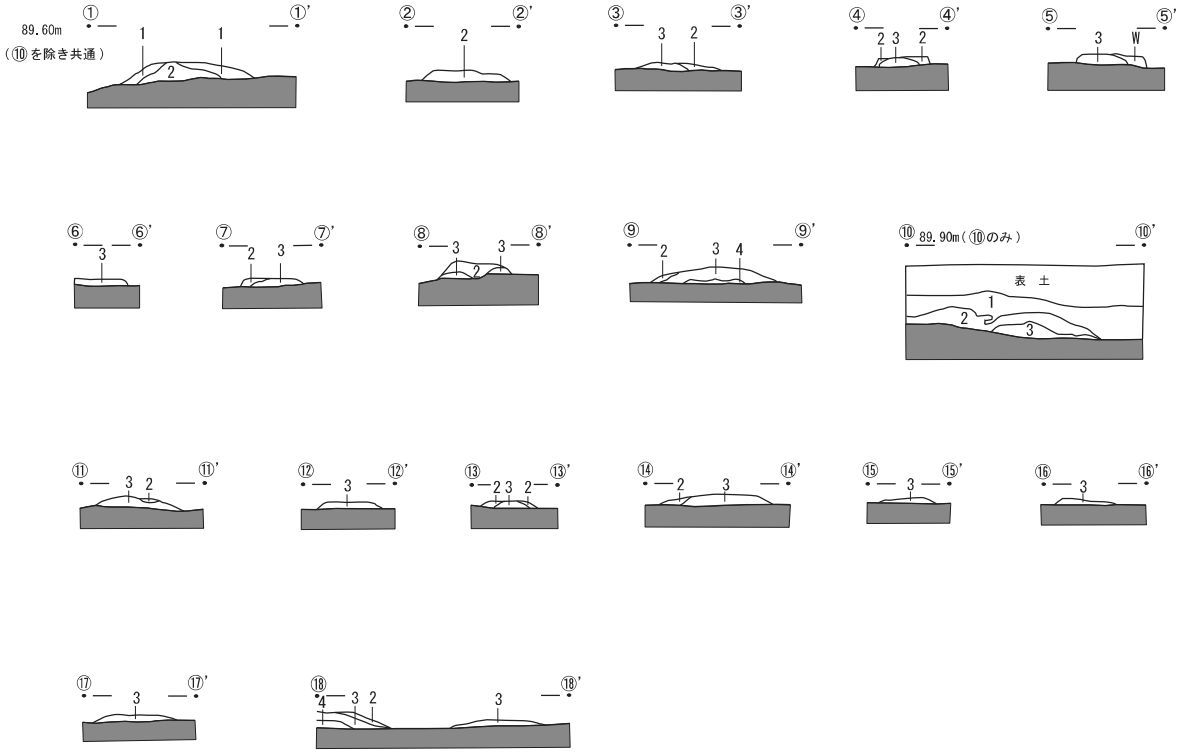
n-n'

			しまり	粘性	
1	表土				
2	10YR3/2	黒褐色砂質土	あり	弱	(10YR1.7/1のブロック、酸化物が混じる)
3	10YR4/1	褐灰色砂質土	あり	あり	(10YR1.7/1のブロック、酸化物が混じる 砂質分が多い)
4	2.5Y3/1	黒褐色粘質土	弱	あり	(10YR1.7/1のブロック、酸化物が混じる)
5	10YR2/1	黒色粘土	あり	あり	(10YR4/1のブロックが混じる)
6	2.5Y6/1	黄灰色粘土	あり	あり	(5Y7/1のブロック、7YR1.7/1のブロックが混じる)
7	10YR5/6	黄褐色砂	あり	なし	(10YR4/1、1.7/1のブロックが混じる 噴砂と考えられる箇所は周囲の土層と混じる)
8	10YR1.7/1	黒色粘土	あり	あり	(泥炭 小礫が混じる箇所あり 倒木の根などの木質が混じる)
9	10YR2/1	黒色粘質土	あり	あり	(倒木の根などの木質を含む)
10	2.5Y3/1	黒褐色粘質土	あり	あり	(砂 10YR1.7/1のブロック、7.5Y6/1のブロックが混じる)
11	5Y5/1	灰色砂質シルト	あり	あり	(下層の12とほぼ同一だが砂礫の混じりがある)
12	7.5Y6/1	灰色粘質シルト	あり	あり	(基盤層)
12a	7.5Y6/1	灰色粘質シルト	あり	あり	(倒木と一緒に持ち上げられた12層 上層に近づくほど砂礫の混入が多い)
13	10YR3/2	黒褐色砂質土	あり	弱	(10YR2/1のブロック、酸化物が混じる)

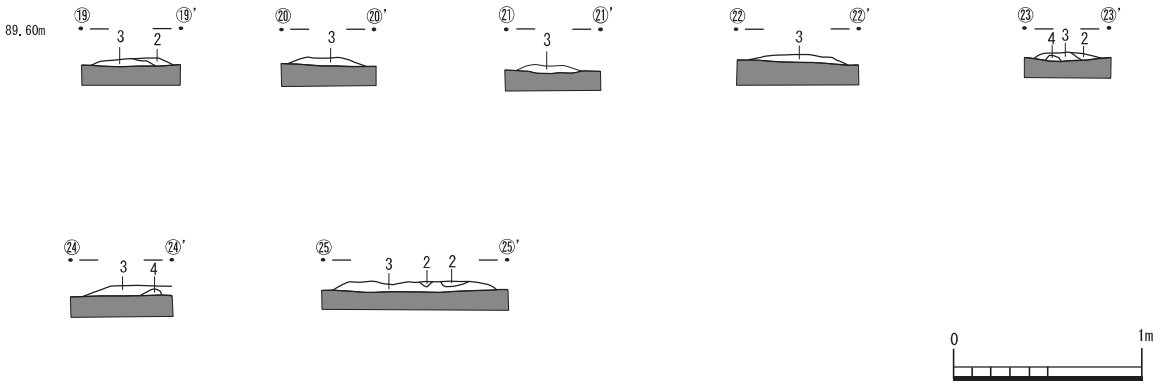


第23図　Ⅶ次調査区第6トレンチ遺構検出状況・土層断面図

第 5 トレンチ



第 6 トレンチ



1　5Y3/1　　オリーブ黒色粘質土（基本層序 7 層 10YR2/1 砂質土粒 酸化物を混入）

2　2.5Y2/1　黒色粘質土　　（基本層序 8 層 植物遺存体が混じる 下層からの土粒の巻き上げがみられる）

3　10YR3/2　黒褐色粘質土　　（基本層序 9 層 下層からの土粒の巻き上げがみられる）

4　10YR4/1　褐灰色粘土 もしくは 5Y5/1 灰色粘土（基本層序 10 層）

第 24 図　Ⅶ次調査区第５・第６トレンチ畦畔状遺構土層断面図

第２節　遺物

１　Ｖ次調査

⑴　分布

第１トレンチ（第11図）

遺物は、Ｃ２－ｂ10区からＣ２－ｃ10区にかけて比較的まとまって出土している。ほとんどが土師器となるが、須恵器片２点と石製品１点、木製品３点が含まれる。

全体的な分布の特徴としては、Ｃ２－ｃ10区の中央部付近に坏や高坏など小型のものが多く、その周りに甕や甑など大型のものが分布している。

土師器は70点で、坏が15点（1・3・4・9・11～15・18・19・21・23・24・27）、高坏が11点（28～30・37・39・42～47）、甕が33点（48・49・51～65・67～70・72～75・78・80・83～87・89）、甑が６点（90～95）、壺が５点（96・98～100・103）、ミニチュア土器が１点（105）出土している。須恵器２点（108・109）は瓶の一部と推定され、Ｃ２－ｃ10区から出土した。また、石製品１点（113）は砥石であり、Ｃ２－ｃ10区から出土している。木製品３点のうち、２点は鍬であり、１点（116）はＢ２－ｊ10区から、もう１点（117）はＣ２－ｂ10区から出土している。Ｃ２－ｂ10区から出土した鍬は、砥石のすぐそばの地点で確認されている。残り１点（118）は、用途不明であり、Ｂ２－ｊ10区から出土した。同区から出土した鍬とは、少し離れた地点からの出土である。

第２トレンチ

遺物はほとんど確認されなかったが、高坏の坏部１点（32）と甕の底部１点（88）が出土している。いずれも土師器である。

テストピット（ＴＰ１・ＴＰ２）

テストピットから出土した遺物については、平成28年度に刊行している「天童市西沼田遺跡－第Ⅳ次発掘調査報告書（2017）－」で報告しているが、刊行後に整理した遺物について、本報告書で報告する。

ほとんどの遺物が、建物跡の柱跡が検出されたＴＰ２から出土した。

ＴＰ２では、土師器が31点、須恵器の甕片１点（111）が出土している。

土師器は、坏が11点（2・5～8・10・17・20・22・25・26）、高坏が６点（31・33～35・38・40）、甕が８点（50・66・71・76・77・79・81・82）、壺が４点（97・101・102・104）、ミニチュア土器が２点（106・107）である。

ＴＰ１では、土師器の坏が１点（16）、高坏の脚部のみが２点（36・41）、石皿の一部と思われる石製品が１点（114）出土した。

⑵　遺物（第25～第33図）

土師器（第25～第31図）

１～27は坏である。内面に黒色処理が施されたものが多い。

黒色処理が施されていたものは、２～８・10～12・18・21～23・25・27である。

ＴＰ１から出土した坏（16）の内面には、朱彩が施されていた。また、ＴＰ２から出土した坏（26）には、両面に黒色処理が施されていた。

１～４は、平底の底部を有する。１は、体部が内湾して立ち上がり、口縁部が短くつまみ出されている。２～４は、体部が内湾して立ち上がり、口縁部が外反する。３は、外面の口縁と体部の境に明瞭な稜を形成し、底部外面中央に楕円形のくぼみがみられた。５～27は底部が丸底の一群である。５は体部が内湾して立ち上がり、口縁部が短くつまみ出されている。６～10は、体部が内湾して立ち上がり、口縁部は外反している。内面の口縁と体部の境に明瞭に稜を形成する。６の外面体部から底部にかけて煤が付着していた。11～13は、底部が球形に近い丸底で、体部が外側に丸みをもって張り出している。体部と口縁部の境に段を有し、段の位置は高めである。13の口縁部外内面には、煤の付着がみられ、口縁部から体部にかけても漆と思われる付着物が観察された。14は、体部が低い位置で外側に大きく湾曲し、その後はほぼ直線的に立ち上がっている。口縁部は短く外反している。15は、器高が浅く、体部と口縁部の境に明確な段を有し、口縁部はほぼ直線的に立ち上がる。16～27は体部が湾曲して立ち上がり、体部と口縁部の境に明瞭な稜を有する。口縁部は外傾して直線的に立ち上がる。25の口縁部及び底部の外面と26の口縁部内面及び底部外内面に煤の付着が見られた。

28～31は高坏である。全て内面に黒色処理が施されている。脚部は裾部にかけて八字状に広がっている。28は体部が内湾して立ち上がり、口縁部が短く外反している。29は器高が比較的浅く、口縁部が大きく外反している。30・31は体部と口縁部の境に段を有し、口縁部は大きく外反している。

32～34は高坏の坏部である。口縁部と体部の境に段を有し、口縁部は外反している。32の口縁部から体部にかけて外内面に朱彩がみられる。

35～47は高坏の脚部である。裾部にかけて八字状に広がっている。37・40・47の残存している坏部内面には黒色処理が施されている。35の残存している坏部内面には朱彩がみられた。

48～89は甕である。48～50は、平底で、胴部には緩やかな丸みがあり、胴部のやや上位に最大径を有する。頸部のしまりは若干強く、口縁部は外反している。50の胴部外内面には輪積痕がみられ、底部外面に３本の線刻が確認された。51・52は平底で、胴部の膨らみはあまり大きくない。胴部のほぼ中央に最大径を有し、頸部のしまりはほとんどみられない。51の口縁部は直線的に短く立ち上がり、52の口縁部は外反している。53は、胴部が緩やかに丸みをもち、胴部のほぼ中央に最大径を有する。口縁部は、緩やかに外反している。54は、平底で、胴部が球形状に膨らむ。胴部のやや上位に最大径を有し、内面は内湾しているため、口縁部との境に緩やかな稜を有する。口縁部は外反し、先端が短くつまみ出されている。55～59・72～77・85～89は甕の底部である。全ての底部が台状に整形されている。75の胴部下半には煤の付着がみられた。76・

77は球胴の甕の底部である。77には、胴部外・内面に対応する輪状の黒斑がみられた。85の底部外面からは、木葉痕が確認された。86の底部内面には、×印が刻印されていた。

60～71は、長胴の甕である。胴部の膨らみはあまり大きくない。頸部がくびれ、口縁部は外反している。64～71は口縁部径が胴部径より大きく、66の胴部には、輪積痕が確認できた。79～84は球胴の甕である。胴部が大きく張り出し、口縁部径に対し胴部径が大きい。79～81の底部は平底である。頸部のしまりがやや強く、胴部との境に稜を有する。79・80・82・83の口縁部は大きく外反しているが、84の口縁部は比較的垂直に外傾している。

90～95は甑である。全て単孔式のものである。90・91の胴部は、緩やかに湾曲しながら垂直に近く立ち上がる。口縁部は短く、直線的に外傾する。92は、胴部が緩やかに湾曲しながら外傾し、口縁部は短く外反している。93・94は、胴部の膨らみはあまりなく、外傾して直線的に立ち上がる。94は、胴部と口縁部の境に段を有する。

96～104は壺である。96は丸底で、体部は扁平な球形を呈し、口縁部は直線的でほぼ垂直に短くつまみ出されている。頸部は細く長い。97～101・103・104は平底で、台状に整形されている。97は、体部が大きく張り出し、頸部は短く、口縁部は短くつまみ出されている。101～103は、体部が大きく張り出し、頸部はやや垂直に短く立ち上がり、口縁部は外反している。103の底部外面には木葉痕がみられた。99・100・104は壺の底部である。100の内面には煤の付着がみられた。

105～107はミニチュア土器である。107は平底に近い扁平な底部を有する。105・106の体部は垂直に立ち上がっている。口縁部は短くつまみ出されている。

須恵器（第31図）

108～111は須恵器である。

108・109は瑳の口縁部破片と推定される。

110・111は甕の破片と推定される。

石製品（第32図）

112～115は石製品である。

112は石製の紡錘車であり、残存率は30％ほどであるが、形は円錐台形である。出土地区は不明である。

113は角柱状の砥石である。折れて破損している。

114・115は石皿である。114は、両面に磨痕があり、裏面には擦痕もみられる。115は、両面に敲痕があり、裏面に磨痕がみられる。

木製品（第32・第33図）

116～118は木製品である。

116は鍬である。117も鍬の一部と推定される。

118は用途不明である。

119・120はＳＢ16の柱である。折損部上部両面に擦痕がみられる。

2　Ⅵ次調査

⑴　分布

遺物の多くは、第２トレンチ北側拡張区から出土している。ほとんどは土師器であるが、須恵器の甕破片１点（247）が含まれる。土師器は20点で、坏が６点（201・202・205・206・208・209）、高坏が４点（213・215・218・220）、甕が７点（221・224・225・227・229～231）、壺が３点（236～238）である。

ＳＧ601からは、須恵器の甕破片１点（248）、石製品の砥石１点（250）、ＳＤ602からは、土師器の坏２点（204・211）、甕の底部１点（232）、須恵器の壺破片１点（242）、甕破片１点（249）、ＳＤ603から、土師器の高坏の脚部２点（214・219）、甕１点（226）甕の底部１点（233）、甑の底部１点（234）、須恵器の甕破片１点（246）が出土している。

第１トレンチの東側拡張区からは、土師器の坏が２点（203・210）、高坏の脚部が２点（214・219）、壺が１点（235）、須恵器の坏底部が１点（240）、甕破片が３点（243・244・245）、西側拡張区からは、土師器の高坏１点（212）、甕１点（222）、ミニチュア土器１点（239）が出土している。

第３トレンチからは、土師器の甕１点（223）、甕の底部１点（228）が出土している。

第５トレンチからは、縄文土器深鉢１点（252）が出土した。

⑵　遺物（第34～第36図）

土師器（第34・第35図）

201～211は坏である。内面に黒色処理が施されたものは５点で、204・206・208～210である。

201は、底部が平底で、体部と口縁部の境に段を有し、段の位置は低めである。口縁部は外反している。底部外面に木葉痕がある。202・203・205・208は、底部が丸底で、203は、体部が内湾して立ち上がり、口縁部が短くつまみ出されている。204・205は、体部が内湾して立ち上がり、口縁部が外反する。205の外面底面に十字状の線刻がある。206は、外面の口縁と体部の境に明瞭な稜を形成し、口縁部は、ほぼ垂直に立ち上がっている。207は、体部が内湾して立ち上がり、口縁部は外反している。内面の口縁と体部の境に明瞭に稜を形成する。208・209・211は、体部が内湾して立ち上がり、体部と口縁部の境に段を有する。口縁部は緩やかに外反する。210は、体部が低い位置で大きく湾曲し、口縁部は緩やかに外反している。

212～220は高坏である。212～214・218・220の坏部内面に黒色処理が施されている。212の脚部は、ほぼ直立に立ち上がり、裾部において外側に開いている。坏部の体部は、湾曲しながら立ち上がり、体部と口縁部の境に段を有する。口縁部は外反している。213は高坏の坏部である。体部は湾曲しながら立ち上がり、体部と口縁部の境に段を有する。口縁部は外反している。214～220は坏の脚部である。214・215・217は八字状に大きく開き、裾部の端部が内反している。218～220はほぼ直立している。216は、

脚部外面に朱彩が施され、内面には、中心から外側へ放射状の線刻がみられる。

221～233は甕である。底部は平底で、223～225、228～233は台状に整形されている。221の胴部は、緩やかな丸みがあり、胴部のやや上位に最大径を有する。頸部のしまりは若干強く、口縁部は外反している。222・223・226は、胴部が緩やかに丸みをもち、胴部のほぼ中央に最大径を有する。口縁部は緩やかに外反している。226の胴部外面に煤が付着している。224の胴部は緩やかに丸みをもち、頸部のしまりは若干強く、口縁部は外反し、短くつまみ出されている。

225は長胴の甕である。胴部の膨らみはあまり大きくない。頸部がくびれ、口縁部は外反している。胴部外面に煤等が付着している。

228～233は甕の底部である。232の底部外面に木葉痕がみられる。

234は甑の底部である。単孔式である。

235～238は壺である。235は口縁部のみで、ほぼ直線的に立ち上がっている。外内面に朱彩が施されている。236・237の底部は平底で、台状に整形されている。236～238の体部は大きく張り出している。236・238の頸部は短く、口縁部は外反している。

239はミニチュア土器である。平底に近い扁平な底部を有する。体部は垂直に立ち上がり、口縁部は短くつまみ出されている。

須恵器（第36図）

240～249は須恵器である。

240は坏の底部で平底である。241は坏の口縁部である。

242は壺の破片と推測される。

243～249は甕の破片である。243～245は同一個体と推測される。

その他（第36図）

250は砥石である。

251は中世の陶器擂鉢の底部である。出土地区は不明である。

252は縄文土器の深鉢である。

3　Ⅶ次調査

(1)　分布

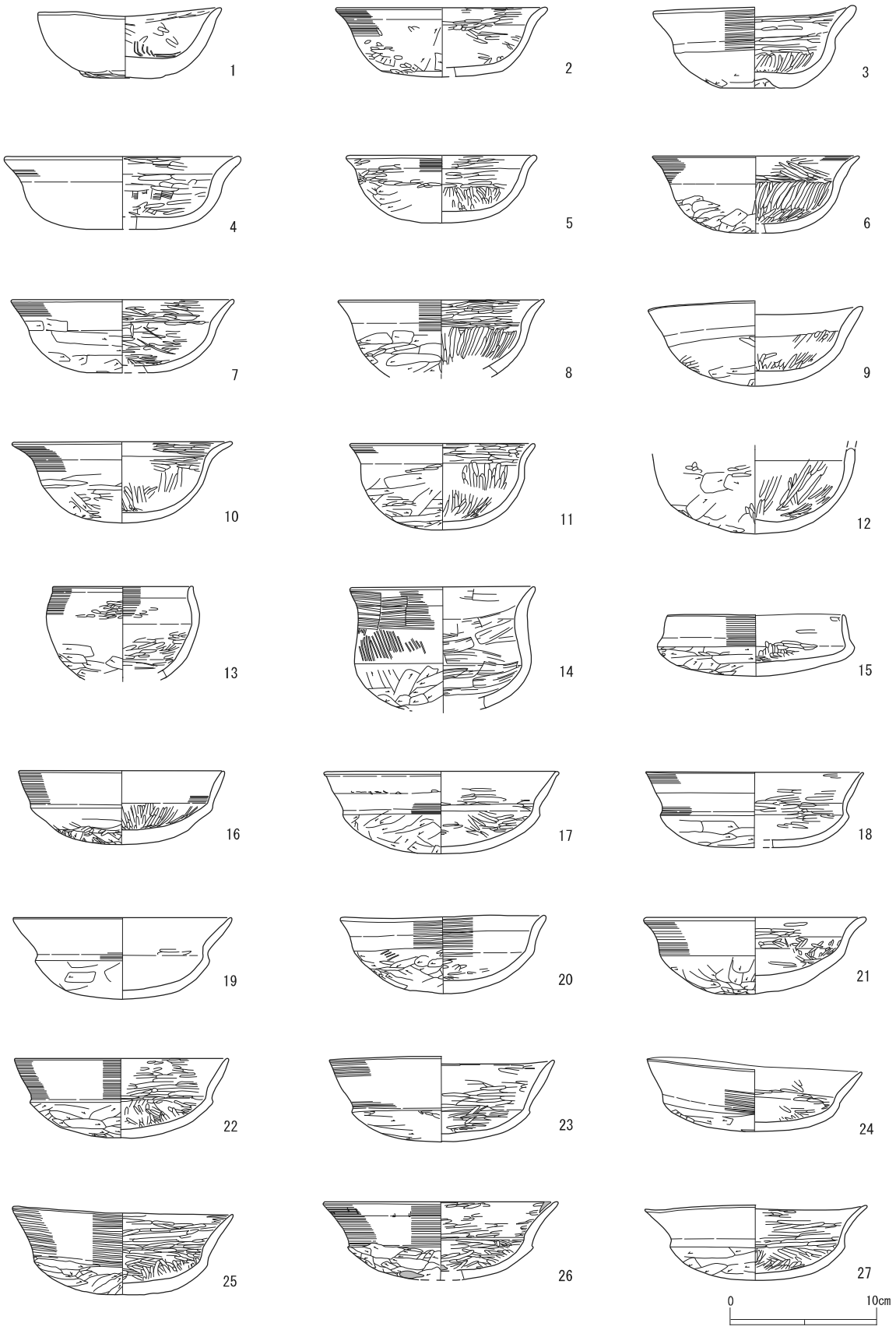
遺物は、第５トレンチ及び第６トレンチで確認された。

(2)　遺物（第37図）

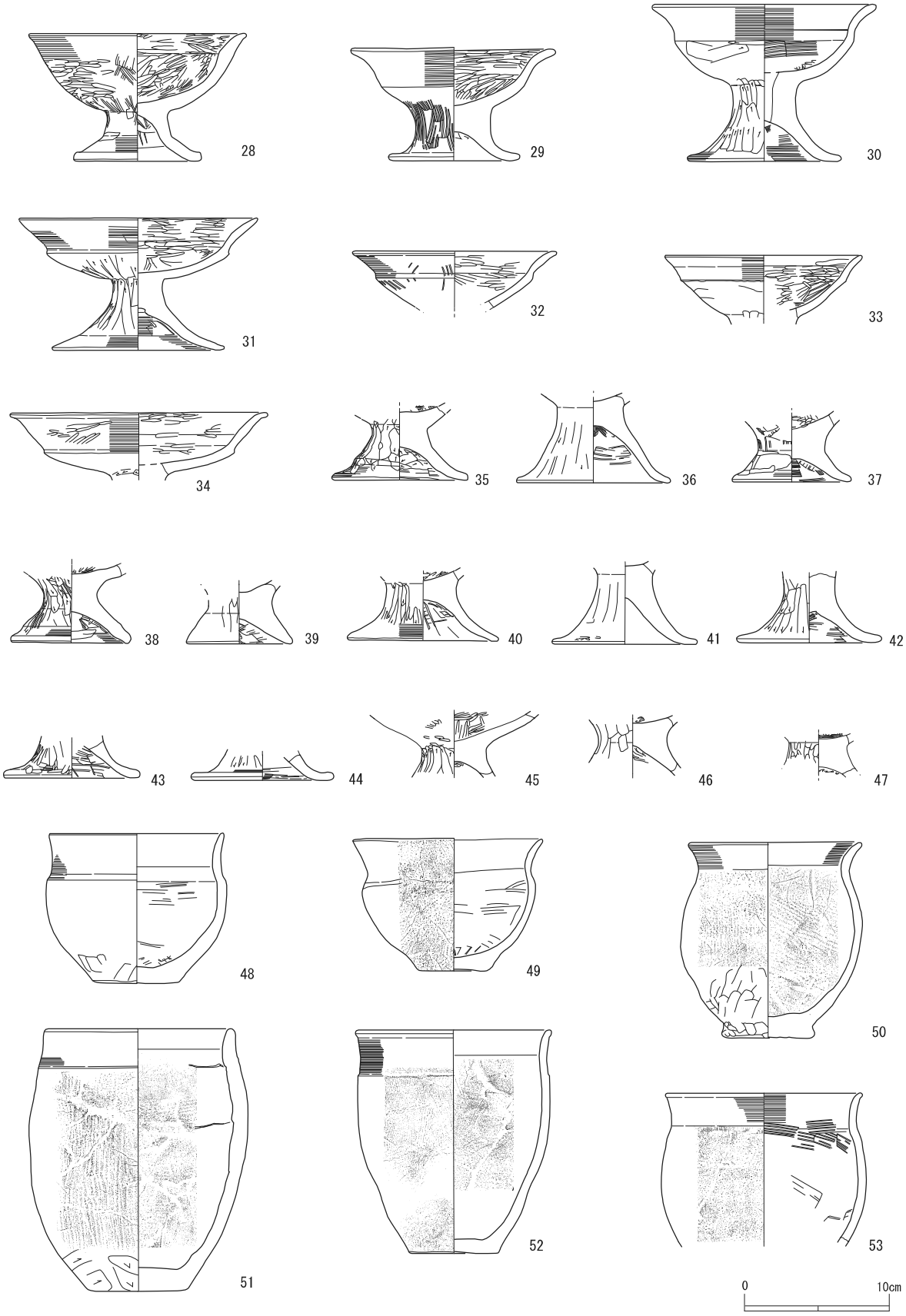
第５トレンチからは、土師器の甕２点（301・302）、縄文土器の深鉢１点（307）、須恵器の甕破片２点（303・304）、石製品の砥石１点（305）が出土している。

土師器の甕２点の特徴としては、胴部は緩やかに丸みをもち、頸部のしまりは若干強く、口縁部は外反している。

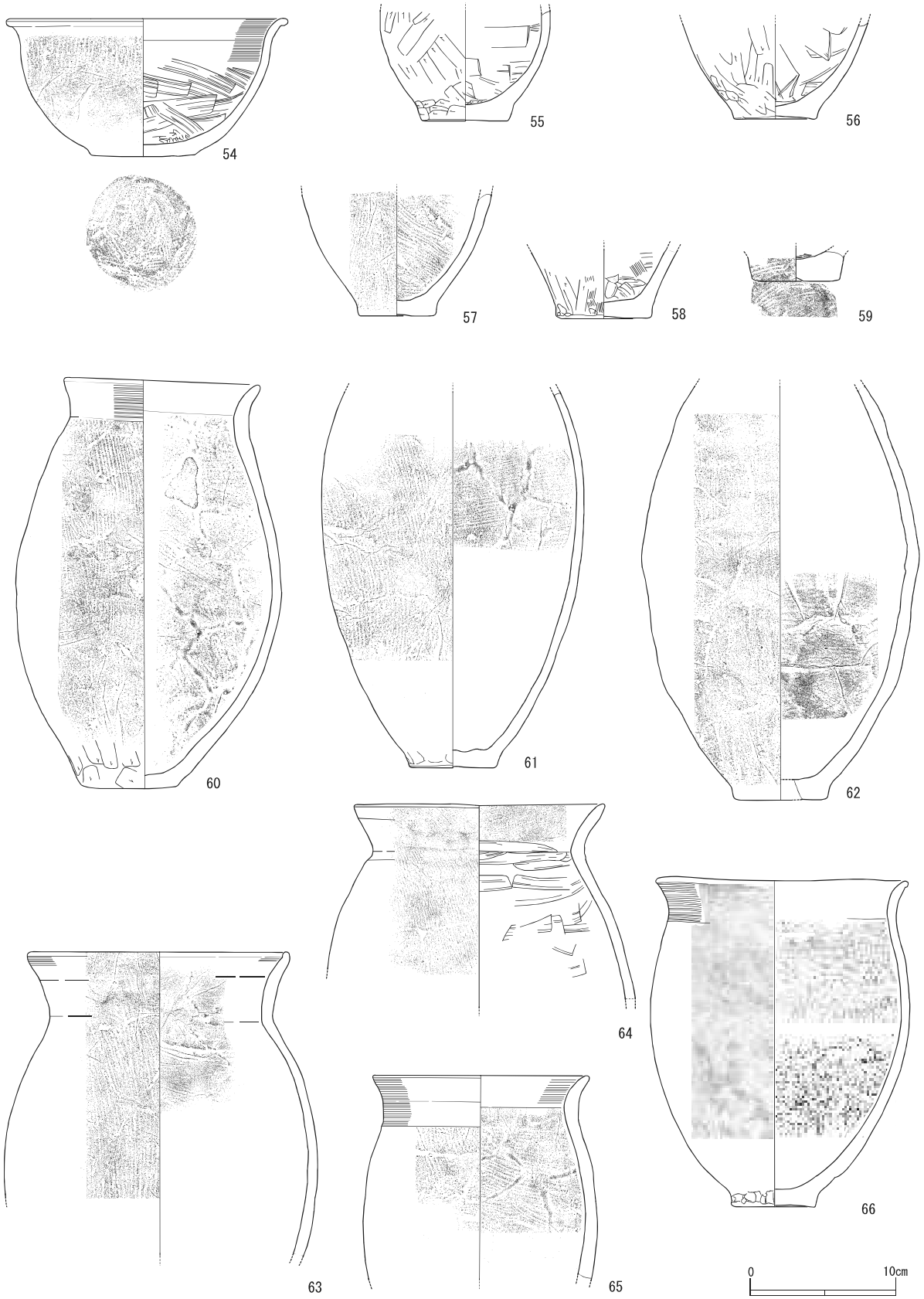
第６トレンチからは、磨製石斧が１点（306）出土した。



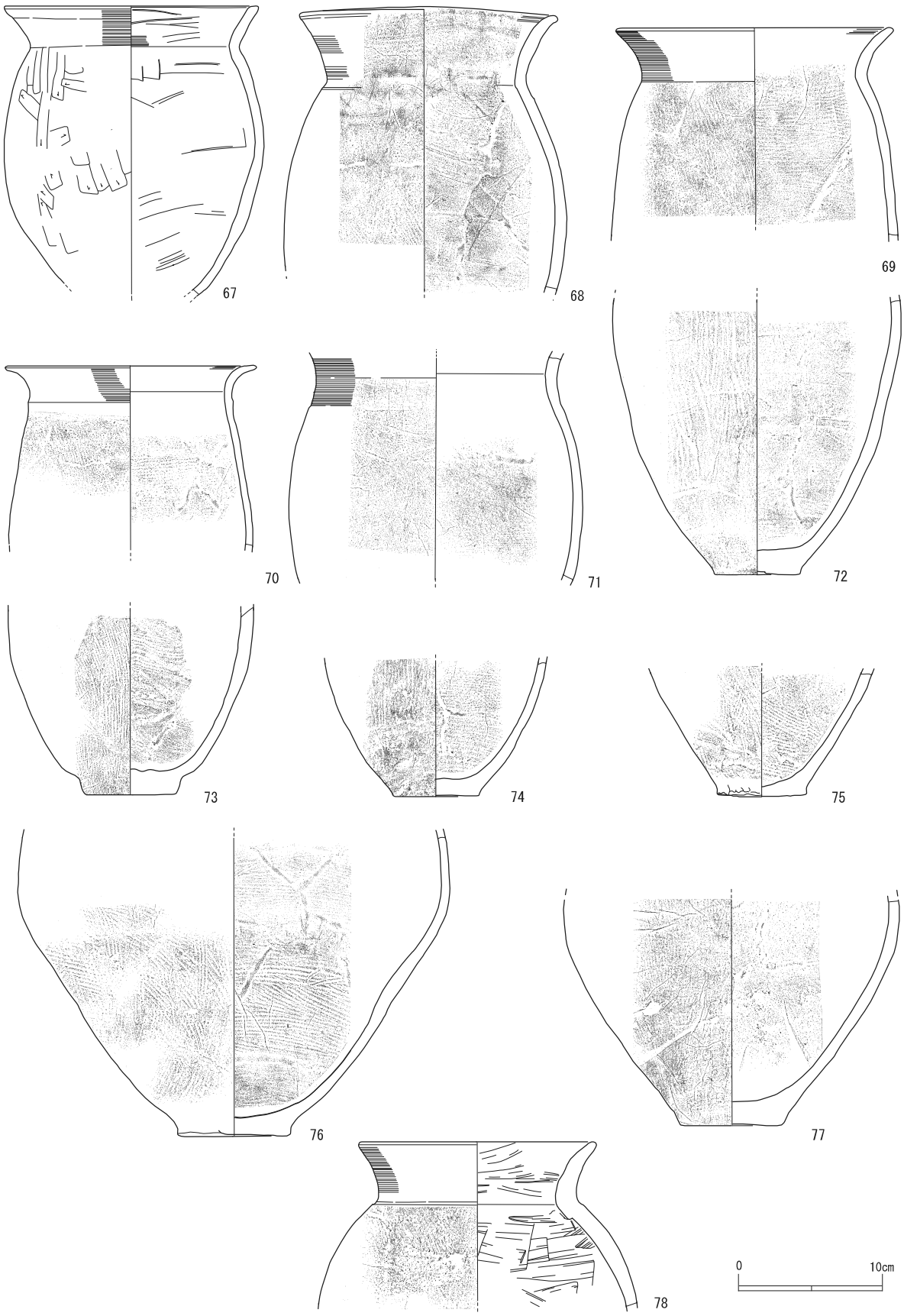
第 25 図　Ⅴ次調査出土遺物実測図(1)



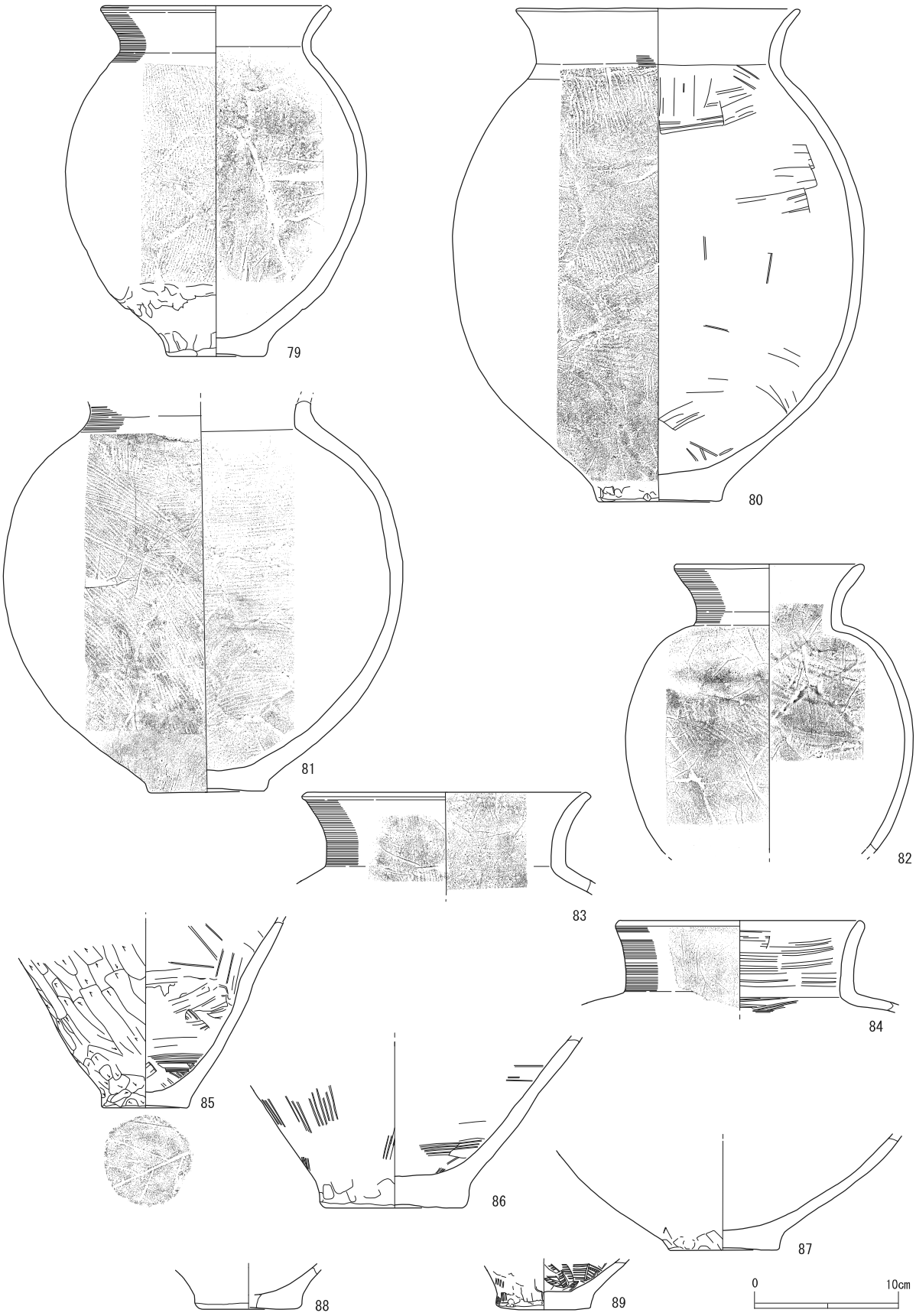
第 26 図　Ⅴ次調査出土遺物実測図(2)



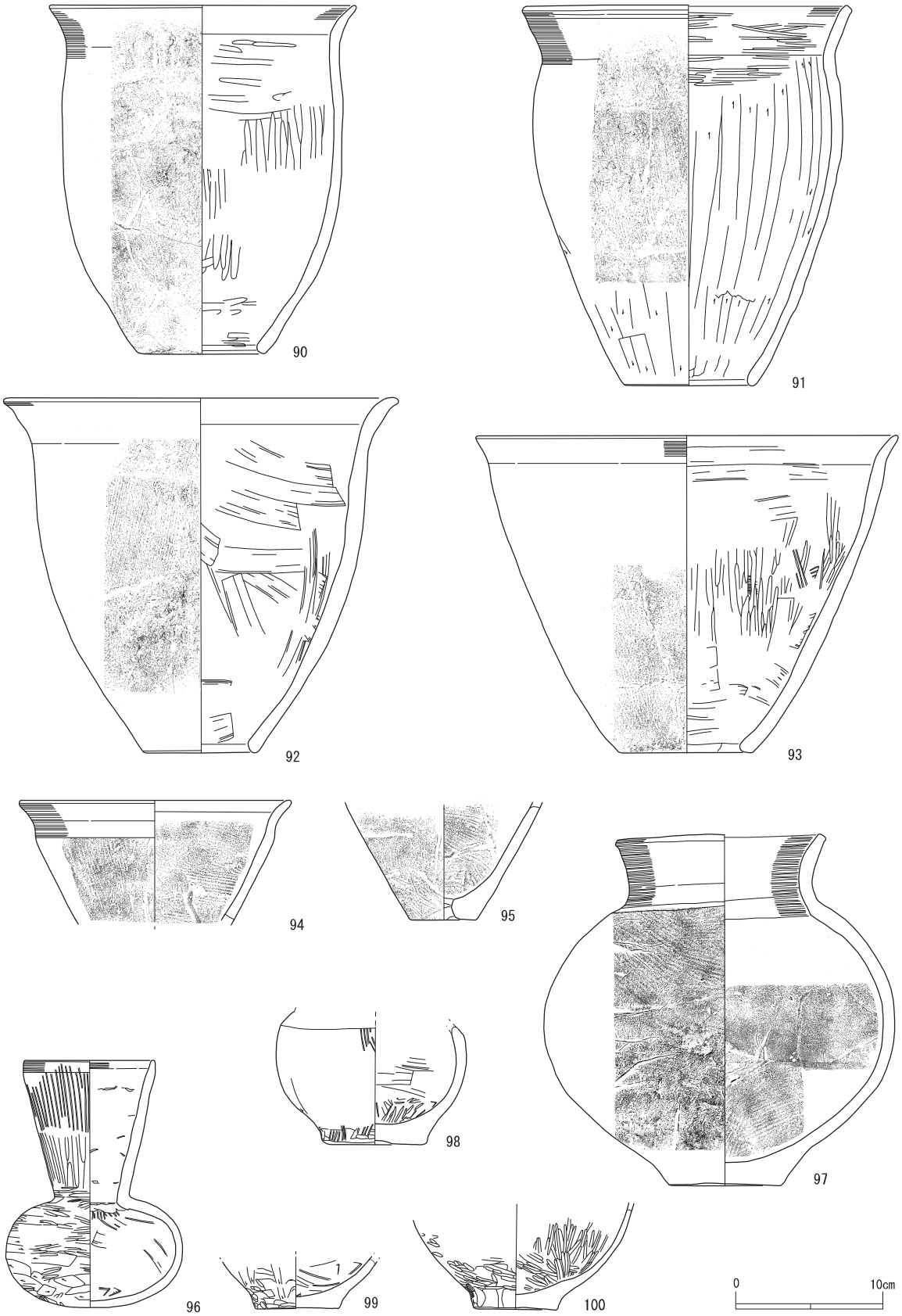
第 27 図　Ⅴ次調査出土遺物実測図(3)



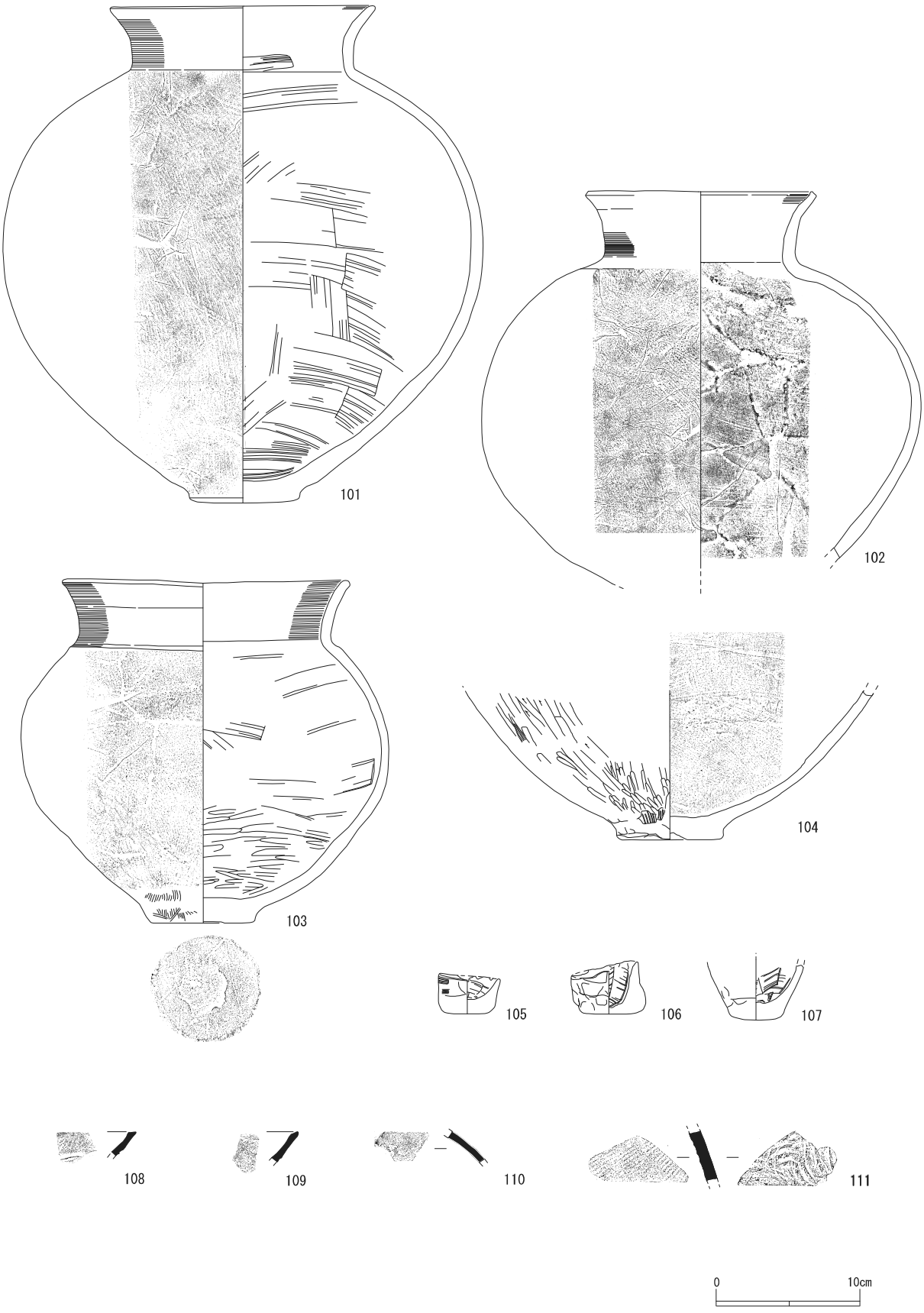
第 28 図　Ⅴ次調査出土遺物実測図(4)



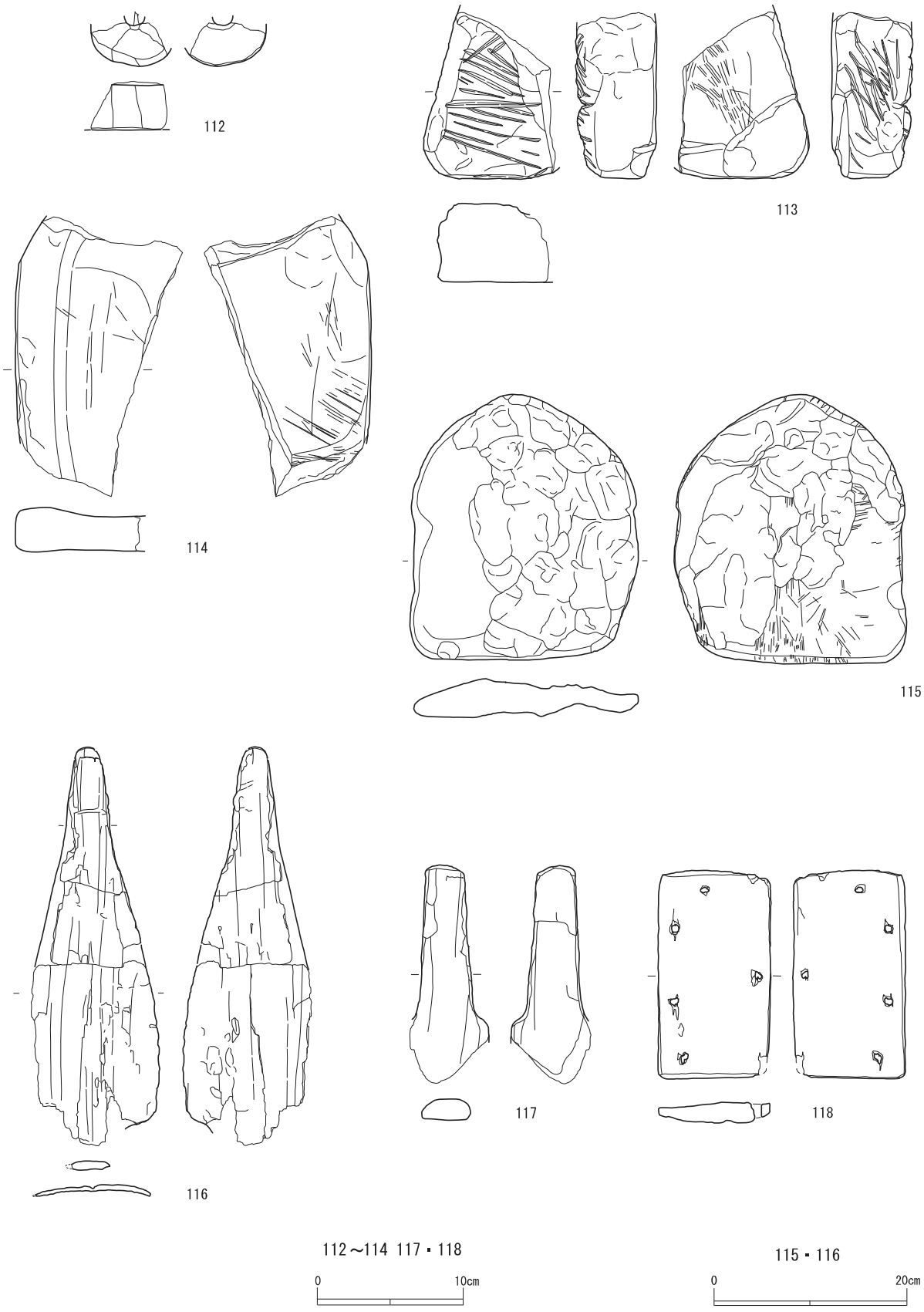
第 29 図　Ⅴ次調査出土遺物実測図(5)



第 30 図　Ⅴ次調査出土遺物実測図(6)

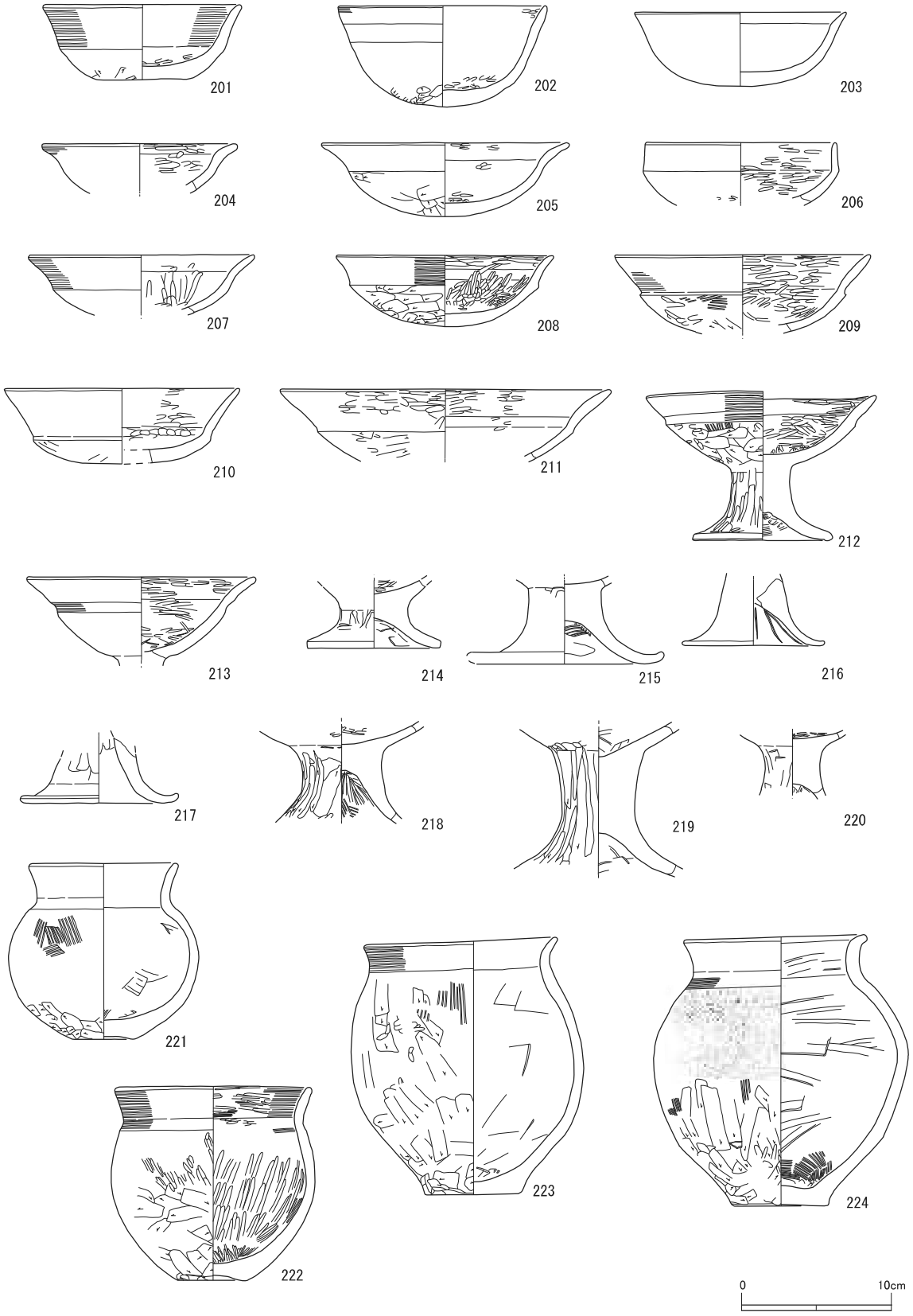


第 31 図　Ⅴ次調査出土遺物実測図(7)

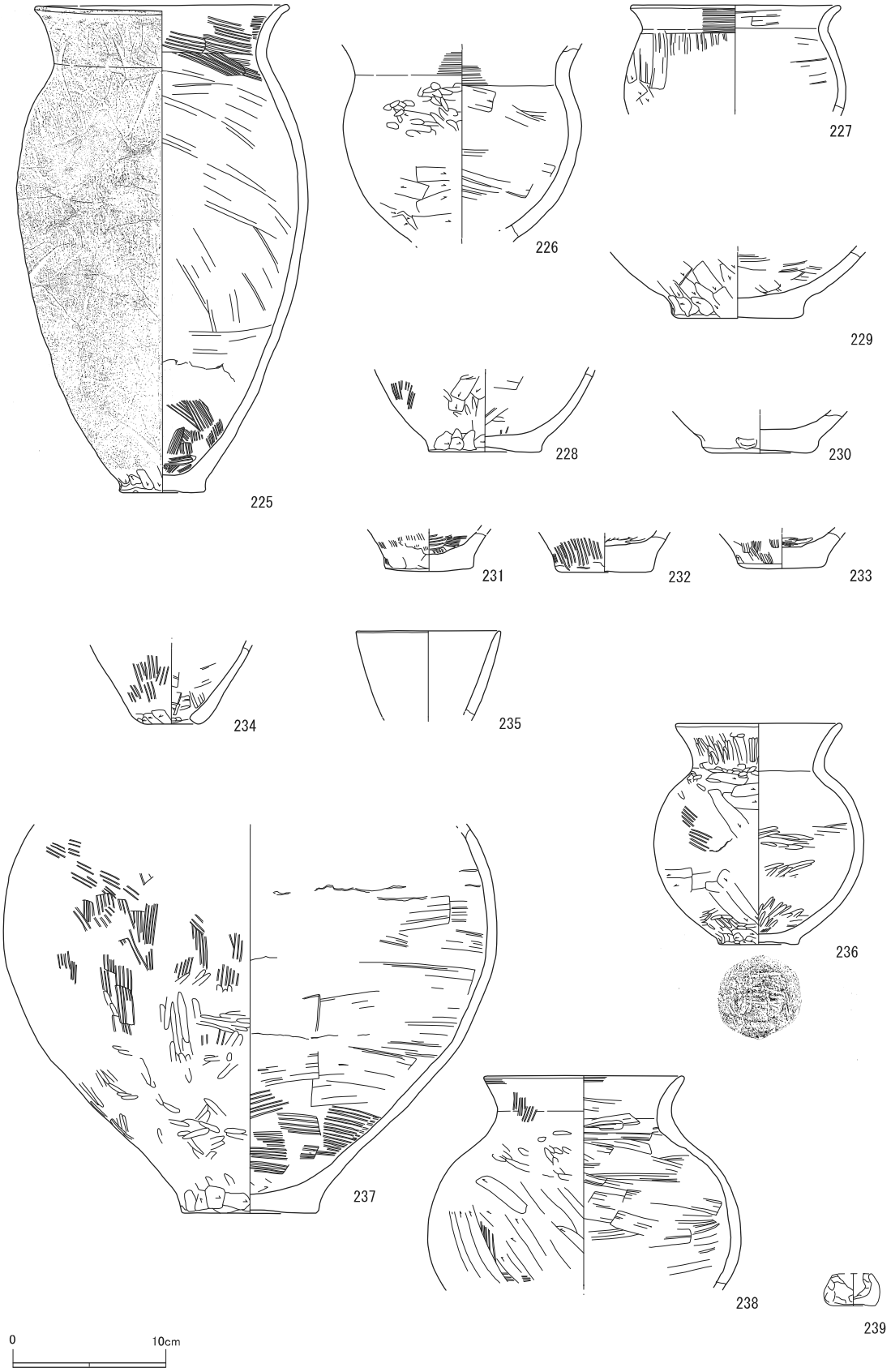


第 32 図　Ⅴ次調査出土遺物実測図(8)

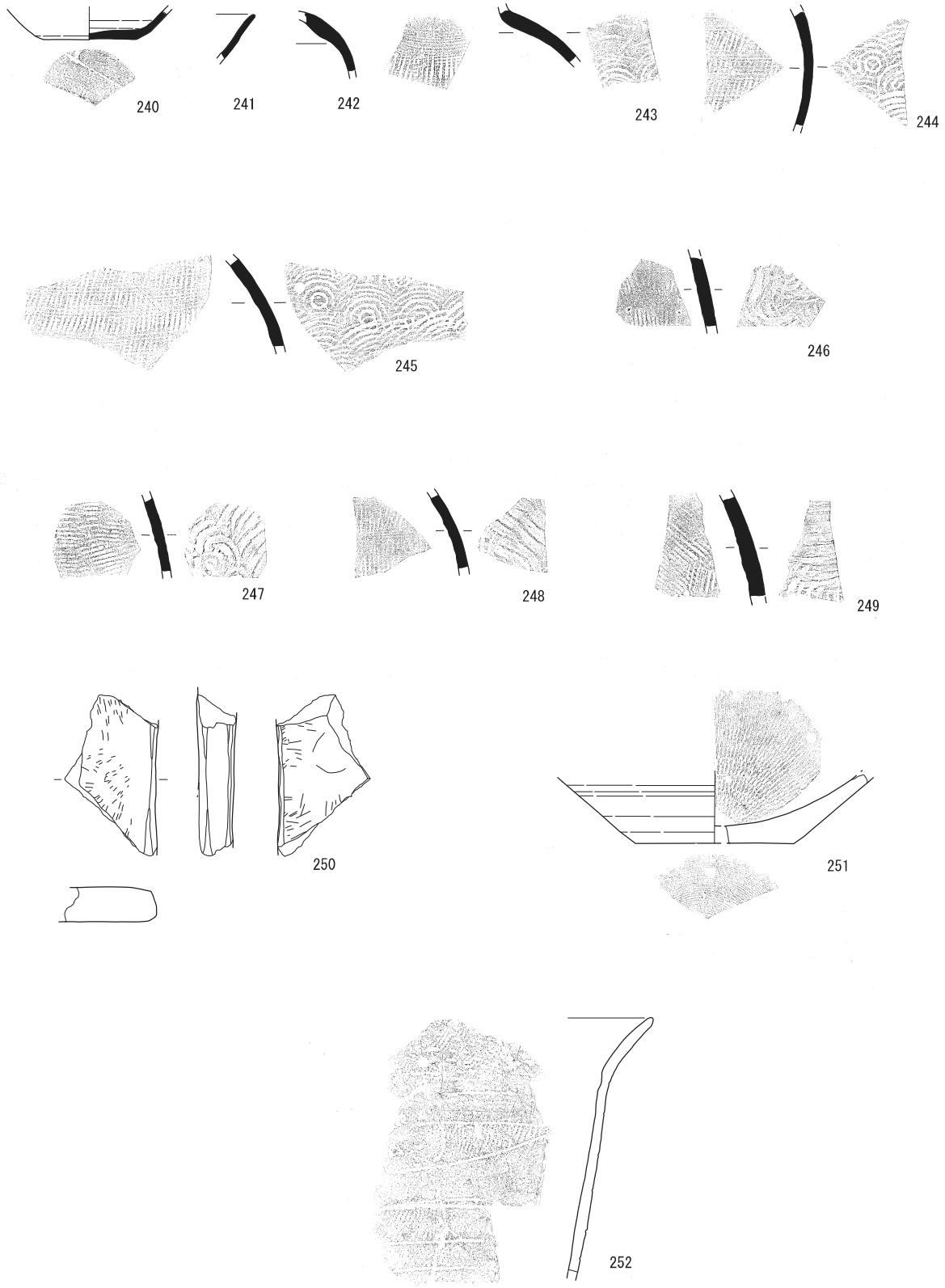
第 33 図　Ⅴ次調査出土遺物実測図(9)



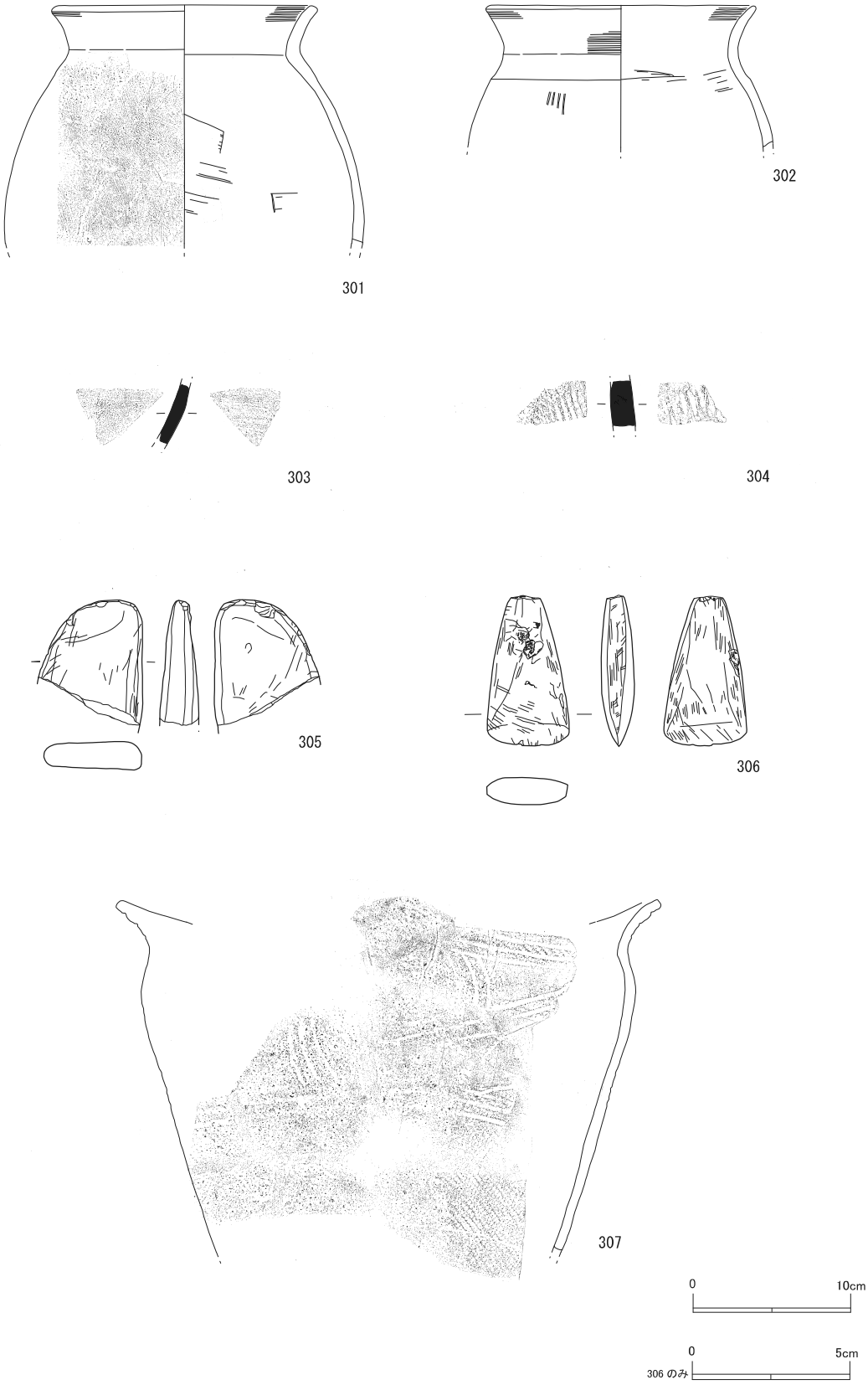
第 34 図　Ⅵ次調査出土遺物実測図(1)



第 35 図　Ⅵ次調査出土遺物実測図(2)



第 36 図　Ⅵ次調査出土遺物実測図(3)



第 37 図　Ⅶ次調査出土遺物実測図

第Ⅳ章　まとめ

１　Ⅴ次調査

平成13年度に実施したⅤ次調査は、集落域西端の確認と、指定地北側区域における河川跡及び水田遺構の範囲確認を目的として行われた。

集落域西端の確認として設定した第１トレンチから、掘方を持つ打込式の柱で構成された掘立柱建物跡が検出された。高床式建物と推定される。これまで西沼田遺跡内で確認されている高床式建物と同じく、２間×２間の総柱で構成されていたが、中央の中通りのみ３間の特殊な構造をしていた。また、床面から建物の東半分を覆うように籾殻が付いたままの炭化米が出土しており、位置的にも、これまでに確認されている集落群から、西に15ｍほど離れていることから、米倉として使用されたものではないかと推定される。

主に水田等の生産遺構の確認として設定した第２トレンチからは、不明瞭ながら畦畔状遺構が検出されているものの、水田土壌の特徴が乏しく、面的な広がりも確認できないことから、水田畦畔と断定するまでには至っていない。しかし、Ｂ２－ｄ１区及びＢ２－ｆ１区では、同一方向に延びる、比較的幅広の畦畔状遺構が検出されており、Ｂ２－ａ１区からＢ２－ｆ１区にかけても、幅狭で比高差が明確ではないながらも数条の畦畔状遺構らしき遺構が確認されていることから、集落のすぐそばでも、何らかの生産活動を行っていたことが伺える。

第３トレンチでは、溝跡が確認されている。溝跡は二時期あり、下層からスクレイパー等の石器が検出された。また、土層の状況から、上層は西沼田遺跡の時代に埋没したものと推定される。これまで確認された旧河川との関連は不明である。

第６トレンチからは、炭化米の集積と丸太材が検出された。丸太材を境に、土壌の違いと同一層序のレベル差がみられることから、水田域の区画として用いられたものと考えられる。

２　Ⅵ次調査

平成15年度に実施したⅥ次調査は、指定地の東南側区域における水田の有無と北側区域での水路の有無の確認を目的として行った。

これまでの西沼田遺跡の調査で、指定地の北東角付近から井堰跡が検出されており、Ⅵ次調査では、そこから延びる導水路を検出することができるのではないかと推定していたが、確認することができなかった。しかしながら、第３トレンチからは、４つの樹根が検出されており、つづく第４トレンチからも、自然木がまとまって確認されていることから、この一帯に林が存在していた可能性が考えられる。出土した樹根の配置には規則性がみられることから、植樹等の可能性も考えられる。第５トレンチの下層の調査では、溝状遺構とその付近から縄文土器１点が検出された。これまでの調査においても、縄文土器やスクレイパー等が出土していることから、この地域一帯が、古墳時代以前から断続的に利用されていた可能性が強くなった。

指定地東南側の区域からは、畦畔状遺構が検出され、面的な広がりとして確認することができた。これまで、水田に関連する遺構は検出されていなかっただけに、大きな成果を得ることができた。

検出された畦畔状遺構は１枚当たりの面積が約1.5～6㎡と、非常に小さいもので、検出状況から、ほぼ南北方向を基軸として構成されていたと推定される。さらに、プラント・オパールが少ないながらも安定して検出されており、当該畦畔状遺構が水田耕作に伴う蓋然性が高いことが示唆される。

また、付近からは自然河川跡及び溝跡が検出されており、畦畔状遺構との密接な関係性が伺える。

畦畔状遺構などが検出されたこの区域からは、住居に関連する遺構はまったくみられなかったことから、集落域と生産域の土地利用上の区域分けが、比較的整然となされていたことも想定される。

３　Ⅶ次調査

平成16年度に実施したⅦ次調査は、指定地の南側隣接における遺構・遺物の範囲確認を目的として行った。

第１トレンチ及び第２トレンチでは、基本層序第17層対応層の直上層から現耕作土及び床土まで、黒泥層が厚く堆積している状況が確認された。遺構や遺物も確認されず、乾燥と湿潤を繰り返す低湿地であったと推定される。

第３トレンチ及び第４トレンチでは、第３トレンチのＥ６－ｆ５区及び第４トレンチのＤ７－ｂ４区以北の調査区で、基本層序第８層対応層及び基本層序第９層対応層を確認することはできたが、水田土壌の特徴はみられなかった。また、遺構や遺物も検出されず、プラント・オパール分析により、多量のヨシ属のプラント・オパールが検出されたことから、ヨシやアシ等が生育する湿地帯であったことが推測される。

第５トレンチでは、土層断面からは、畦畔状遺構の高まりを明確な形で確認することはできなかったものの、平面での確認により、Ｃ６－ｂ３区からＣ７－ｂ２区にかけて、不明瞭ながらも畦畔状遺構と推定される遺構を検出することができた。この付近から採取したサンプルからも、イネのプラント・オパールが比較的高い数値で確認されたことから、当該畦畔状遺構が水田耕作に伴う遺構である蓋然性が高いと考えられる。また、溝跡も検出されているが、畦畔状遺構との関連性については不明である。

第６トレンチでは、Ｂ６－ｂ８区からＢ６－ｂ10区で河川跡が、Ｂ７－ｂ10区付近で溝跡が確認された。河川跡については、指定地内で確認されている河川跡と覆土の状況等が類似することから、同一の流路であった可能性が高い。Ｂ７－ｂ１区より以南の調査区で、畦畔状遺構と考えられる高まりが数条確認されたものの、明確に畦畔とするまでには至らなかった。Ｂ５－ｂ５区の基本層序第17層対応層中から、縄文土器が出土ししているが､付近に遺構は確認されなかった。時期的には十腰内式に比定されるものと思われる。

引用・参考文献

氏家和典1957「東北土師器の型式分類とその編年」歴史第14集
名和達朗ほか1986「西沼田遺跡発掘調査報告書」山形県埋蔵文化財調査報告書第101集
白鳥良一・古川一明1991「２土師器の編年８東北」『古墳時代の研究６土師器と須恵器』雄山閣
渡邊泰伸1991「３須恵器の編年９東北」『古墳時代の研究６土師器と須恵器』雄山閣
大川清ほか1996「古墳時代　東北」『日本土器辞典』雄山閣
荒井格1992「東北地方の木製農耕具」『東北文化論のための先史学歴史学論集』
太田昭夫ほか1991「富沢遺跡－第30次調査報告書Ⅰ（縄文～近世編）－」仙台市文化財調査報告書第149集
工楽善通1991「水田の考古学」東京大学出版会
斎野裕彦1994「東北の水田稲作農耕」『古代の水田を考える』帝塚山考古学研究所
仙台農耕文化勉強会1990「水田跡の基本的理解－仙台市における水田跡の検出と認定－」『第３回東日本の水田跡を考える会資料集』
平間亮輔1991「富沢遺跡－第35次発掘調査報告書－」仙台市文化財調査報告書第150集
矢田勝1999「水田跡と表層地形」『第９回東日本の水田跡を考える会資料集』
天童市教育委員会2002「天童市西沼田遺跡－周辺発掘調査報告書－」天童市埋蔵文化財調査報告書第28集
天童市教育委員会2003「天童市西沼田遺跡－第Ⅰ次発掘調査報告書－」天童市埋蔵文化財調査報告書第29集
天童市教育委員会2006「天童市西沼田遺跡－第Ⅱ次発掘調査報告書－」天童市埋蔵文化財調査報告書第32集
天童市教育委員会2009「国指定史跡西沼田遺跡整備事業報告書」
天童市教育委員会2016「天童市西沼田遺跡－第Ⅲ次発掘調査報告書－」天童市埋蔵文化財調査報告書第38集
天童市教育委員会2017「天童市西沼田遺跡－第Ⅳ次発掘調査報告書－」天童市埋蔵文化財調査報告書第41集

第１表　Ｖ次調査出土土師器ほか観察表(1)

※（　）は推定値を示す

挿図NO.	整理NO.	出土地区（数字は出土地点）	器種	法量（mm）					調整（上段：外面,下段:内面）			胎土	焼成	色調（上段：外面,下段:内面）	彩色	備考
				口径	胴径	底径	器高	器厚	口縁部	体部	底部（脚部）					
1	67	1トレンチ C2-c10（101.106）	坏	(125)		55	(48)	9	不明 ヘラナデ	不明 ハケメ・ヘラナデ・ミガキ	ケズリ ミガキ	粗砂混	堅	灰白色 灰白色		
2	20	TP2	坏	(144)		(82)	(47)	6	ヨコナデ ミガキ	ケズリ・ミガキ ミガキ	ケズリ ミガキ	細砂混	堅	にぶい橙色 黒色	内黒	
3	30	1トレンチ C2-c10（60）	坏	138		51	56	7	ヨコナデ ミガキ	不明 ミガキ	ケズリ ミガキ	細砂混	普通	にぶい黄橙色 黒色	内黒	底部外面中央に だ円形のくぼみ
4	62	1トレンチ 8層 C2-c10	坏	(160)		丸底	(49)	7	ヨコナデ ミガキ	不明 ハケメ・ミガキ	ケズリ ナデ・ミガキ	細砂混	普通	にぶい黄橙色 黒色	内黒	
5	11	TP2	坏	(130)		丸底	46	5	ヨコナデ・ミガキ ミガキ	ミガキ ミガキ	ケズリ ミガキ	細砂混	堅	にぶい橙色 黒色	内黒	
6	43	TP2	坏	(140)		丸底	(52)	6	ヨコナデ ヨコナデ・ハケメ・ミガキ	ケズリ ミガキ	ケズリ ミガキ	細砂混	堅	灰黄褐色 黒色	内黒	外面体部～底部にかけて 煤付着
7	16	TP2	坏	(152)		丸底	(50)	5	ヨコナデ・ケズリ ハケメ・ミガキ	ケズリ ミガキ	ケズリ ミガキ	粗砂混	堅	灰白色 黒色	内黒	
8	57	TP2	坏	(140)		丸底	(50)	5	ヨコナデ ミガキ	ケズリ・ミガキ ミガキ	― ―	粗砂混	堅	灰白色 黒色	内黒	
9	32	1トレンチ C2-c10（73）	坏	146		丸底	58	6	不明 ミガキ	ケズリ・ミガキ ミガキ	ケズリ ミガキ	細砂混	脆弱	橙色 橙色		
10	21	TP2	坏	(150)		丸底	(55)	5	ヨコナデ ミガキ	ケズリ・ミガキ ミガキ	ミガキ ミガキ	細砂混	堅	にぶい橙色 黒色	内黒	
11	60	1トレンチ C2-a10	坏	(126)		丸底	(59)	6	ヨコナデ ヨコナデ	ケズリ・ミガキ ミガキ	ケズリ ミガキ	細砂混	普通	にぶい橙色 黒色	内黒	
12	59	1トレンチ C2-b10（88.97）	坏			丸底	(57)	(7)	― ―	ケズリ・ミガキ ミガキ	ケズリ・ミガキ ミガキ	細砂混	普通	にぶい黄橙色 黒色	内黒	
13	72	1トレンチ C2-c10（100）	坏	(96)	(104)		(61)	6	ヨコナデ ヨコナデ	ケズリ・ミガキ ナデ・ミガキ	― ―	細砂混	堅	明褐灰色 明褐灰色		口縁部外内面に煤付着 口縁から体部内面に付着物 漆か
14	124	1トレンチ 8層	坏	(126)			(82)	7	ヨコナデ ヨコナデ	ハケメ・ケズリ ヘラナデ	― ―	細砂混	普通	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色		
15	28	1トレンチ B2-g10（114）	坏	120		丸底	42	5	ヨコナデ ミガキ	ケズリ・ミガキ ミガキ	ケズリ ミガキ	粗砂混	堅	明褐灰色 にぶい橙色		
16	66	TP1	坏	(140)		丸底	(50)	9	ヨコナデ ヨコナデ	ケズリ・ナデ・ ミガキ ミガキ	ケズリ・ミガキ ミガキ	粗砂混	堅	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	朱彩	外面口縁部及び内面朱彩
17	3	TP2	坏	(160)		丸底	56	6	ハケメ・ヨコナデ ミガキ	ケズリ ミガキ	ケズリ ミガキ	細砂混	堅	にぶい赤橙色 にぶい赤橙色		
18	61	1トレンチ C2-b・c10（29）	坏	148		丸底	(51)	4	ヨコナデ ミガキ	ケズリ ミガキ	ケズリ ミガキ	細砂混	普通	橙色 黒色	内黒	
19	63	1トレンチ 8層 C2-c10	坏	(148)		丸底	(55)	6	ヨコナデ ミガキ	ケズリ 不明	ケズリ 不明	緻密	普通	にぶい橙色 にぶい橙色		
20	10	TP2 Ⅲ次E-2	坏	140		丸底	53	6	ヨコナデ ヨコナデ	ハケメ・ケズリ・ ミガキ ヨコナデ・ミガキ	ケズリ ミガキ	細砂混	堅	灰白色 灰白色		
21	64	1トレンチ C2-b・c10（34）	坏	(150)		丸底	(52)	10	ヨコナデ ミガキ	ケズリ・ナデ ヨコナデ・ミガキ	ケズリ ナデ・ミガキ	細砂混	堅	淡黄橙色 黒色	内黒	
22	23	TP2	坏	(146)		丸底	(54)	5	ヨコナデ ミガキ	ケズリ ミガキ	ケズリ ミガキ	粗砂混	普通	灰色 黒色	内黒	
23	26	1トレンチ C2-c10（32.93）	坏	153		丸底	58	6	ヨコナデ ミガキ	ケズリ・ミガキ ミガキ	ケズリ ミガキ	細砂混	普通	明褐灰色 黒色	内黒	
24	31	1トレンチ C2-c10（50）	坏	146		丸底	50	6	ヨコナデ ミガキ	ケズリ ミガキ	ケズリ ミガキ	細砂混	脆弱	にぶい橙色 淡赤橙色		
25	1	TP2	坏	150		丸底	60	7	ヨコナデ ミガキ	ケズリ ミガキ	ケズリ ミガキ	細砂混	堅	にぶい黄橙色 黒色	内黒	外面口縁部及び底部外面に 煤付着
26	2	TP2	坏	(160)		丸底	53	5	ハケメ・ヨコナデ ミガキ	ケズリ ミガキ	ケズリ ミガキ	細砂混	堅	黒色 黒色	両黒	口縁部内面・底部外内面に 煤付着
27	33	1トレンチ C2-c10（63）	坏	150		丸底	51	5	ヨコナデ ミガキ	ケズリ ミガキ	ケズリ ミガキ	細砂混	普通	にぶい橙色 黒色	内黒	
28	29	1トレンチ C2-c10（51）	高坏	(150)		88	88	7	ヨコナデ ミガキ	ハケメ・ミガキ ミガキ	ハケメ・ケズリ・ ヨコナデ ナデ・ヘラナデ	細砂混	堅	明褐灰色 黒色	内黒	
29	27	1トレンチ C2-c10（43）	高坏	141		90	78	6	ヨコナデ ミガキ	不明 ミガキ	ハケメ ヘラナデ	細砂混	普通	にぶい黄橙色 黒色	内黒	内面中央部荒れている 使用痕か
30	68	1トレンチ C2-h・i10	高坏	(154)		(106)	(108)	8	ヨコナデ ヨコナデ	ケズリ ヨコナデ・ミガキ	ケズリ・ヨコナデ ハケメ・ヨコナデ	粗砂混	堅	浅黄橙色 黒色	内黒	
31	9	TP2 Ⅳ次E3-c1	高坏	(164)		118	91	5	ヨコナデ ミガキ	ケズリ ミガキ	ケズリ・ヨコナデ ヘラナデ・ヨコナデ	細砂混	堅	にぶい橙色 黒色	内黒	
32	48	2トレンチ 7・8層	高坏	(140)			(38)	5	ヨコナデ ミガキ	ハケメ ミガキ	― ―	粗砂混	堅	にぶい橙色 にぶい橙色	朱彩	口縁から体部にかけて外内 面に朱彩
33	56	TP2	高坏	(136)			(43)		ヨコナデ ミガキ	ケズリ ミガキ	― ―	緻密	堅	にぶい橙色 にぶい橙色		
34	12	TP2	高坏	(176)			(42)	7	ヨコナデ・ミガキ ミガキ	ケズリ ミガキ	― ―	粗砂混	堅	橙色 橙色		
35	4	TP2	高坏			94	(51)	8	― ―	― ミガキ	ヨコナデ・ケズリ ケズリ・ヘラナデ	粗砂混	堅	灰白色 浅黄橙色	朱彩	坏部内面に朱彩

第１表　Ｖ次調査出土土師器ほか観察表(2)

※（　）は推定値を示す

挿図NO.	整理NO.	出土地区（数字は出土地点）	器種	法量（mm）					調整（上段：外面,下段:内面）			胎土	焼成	色調（上段：外面,下段:内面）	彩色	備考
				口径	胴径	底径	器高	器厚	口縁部	体部	底部（脚部）					
36	70	TP1	高坏		頸径45	(106)	(60)	7	ー ー	ー 不明	ケズリ ハケメ・ヘラナデ	粗砂混	普通	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色		
37	107	1トレンチ	高坏			(82)	(46)		ー ー	ー ー	ハケメ・ナデ・ヨコナデ ミガキ・ハケメ・ヘラナデ	粗砂混	普通	灰褐色 黒色	内黒	
38	5	TP2	高坏			82	(53)	(9)	ー ー	ー ミガキ	ヨコナデ・ハケメ・ケズリ ヘラナデ・ヨコナデ	細砂混	堅	褐灰色 褐灰色		
39	114	1トレンチ C2-c10	高坏			73	(41)		ー ー	ー 不明	ケズリ ヘラナデ	細砂混	堅	浅黄橙色 にぶい橙色		
40	6	TP2	高坏			(104)	(48)	(7)	ー ー	ー ミガキ	ケズリ・ヨコナデ ヘラナデ	粗砂混	堅	浅黄橙色 にぶい橙色	内黒	
41	69	TP1	高坏		頸径(38)	(100)	(55)	(11)	ー ー	ー 不明	ケズリ・ミガキ 不明	細砂混	普通	にぶい橙色 橙色		
42	119	1トレンチ C2-i10	高坏			(104)	(45)		ー ー	ー ー	ケズリ ハケメ・ヘラナデ	細砂混	堅	浅黄橙色 浅黄橙色		
43	116	1トレンチ C2-c10（106）	高坏			(94)	(25)		ー ー	ー ー	ハケメ・ケズリ・ミガキ ヘラナデ	細砂混	堅	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色		
44	117	1トレンチ C2-b10	高坏			(98)	(17)		ー ー	ー ー	ヨコナデ・ケズリ ハケメ・ヘラナデ	粗砂混	普通	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色		
45	108	1トレンチ 7層	高坏		頸径45		(41)		ー ー	ミガキ ミガキ	ケズリ ナデ	細砂混	堅	灰白色 灰白色		
46	110	1トレンチ C2-a10	高坏		頸径(47)		(37)		ー ー	ー ー	ケズリ ミガキ・ナデ	粗砂混	普通	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色		
47	112	1トレンチ C2-a10	高坏		頸径39		(27)		ー ー	ー ミガキ	ミガキ ナデ	細砂混	堅	にぶい黄橙色 黒色	内黒	
48	77	1トレンチ C2-c10（84）	甕	(120)	124	58	103	6	ヨコナデ 不明	ケズリ ヘラナデ	ケズリ ヘラナデ	粗砂混	脆弱	にぶい黄橙色 にぶい橙色		
49	25	1トレンチ C2-d10（77）	甕	131	120	45	92	5	ハケメ・ヨコナデ 不明	ハケメ ヘラナデ	ケズリ ヘラナデ	粗砂混	普通	にぶい橙色 にぶい橙色		
50	132	TP2	甕	(119)	124	60	(135)	6	ヨコナデ ハケメ・ヨコナデ	ハケメ・ナデ ハケメ・ヘラナデ	ケズリ ヘラナデ	粗砂混	脆弱	にぶい赤褐色 灰褐色		外内面に輪積痕 底部外面に3本の線刻
51	40	1トレンチ C2-c10（76）	甕	(126)		(66)	(179)	10	ヨコナデ ヨコナデ	ハケメ・ケズリ ハケメ	ハケメ・ケズリ ハケメ・ナデ	粗砂混	普通	明褐灰色 褐灰色		
52	39	1トレンチ C2-c10（38.97）	甕	135		62	152	6	ヨコナデ ヨコナデ・ヘラナデ	ハケメ ハケメ・ヘラナデ	ケズリ ハケメ	細砂混	普通	にぶい橙色 にぶい橙色		
53	88	1トレンチ C2-c・d 10（85）	甕	(136)	(142)		(103)	6	ヨコナデ ヨコナデ	ハケメ ハケメ・ヘラナデ	ー ー	粗砂混	普通	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色		
54	85	1トレンチ C2-c 10（32）	甕	(193)		70	(94)	6	ヨコナデ ヨコナデ	ハケメ・ケズリ ヘラナデ	ハケメ・ケズリ ヘラナデ・ミガキ	細砂混	堅	にぶい黄橙色 黒色		
55	80	1トレンチ C2-b 10（19）	甕		(116)	58	(75)	6	ー ー	ケズリ ヘラナデ	ケズリ ケズリ・ヘラナデ	細砂混	堅	にぶい褐色 褐灰色		
56	83	1トレンチ 8層 C2-c10	甕			56	(64)	7	ー ー	ケズリ ヘラナデ	ケズリ ヘラナデ	粗砂混	堅	にぶい橙色 にぶい橙色		
57	79	1トレンチ C2-c 10（64）	甕			52	(82)	7	ー ー	ハケメ ハケメ	ナデ ハケメ	粗砂混	普通	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色		
58	75	1トレンチ C2-c 10（69）	甕			(62)	(47)	8	ー ー	ハケメ・ケズリ ハケメ・ヘラナデ	ナデ ハケメ・ヘラナデ	細砂混	堅	にぶい橙色 にぶい橙色		
59	126	1トレンチ 8層	甕			(60)	(16)		ー ー	ハケメ ー	ハケメ ヘラナデ	粗砂混	普通	灰黄褐色 にぶい黄橙色		
60	35	1トレンチ C2-c10（65）	甕	(135)	182	64	(282)	7	ヨコナデ ハケメ・ヘラナデ	ハケメ・ケズリ ヘラナデ	ケズリ ヘラナデ	粗砂混	普通	にぶい橙色 にぶい橙色		
61	103	1トレンチ C2-b・c10（43）	甕		(180)	(58)	(257)	(6)	ー ー	ハケメ・ケズリ ハケメ	ケズリ ナデ	細砂混	普通	にぶい橙色 にぶい橙色		
62	101	1トレンチ C2-c10（43）	甕		(190)	(62)	(282)	9	ー ー	ハケメ・ケズリ ハケメ	ケズリ ハケメ	粗砂混	普通	灰褐色 灰褐色		
63	97	1トレンチ C2-b・c10（26.28.33.34）	甕	178	(215)		(209)	7	ハケメ・ヨコナデ ハケメ・ヨコナデ	ハケメ ヘラナデ	ー ー	細砂混	普通	にぶい黄橙色 褐灰色		
64	100	1トレンチ C2-c10（95）	甕	172			(133)	7	ハケメ・ヨコナデ ハケメ・ヨコナデ	ハケメ ヘラナデ	ー ー	細砂混	堅	にぶい橙色 にぶい橙色		
65	93	1トレンチ C2-c10（43）	甕	(148)	(160)		(139)	(9)	ハケメ・ヨコナデ ヨコナデ	ハケメ ハケメ	ー ー	細砂混	普通	明褐灰色 明褐灰色		
66	14	TP2	甕	173	178	58	228	6	ハケメ・ヨコナデ ハケメ・ヨコナデ	ハケメ・ケズリ ハケメ・ヘラナデ	ケズリ ヘラナデ	細砂混	堅	浅黄橙色 浅黄橙色		輪積痕あり
67	34	1トレンチ C2-c・d10（81.82）	甕	176	180		(200)	7	ヨコナデ ヨコナデ・ヘラナデ	ケズリ・ミガキ ヘラナデ	ー ー	細砂混	堅	にぶい橙色 にぶい橙色		
68	99	1トレンチ C2-c10（76）	甕	(178)			(194)	8	ハケメ・ヨコナデ ハケメ・ヨコナデ	ハケメ ヘラナデ	ー ー	粗砂混	普通	にぶい橙色 灰褐色		
69	94	1トレンチ B2-j10（86）	甕	(192)			(143)	7	ハケメ・ヨコナデ ハケメ・ヨコナデ	ハケメ ハケメ	ー ー	細砂混	普通	明褐灰色 明褐灰色		
70	92	1トレンチ C2-b・c10（30）	甕	(174)	(170)		(125)	5	ヨコナデ ヨコナデ	ハケメ ハケメ	ー ー	細砂混	普通	淡赤橙色 灰赤色		

第１表　Ｖ次調査出土土師器ほか観察表(3)

※（　）は推定値を示す

挿図NO.	整理NO.	出土地区（数字は出土地点）	器種	法量（mm）					調整（上段：外面,下段:内面）			胎土	焼成	色調（上段：外面,下段:内面）	彩色	備考
				口径	胴径	底径	器高	器厚	口縁部	体部	底部（脚部）					
71	95	TP2	甕	頸径(167)	(204)				― ―	ハケメ・ヨコナデ ヘラナデ	― ―	粗砂混	堅	にぶい橙色 褐灰色		
72	89	1トレンチ C2-b・c10（90.106）	甕		(200)	58	(190)	8	― ―	ハケメ・ケズリ ヘラナデ	ナデ ナデ・ヘラナデ	細砂混	堅	にぶい褐色 灰褐色		
73	82	1トレンチ C2-b・c10（25）	甕			62	(127)	9	― ―	ハケメ ハケメ	ケズリ・ナデ ハケメ	細砂混	堅	灰褐色 にぶい橙色		
74	81	1トレンチ C2-c10（33）	甕			60	(92)	6	― ―	ハケメ・ケズリ ハケメ	ケズリ ハケメ	細砂混	堅	灰褐色 灰褐色		
75	74	1トレンチ C2-b・c10（27）	甕			63	(85)	(7)	― ―	ハケメ ハケメ・ヘラナデ	ハケメ・ケズリ ハケメ・ヘラナデ	粗砂混	堅	にぶい赤褐色 にぶい橙色		外面体部下半に煤付着
76	44	TP2 Ⅲ次E2-c・d10	甕		(300)	(78)	(206)	6	― ―	ハケメ・ケズリ ハケメ・ヘラナデ	ケズリ・ナデ ハケメ	粗砂混	堅	灰黄褐色 灰黄褐色		体部下半に段（くびれ）がつく
77	22	TP2	甕		(233)	72	(157)	8	― ―	ハケメ・ケズリ ヘラナデ	ケズリ ヘラナデ	粗砂混	堅	橙色 にぶい橙色		外・内面に対応する輪状の黒斑あり
78	98	1トレンチ C2-c10（113）	甕	165			(113)		ヨコナデ ヨコナデ・ヘラナデ	ハケメ ヘラナデ	― ―	細砂混	普通	灰白色 にぶい黄橙色		
79	24	TP2 Ⅲ次E2-d10	甕	(160)	234	80	274	9	ヨコナデ ハケメ	ハケメ・ケズリ ハケメ・ヘラナデ	ケズリ ハケメ	粗砂混	普通	明褐灰色 にぶい橙色		体部下半に段（くびれ）がつく
80	17	1トレンチ C2-c10（67 69 72）	甕	(196)	(284)	(80)	(242)	8	ヨコナデ 不明	ハケメ・ケズリ・ミガキ ヘラナデ	ケズリ ヘラナデ	粗砂混	普通	にぶい橙色 にぶい橙色		
81	19	TP2	甕		276	80	(268)	8	― ―	ハケメ・ヨコナデ・ケズリ ハケメ	ケズリ・ミガキ ハケメ	粗砂混	堅	淡赤橙色 淡赤橙色		
82	102	TP2	甕	(132)	(200)		(198)	7	ハケメ・ヨコナデ ハケメ・ヨコナデ	ハケメ・ケズリ・ミガキ ヘラナデ	― ―	細砂混	堅	橙色 浅黄橙色		
83	90	1トレンチ C2-b10（4）	甕	(194)			(61)	9	ハケメ・ヨコナデ ハケメ	― ―	― ―	粗砂混	普通	にぶい黄橙色 灰黄褐色		
84	91	1トレンチ C2-b・c10（34.90）	甕	(172)			(57)	9	ハケメ・ヨコナデ ハケメ・ヨコナデ	ハケメ ヘラナデ	― ―	粗砂混	普通	灰白色 灰白色		
85	84	1トレンチ C2-c10（64）	甕			60	(128)	8	― ―	ケズリ ヘラナデ	ケズリ ハケメ・ヘラナデ	粗砂混	堅	にぶい橙色 にぶい橙色		底部外面に木葉痕
86	86	1トレンチ C2-c10（53.55）	甕			96	(115)	(10)	― ―	ハケメ・ケズリ ハケメ	ケズリ ハケメ	粗砂混	普通	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色		底部内面に×印
87	125	1トレンチ 7・8層	甕			(76)	(77)	(7)	― ―	ケズリ 不明	ケズリ 不明	粗砂混	普通	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色		
88	53	2トレンチ	甕			(72)	(24)		― ―	不明 不明	不明 不明	粗砂混	脆弱	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色		
89	73	1トレンチ C2-b10	甕			67	(33)		― ―	ハケメ・ケズリ ハケメ	ナデ ハケメ	細砂混	普通	褐灰色 灰褐色		
90	36	1トレンチ C2-b・c10（26.44）	甑	(210)	(190)	(84)	239	8	ヨコナデ ヨコナデ	ハケメ・ミガキ ハケメ・ミガキ	ケズリ ケズリ	細砂混	普通	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色		体部外面に煤付着
91	37	1トレンチ C2-b・c10（8.26.90.92.93）	甑	224	210	86	259	8	ヨコナデ ヨコナデ・ハケメ・ミガキ	ハケメ・ケズリ ケズリ	ケズリ ケズリ	粗砂混	普通	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色		
92	38	1トレンチC2-b・c10（12.13.16.45.46）	甑	(268)		(76)	(242)	11	ハケメ・ヨコナデ 不明	ハケメ ヘラナデ	ハケメ ナデ	粗砂混	普通	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色		
93	96	1トレンチ C2-c10（58.61.64）	甑	(286)			(215)	9	ヨコナデ ヘラナデ	ハケメ・ミガキ ヘラナデ・ハケメ・ミガキ	ケズリ ヘラナデ	粗砂混	普通	にぶい橙色 にぶい黄橙色		
94	128	1トレンチ 8層	甑	(184)			(80)	7	ヨコナデ ハケメ・ヨコナデ	ハケメ・ケズリ ハケメ	― ―	細砂混	堅	灰黄褐色 灰黄褐色		
95	87	1トレンチ C2-c10（61）	甑			44	(76)	8	― ―	ハケメ・ケズリ ハケメ	ハケメ・ケズリ ハケメ	粗砂混	堅	橙色 にぶい橙色		
96	42	1トレンチ C2-c10（98）	壺	88	120	丸底	168	6	ハケメ・ヨコナデ・ミガキ ヨコナデ	ケズリ・ミガキ ハケメ・ヘラナデ	ケズリ・ミガキ ヘラナデ	細砂混	普通	にぶい橙色 にぶい橙色	朱彩	朱彩（口縁部外内面・体～底部 外面）
97	15	TP2	壺	142	236	75	236	8	ヨコナデ ヨコナデ	ハケメ・ケズリ ハケメ・ヘラナデ・ミガキ	ケズリ ハケメ	粗砂混	堅	にぶい褐色 褐灰色		
98	78	1トレンチ C2-b10（108）	壺		(130)	70	(90)	(7)	― ―	ハケメ・ケズリ ヨコナデ・ミガキ	ナデ ヨコナデ・ミガキ	粗砂混	普通	にぶい黄橙色 にぶい橙色		
99	76	1トレンチ 8層 C2-c10	壺			55	(30)	6	― ―	ケズリ・ミガキ ヘラナデ	ケズリ・ミガキ ヘラナデ	細砂混	堅	にぶい橙色 にぶい橙色		
100	65	1トレンチ C2-c10（73）	壺			57	(68)	4	― ―	ハケメ・ケズリ・ミガキ ヘラナデ・ミガキ	ケズリ・ミガキ ミガキ	細砂混	普通	褐灰色 褐灰色		内面に煤付着
101	104	TP2	壺	(184)	(332)	(76)	(344)	8	ハケメ・ヨコナデ ヨコナデ・ヘラナデ	ハケメ ヘラナデ	ケズリ ヘラナデ	粗砂混	堅	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色		
102	18	TP2	壺	(160)	(304)		(272)	7	ハケメ・ヨコナデ ハケメ・ヨコナデ	ハケメ・ケズリ ハケメ	― ―	粗砂混	普通	灰白色 明褐灰色		
103	41	1トレンチ C2-b・c10（27）	壺	200	256	73	239	7	ヨコナデ ヨコナデ	ハケメ ヘラナデ・ミガキ	ナデ ミガキ	粗砂混	堅	にぶい橙色 にぶい橙色		外面体部中央部に横方向の擦痕、体部下半に段（くびれ）がつく 底部木葉痕
104	133	TP2	壺			70	(100)	(8)	― ―	ハケメ・ケズリ・ミガキ ヘラナデ・ハケメ	ケズリ ハケメ	細砂混	堅	明赤褐色 にぶい黄橙色		
105	71	X-0	ミニチュア土器	43		30	28	8	ハケメ 不明	ハケメ ナデ	ケズリ ナデ	粗砂混	堅	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色		

第１表　Ⅴ次調査出土土師器ほか観察表(4)

※（　）は推定値を示す

挿図NO.	整理NO.	出土地区（数字は出土地点）	器種	法量（mm）					調整（上段：外面,下段:内面）			胎土	焼成	色調（上段：外面,下段:内面）	彩色	備考
				口径	胴径	底径	器高	器厚	口縁部	体部	底部（脚部）					
106	7	TP2	ミニチュア土器	45		30	34	4	押圧・ナデ ヘラナデ	押圧・ナデ ヘラナデ	ナデ ヘラナデ	粗砂混	普通	灰白色 灰白色		
107	8	TP2	ミニチュア土器			35	(38)	4	― ―	ナデ ヘラナデ	不明 ヘラナデ	細砂混	堅	褐灰色 褐灰色		
1	49	TP2	坏				(25)	4	ヨコナデ ヨコナデ	ナデ・ケズリ ヨコナデ	― ―	粗砂混	堅	黒褐色 黒色		参考資料1
2	120	1トレンチ	坏				(42)	5	ヨコナデ ヨコナデ・ミガキ	ケズリ ミガキ	― ―	緻密	堅	黒色 黒色	内黒	参考資料2
3	51	TP2	壺	(76)			(26)	3.5	ヨコナデ・ハケメ ヨコナデ	― ―	― ―	細砂混	堅	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色		参考資料3
4	54	TP2	壺				(42)	4	ナデ ヨコナデ	― ―	― ―	細砂混	普通	灰白色 灰白色		参考資料4
5	52	TP2	壺				(40)	8	ミガキ・ケズリ ナデ	ケズリ ナデ	― ―	細砂混	堅	灰白色 灰白色		参考資料5
6	123	1トレンチ C2-c10	甑				(38)	8	― ―	― ―	ハケメ・ケズリ ヘラナデ	粗砂混	普通	灰白色 黒褐色		参考資料6
7	122	1トレンチ 7層	甑				(32)	7	― ―	― ―	ケズリ ケズリ	粗砂混	堅	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色		参考資料7
8	121	1トレンチ 8層 C2-c10	鉢				(65)	6	ミガキ ヘラナデ・ミガキ	― ―	― ―	粗砂混	普通	にぶい橙色 橙色		参考資料8
9	130	X-0	縄文土器深鉢				(40)	7	先端部刻目文	― ―	― ―	細砂混	普通	にぶい橙色 褐灰色		参考資料9

第２表　Ⅵ次調査出土土師器ほか観察表(1)

※（　）は推定値を示す

挿図NO.	整理NO.	出土地区（数字は出土地点）	器種	法量（mm）					調整（上段：外面,下段:内面）			胎土	焼成	色調（上段：外面,下段:内面）	彩色	備考
				口径	胴径	底径	器高	器厚	口縁部	体部	底部（脚部）					
201	2	E3-j3	坏	(132)		(58)	50	9	ヨコナデ ヨコナデ	ケズリ ミガキ	― ミガキ	細砂混	普通	灰黄褐色 灰黄褐色		底部外面に木葉痕
202	60	2トレンチ E3-j1.2	坏	138		丸底	67	7	ヨコナデ ミガキ	ケズリ 不明	ケズリ ミガキ	粗砂混	普通	にぶい橙色 にぶい橙色		
203	1	東側拡張区	坏	(140)		丸底	(49)	8	不明 不明	不明 不明	不明 不明	細砂混	普通	浅黄橙色 浅黄色		
204	4	SD602	坏	(130)			(30)	(6)	ヨコナデ ミガキ	不明 ミガキ	― ―	細砂混	普通	にぶい黄橙色 黒色	内黒	
205	62	2トレンチ北側	坏	(164)		丸底	49	7	不明 ミガキ	ケズリ ミガキ	ケズリ ミガキ	細砂混	堅	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色		外面底面に十字状の線刻
206	7	北側拡張区	坏	(130)			(39)	6	不明 ミガキ	ミガキ ミガキ	― ―	細砂混	堅	にぶい黄橙色 黒色	内黒	
207	3	X-0	坏	(150)			(38)	6	ヨコナデ ミガキ	不明 ミガキ	― ―	細砂混	普通	浅黄色 にぶい黄橙色		
208	61	2トレンチ北側	坏	144		丸底	47	6	ヨコナデ ミガキ	ケズリ ミガキ	ケズリ ミガキ	細砂混	堅	にぶい黄橙色 黒色	内黒	
209	5	北側拡張区	坏	(170)			(51)	(6)	ヨコナデ ハケメ・ミガキ	ハケメ・ケズリ・ ミガキ ミガキ	― ―	細砂混	堅	にぶい黄橙色 黒色	内黒	
210	6	東側拡張区	坏	(176)		丸底	(50)	8	不明 ミガキ	ケズリ ミガキ	ケズリ ミガキ	細砂混	普通	にぶい黄橙色 黒色	内黒	
211	8	SD602	坏	(220)			(46)	(6)	ミガキ ミガキ	ケズリ・ミガキ ミガキ	― ―	細砂混	堅	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色		
212	65	西側拡張区	高坏	152		92	99	8	ヨコナデ ミガキ	ハケメ・ケズリ・ ミガキ ミガキ	ケズリ・ミガキ ハケメ・ヘラナデ	細砂混	堅	にぶい黄橙色 黒色	内黒	
213	21	北側拡張区	高坏	(152)			(55)	(7)	ヨコナデ ミガキ	不明 ミガキ	― ―	細砂混	堅	にぶい黄橙色 黒色	内黒	
214	24	SD603	高坏			(88)	(45)	(8)	― ―	― ミガキ	ケズリ・ミガキ ヘラナデ	細砂混	堅	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	内黒	
215	22	北側拡張区	高坏		頸径 48	(131)		(8)	― ―	― ―	ケズリ・ミガキ ハケメ・ナデ	細砂混	普通	にぶい橙色 褐灰色		
216	23	1トレンチ東半部	高坏			(94)	(44)	(7)	― ―	― ―	不明 不明	細砂混	脆弱	橙色 橙色	朱彩	脚部外面に朱彩 内面に中心から外へ放射状の線刻
217	25	1トレンチ東半部	高坏			(105)	(44)	(8)	― ―	― ―	ケズリ ヘラナデ	細砂混	堅	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色		
218	27	北側拡張区	高坏				(62)	(10)	― ―	ミガキ ミガキ	ケズリ・ミガキ ヘラナデ・ハケメ	細砂混	普通	にぶい橙色 黒色	内黒	
219	26	SD603	高坏				(98)	(10)	― ―	― ―	― ―	細砂混	普通	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色		
220	28	北側拡張区	高坏				(35)			不明 ミガキ	ケズリ ナデ	細砂混	普通	にぶい黄橙色 黒色	内黒	
220	28	北側拡張区	高坏				(35)		― ―	不明 ミガキ	ケズリ ナデ	細砂混	普通	にぶい黄橙色 黒色	内黒	
221	63	2トレンチ　E3-j3	甕	(98)	(126)	40	(117)	7	不明 不明	ハケメ・ケズリ ヘラナデ	ケズリ ヘラナデ	細砂混	普通	にぶい橙色 にぶい黄橙色		

第２表　Ⅵ次調査出土土師器ほか観察表(2)

※（　）は推定値を示す

挿図NO.	整理NO.	出土地区（数字は出土地点）	器種	法量（mm）					調整（上段：外面,下段:内面）			胎土	焼成	色調（上段：外面,下段:内面）	彩色	備考
				口径	胴径	底径	器高	器厚	口縁部	体部	底部（脚部）					
222	67	西側拡張区	甕	(130)	(135)	46	(129)	8	ヨコナデ ヨコナデ・ミガキ	ケズリ・ミガキ ヨコナデ・ミガキ	ケズリ ミガキ	細砂混	堅	にぶい黄橙色 褐灰色	内黒	
223	66	3トレンチ	甕	(128)	154	64	(171)	8	ヨコナデ 不明	ハケメ・ケズリ・ミガキ ヘラナデ	ケズリ ヘラナデ	粗砂混	普通	浅黄橙色 浅黄橙色		
224	69	2トレンチ　E3-j3	甕	(121)	(169)	(62)	(180)	9	ヨコナデ ヘラナデ	ハケメ・ケズリ・ミガキ ヘラナデ	ケズリ ハケメ	粗砂混	堅	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色		体部上半に段がつく
225	70	2トレンチ　E3-j3	甕	166	189	56	(319)	7	ヨコナデ・ハケメ ハケメ・ヘラナデ	ハケメ・ケズリ ヘラナデ	ケズリ ハケメ	細砂混	堅	灰黄褐色 褐灰色		体部外面に煤、コゲ付着
226	34	SD603	甕		(156)		(122)	(9)	ヨコナデ ヨコナデ	ケズリ・ミガキ ヘラナデ	― ―	粗砂混	普通	浅黄橙色 にぶい黄橙色		体部外面に煤付着
227	35	2トレンチ北側	甕	(136)	(144)		(67)	(6)	ヨコナデ ヘラナデ	ケズリ・ヘラナデ ヘラナデ	― ―	細砂混	堅	灰褐色 にぶい褐色		
228	38	3トレンチ北側	甕			(74)	(51)	(6)	― ―	ケズリ・ハケメ・ミガキ ヘラナデ	ハケメ・ケズリ ヘラナデ	粗砂混	普通	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色		
229	39	北側拡張区	甕			84	(43)		― ―	ケズリ ヘラナデ	ケズリ ヘラナデ	粗砂混	堅	橙色 にぶい黄橙色		内面に煤付着
230	40	1トレンチ北側	甕			68	(25)		― ―	ケズリ 不明	ケズリ 不明	粗砂混	普通	灰黄色 にぶい黄橙色		
231	41	北側拡張区	甕			58	(24)		― ―	ハケメ ハケメ	ケズリ ハケメ	細砂混	堅	にぶい黄橙色 褐灰色		
232	42	SD602	甕			62	(23)		― ―	ハケメ ―	不明 ヘラナデ	細砂混	堅	にぶい橙色 にぶい黄橙色		底部外面に木葉痕
233	43	SD603	甕			56	(23)		― ―	ハケメ・ケズリ ―	ケズリ ヘラナデ・ハケメ	粗砂混	脆弱	にぶい黄橙色 褐灰色		
234	46	SD603	甑			(35)	(50)		― ―	ハケメ ヘラナデ	ケズリ ケズリ	粗砂混	普通	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色		
235	29 30	1トレンチ東端部・ 2トレンチ北側	壺	(94)			(55)	(6)	不明 不明	― ―	― ―	細砂混	普通	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	朱彩	29.30接合 口縁部外内面に朱彩
236	68	2トレンチ　E3-j3	壺	(108)	(136)	(50)	(144)	6.5	ミガキ 不明	ハケメ・ケズリ・ミガキ ヘラナデ・ミガキ	ケズリ ハケメ・ヘラナデ・ ミガキ	細砂混	普通	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色		
237	31	2トレンチ E3-j1.2	壺		(322)	88	(251)	(7)	― ―	ハケメ・ミガキ・ ケズリ ヘラナデ・ハケメ	ケズリ ヘラナデ・ハケメ	細砂混	普通	にぶい橙色 にぶい橙色		
238	32	2トレンチ北側	壺	(130)	(204)		(131)	(7)	ハケメ・ヨコナデ ヘラナデ・ヨコナデ	ハケメ・ケズリ・ミガキ ヘラナデ	― ―	粗砂混	堅	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色		
239	64	西側拡張区	ミニチュア土器	(25)		30	(21)		押圧・ナデ 押圧	押圧 押圧	押圧 押圧	細砂混	堅	にぶい黄橙色 にぶい橙色		
251	58	X-0	中世陶器擂鉢			(104)	(45)	(9)	― ―	ロクロ 卸目	回転糸切り 卸目	細砂混	堅	褐灰色 灰黄褐色		
252	57	5トレンチ	縄文土器深鉢				(166)	(7)	縄文・刺突文 ―	沈線・縄文 ―	― ―	緻密	普通	にぶい橙色 褐灰色		
	14	1トレンチ東側	坏				(37)	(6.5)	ミガキ ミガキ	ミガキ ミガキ	― ―	細砂混	堅	褐灰色 黒色	内黒	参考資料1
	11	SD602	坏				(48)	(6)	ヨコナデ・ミガキ ミガキ	ミガキ ミガキ	― ―	細砂混	堅	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色		参考資料2
	20	東側拡張区	坏				(26)	(8)	ヨコナデ 不明	不明 不明	― ―	緻密	普通	褐灰色 黒色	内黒	参考資料3
	15	1トレンチ東側	坏				(30)	(7)	ヨコナデ ヨコナデ	不明 不明	― ―	緻密	普通	にぶい黄橙色 黒色	内黒	参考資料4
	16	3トレンチ	坏				(29)	(6)	ミガキ ミガキ	ミガキ ミガキ	― ―	緻密	堅	灰黄褐色 黒色	内黒	参考資料5
	12	X-0	坏				(46)	(4.5)	ヨコナデ ヨコナデ	ケズリ・ミガキ ミガキ	― ―	細砂混	堅	にぶい橙色 橙色		参考資料6
	19	3トレンチ	坏					(5)	ヨコナデ ミガキ	ミガキ ミガキ	― ―	緻密	堅	にぶい黄橙色 黒色	内黒	参考資料7
	13	X-0	坏				(44)	(6.5)	ヨコナデ ヨコナデ・ミガキ	不明 ミガキ	― ―	細砂混	普通	にぶい黄橙色 黒色	内黒	参考資料8
	17	1トレンチ東側	坏				(51)	(7)	不明 不明	不明 不明	― ―	細砂混	普通	にぶい黄橙色 明黄褐色		参考資料9
	18	3トレンチ	坏					(7)	不明 ミガキ	ケズリ・ミガキ ミガキ	― ―	緻密	堅	にぶい黄橙色 黒色	内黒	参考資料10
	9	SD602	坏				(45)	(6)	ヨコナデ・ミガキ ミガキ	ケズリ・ミガキ ミガキ	― ―	細砂混	普通	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色		参考資料11 208と同一個体か
	10	X-0	坏				(40)	(6)	ヨコナデ・ミガキ ミガキ	ケズリ・ミガキ ミガキ	― ―	細砂混	普通	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色		参考資料12 208と同一個体か
	36	2トレンチ　E3-j3	甕				(55)		ヨコナデ 不明	ハケメ 不明	― ―	細砂混	普通	にぶい橙色 にぶい褐色		参考資料13
	37	SD603	甕				(92)		ヨコナデ ヨコナデ	ハケメ ヘラナデ	― ―	細砂混	堅	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色		参考資料14
	44	1トレンチ東側	甑				(47)		― ―	不明 ヘラナデ	不明 ヘラナデ・ケズリ	細砂混	普通	にぶい黄橙色 褐灰色		参考資料15
	45	北側拡張区	甑					(7)	― ―		― ―	緻密	堅	明黄褐色明黄褐色		参考資料16

第３表　Ⅶ次調査出土土師器ほか観察表

※（　）は推定値を示す

挿図NO.	整理NO.	出土地区（数字は出土地点）	器種	法量（mm）					調整（上段：外面,下段:内面）			胎土	焼成	色調（上段：外面,下段:内面）	彩色	備考
				口径	胴径	底径	器高	器厚	口縁部	体部	底部（脚部）					
301	1	5トレンチ No.16.23.26.29.34	甕	(162)	(228)		(150)	(7)	ヨコナデ ヨコナデ	ハケメ ヘラナデ	― ―	粗砂混	普通	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色		
302	7	5トレンチ No.13.14	甕	(190)			(90)		ヨコナデ ヨコナデ	ハケメ ヘラナデ	― ―	粗砂混	普通	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色		
307	6	5トレンチNo.18 6トレンチNo.1.2.3	縄文土器深鉢	(345)			(221)	(7)	沈線・縄文 ―	縄文 ―	― ―	細砂混	普通	にぶい橙色 褐灰色		波状口縁

第４表　須恵器観察表

※（　）は推定値を示す

挿図NO.	整理NO.	出土地区（数字は出土地点）	器種	法量（mm）					調整（上段：外面,下段:内面）			胎土	焼成	色調（上段：外面,下段:内面）	彩色	備考
				口径	胴径	底径	器高	器厚	口縁部	体部	底部（脚部）					
108	V-45	1トレンチ8層 C2-c10	甕				(16)	4	ロクロ ロクロ	― ―	― ―	緻密	堅	暗灰黄色 暗灰黄色		外面口縁部刺突文か
109	V-46	1トレンチ8層 C2-c10	甕				(21)	4	ロクロ ロクロ	― ―	― ―	緻密	堅	黄灰色 黄灰色		外面口縁部刺突文か
110	V-47	2トレンチ8層	甕					(5)	ロクロ ロクロ	― ―	― ―	緻密	堅	黄灰色 青灰色		外面タタキか
111	V-131	TP2	甕					(7)	― ―	平行タタキ 青海波アテ	― ―	緻密	堅	灰白色 灰色		
240	Ⅵ-47	1トレンチ東側	坏			(60)	(18)		― ―	ロクロ ロクロ	回転糸切り ロクロ	細砂混	堅	灰色 灰色		外内面に漆付着か
241	Ⅵ-48	X-0	坏				(29)		ロクロ ロクロ	― ―	― ―	細砂混	堅	黄灰色 黄灰色		
242	Ⅵ-49	SD602	壺か						― ―	ロクロ ロクロ	― ―	緻密	堅	灰色 灰色		
243	Ⅵ-50	東側拡張区	甕					(8)	― ―	カキ目、平行タタキ 青海波アテ	― ―	緻密	堅	灰色 灰色		243～245同一個体か
244	Ⅵ-52	東側拡張区	甕					(7)	― ―	カキ目、平行タタキ 青海波アテ	― ―	緻密	堅	灰色 灰色		243～245同一個体か
245	Ⅵ-51	東側拡張区	甕					(6)	― ―	カキ目、平行タタキ 青海波アテ	― ―	緻密	堅	灰色 灰色		243～245同一個体か
246	Ⅵ-53	SD603	甕					(8)	― ―	平行タタキ 青海波アテ	― ―	緻密	堅	灰色 青灰色		
247	Ⅵ-54	北側拡張区	甕					(6.5)	― ―	平行タタキ 青海波アテ	― ―	緻密	堅	灰色 青灰色		
248	Ⅵ-55	SG601	甕					(6)	― ―	平行タタキ 青海波アテ	― ―	緻密	堅	灰色 灰色		
249	Ⅵ-56	SD602	甕					(10)	― ―	平行タタキ 青海波アテ	― ―	緻密	堅	青灰色 灰色		
303	Ⅶ-2	5トレンチ	甕					(8)	― ―	ロクロ ロクロ	― ―	緻密	堅	黒色 灰色		
304	Ⅶ-3	5トレンチ	甕					(14)	― ―	平行タタキ 平行アテか	― ―	緻密	堅	灰色 灰白色		

第５表　石製品観察表

挿図NO.	整理NO.	出土地区	器種	計測値（mm）			備考
				最大長	最大幅	最大厚	
112	V-1	X-0	紡錘車	(30)	(52)	(33)	一部欠損
113	V-2	1トレンチ C2-b10	砥石	(114)	(90)	(54)	一部欠損　5面使用 うち1面に磨痕
114	V-5	TP1	石皿	(192)	(108)	(31)	両面に磨痕　裏面に擦痕
115	V-6	1トレンチ C2-c10	石皿	268	231	38	両面に敲痕　裏面に磨痕
250	Ⅵ-1	SG601	砥石	(106)	(60)	(23)	一部欠損　3面使用 うち2面に磨痕
305	Ⅶ-5	5トレンチNo.1	砥石	(79)	(66)	(24)	両面にアスファルト付着
306	Ⅶ-4	6トレンチ-4	磨製石斧	47	26	11	裏面に擦痕

第６表　木製品観察表

挿図NO.	整理NO.	出土地区	器種	計測値（mm）			備考
				最大長	最大幅	最大厚	
116	V木1	1トレンチ B2-j10	鍬	(30)	(52)	(33)	RW501
117	V木2	1トレンチ C2-b10	鍬	(114)	(90)	(54)	RW502
118	V木5	1トレンチ B2-j10	不明	143	77	14	RW504
119	V木6	SB16 EB7	柱	(1,756)	(107)		RW505　折損部上部両面に擦痕
120	V木7	SB16 EB15	柱	(1,337)	(88)	(89)	RW506　折損部上部両面に擦痕

※（　）は推定値を示す

写　真　図　版

遺跡遠景

遺跡遠景（南東から）

遺跡遠景（北東から）

Ⅴ次調査第１トレンチ遺物出土状況

C2－a～d10区遺物出土状況（東から）

C2－b・c10区遺物出土状況（南から）

C2－b10区103出土状況（北西から）

C2－c10区93出土状況（南東から）

C2－c10区96出土状況（南から）

C2－c10区24出土状況（南東から）

C2－c 10区60出土状況（南東から）

Ⅴ次調査第１トレンチ遺物・建築部材出土状況

C2－c10区80出土状況（北東から）

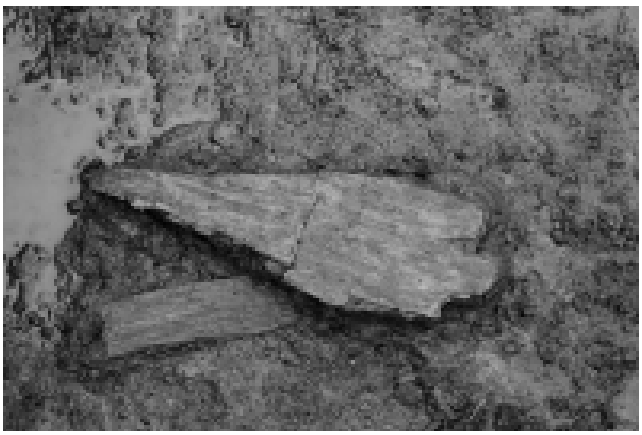
C2－d10区49出土状況（東から）

C2－c・d10区建築部材・遺物出土状況（北から）

C2－b・c10区建築部材・遺物出土状況（北から）

C2－b10区建築部材・遺物出土状況（北から）

C2－a・b10区建築部材・遺物出土状況（北から）



B2－j10区116出土状況（西から）

C2－b10区117出土状況（東から）

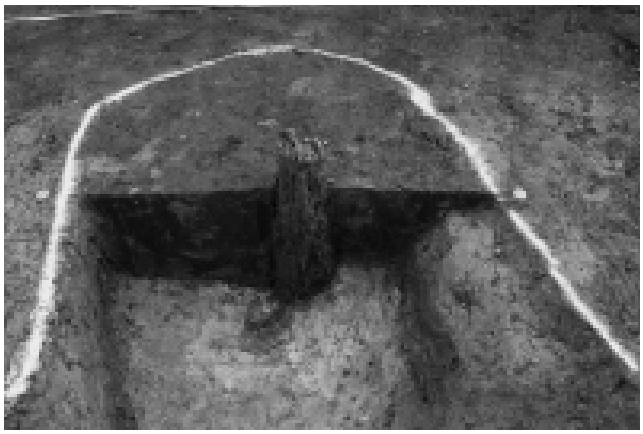
Ⅴ次調査第１トレンチ拡張区・16号建物跡遺構・遺物検出状況・土層断面

B2－g10区樹皮状部材検出状況（南から）

16号建物跡EB6・7・15検出状況（南から）

拡張区炭化米出土範囲（南から）

拡張区炭化米出土範囲（北西から）



16号建物跡EB4南側土層断面（北から）

16号建物跡EB6土層断面（北から）

16号建物跡EB7・15断ち割り状況（南から）

16号建物跡EB11断ち割り状況（南から）

Ⅴ次調査16号建物跡土層断面・全景

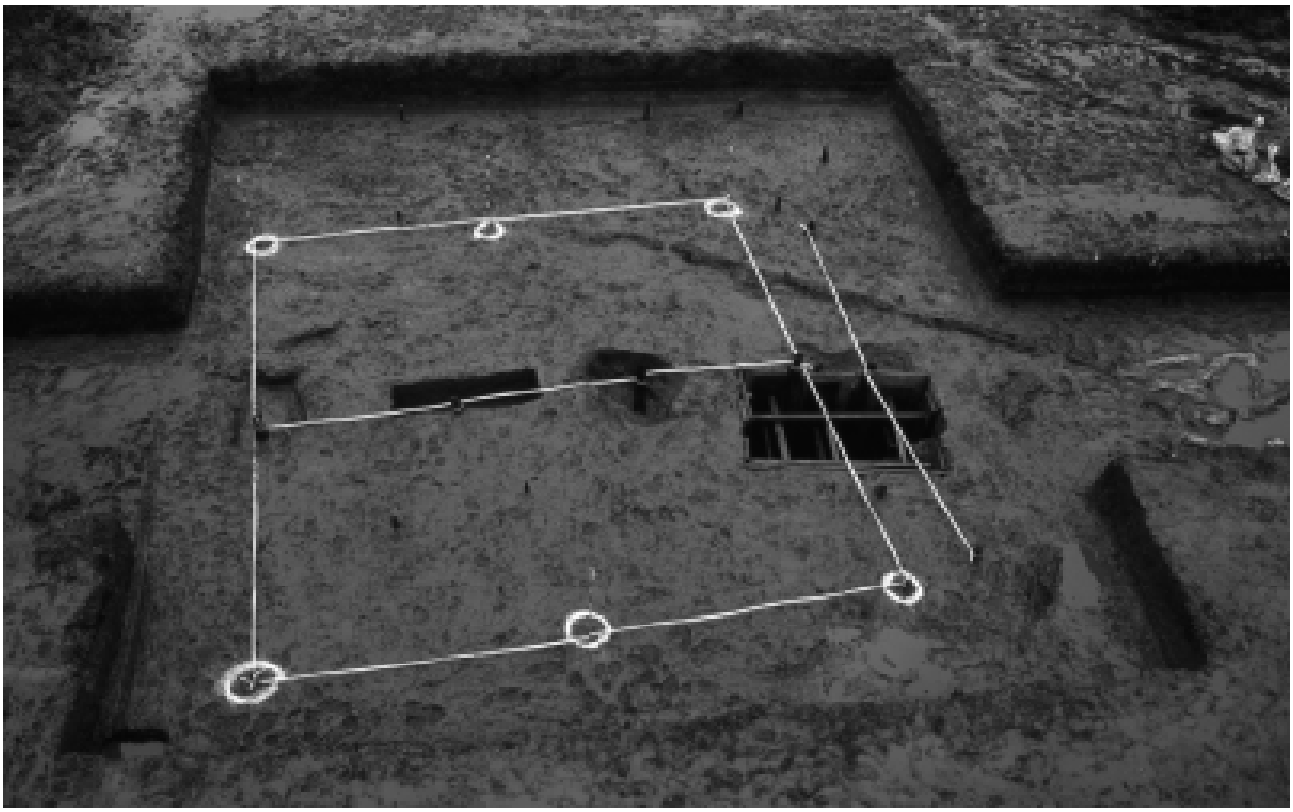
16号建物跡EB5断ち割り状況（北から）

16号建物跡EB10・17断ち割り状況（北から）

16号建物跡EB1断ち割り状況（北から）

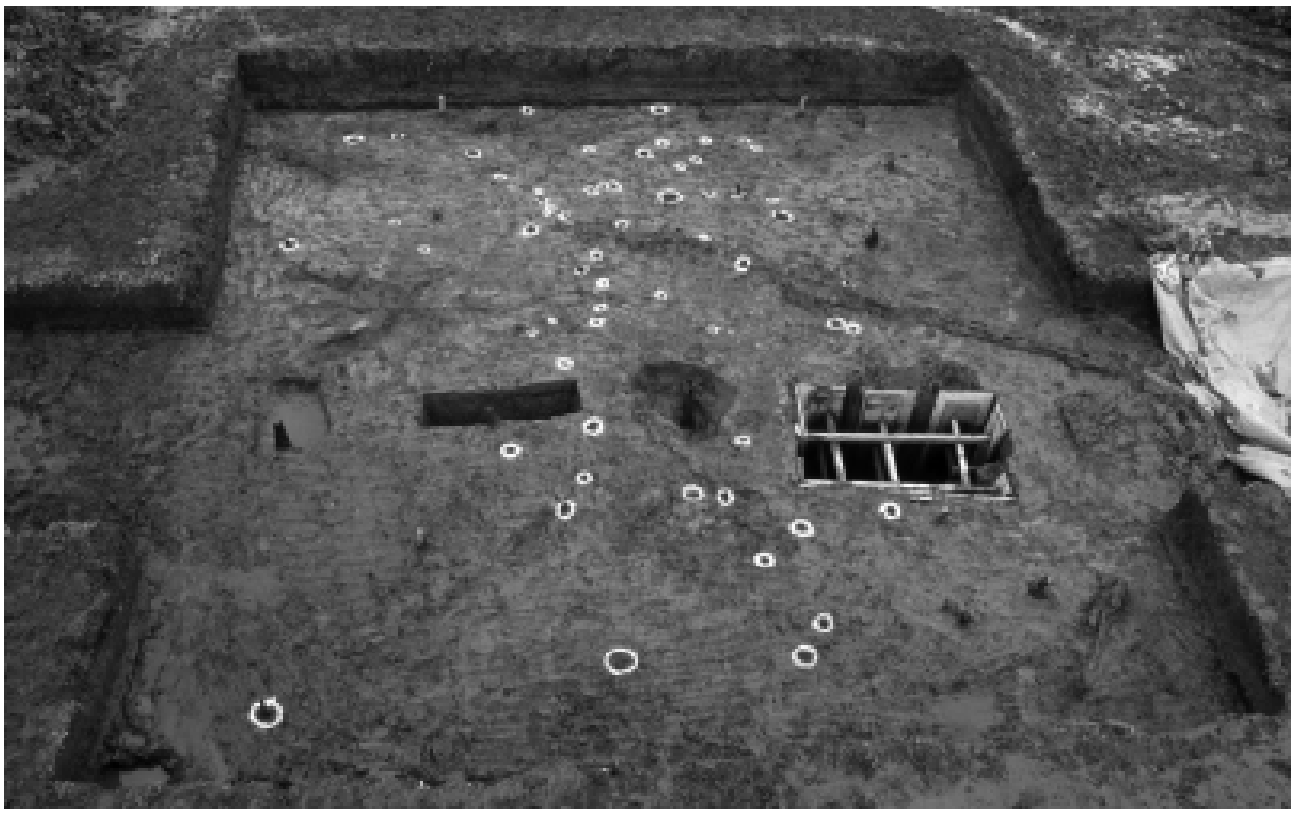
第2トレンチ全景（西から）

Ⅴ次調査第1トレンチ全景



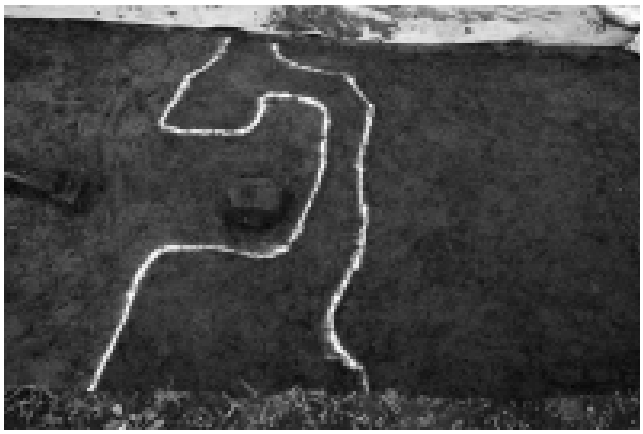
16号建物跡検出状況（南から）

Ⅴ次調査第１トレンチ拡張区全景

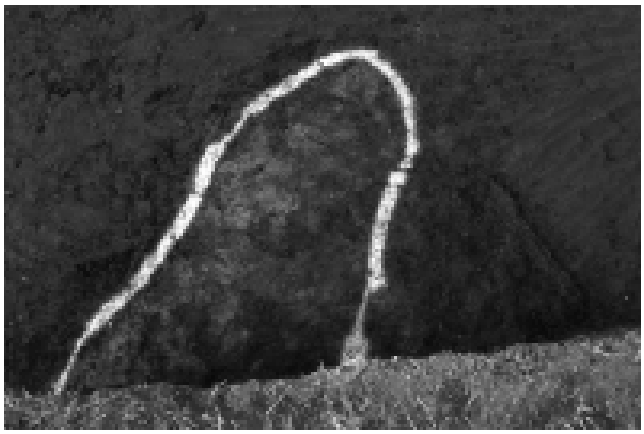


第1トレンチ拡張区全景（南から）

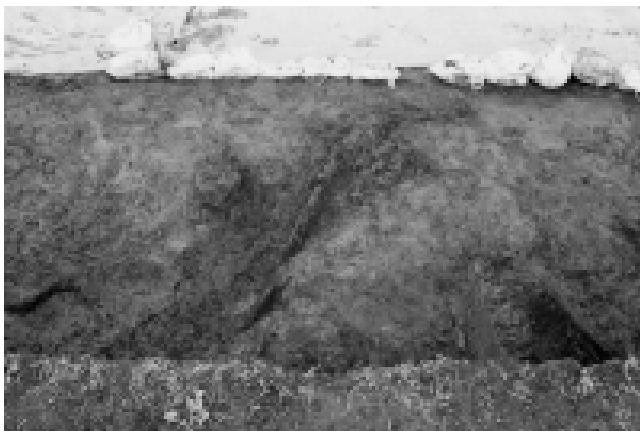
Ⅴ次調査第２トレンチ遺構検出状況



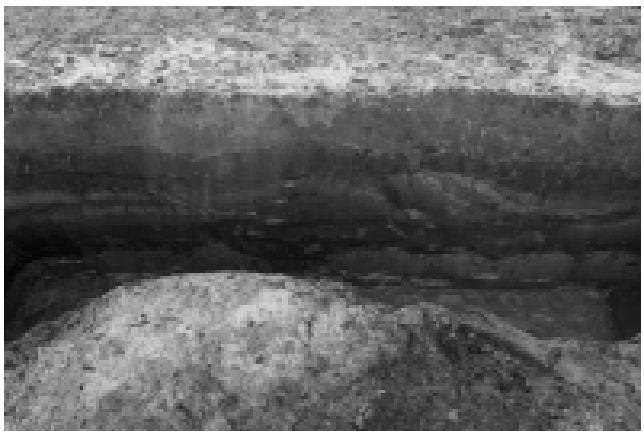
B2－c1区畦畔状遺構確認状況（南から）



B2－d1区畦畔状遺構確認状況（南から）



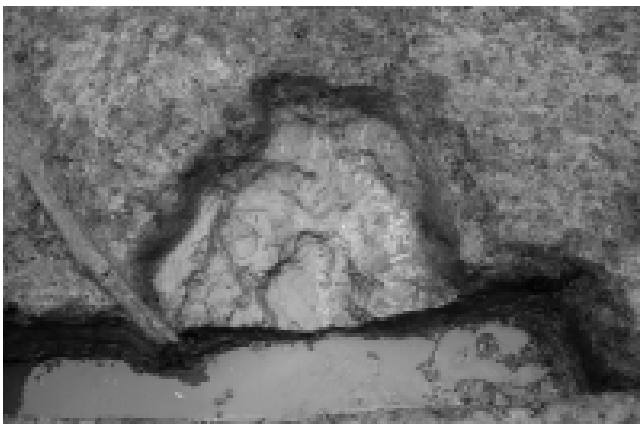
B2－d1区畦畔状遺構掘り下げ状況（南から）



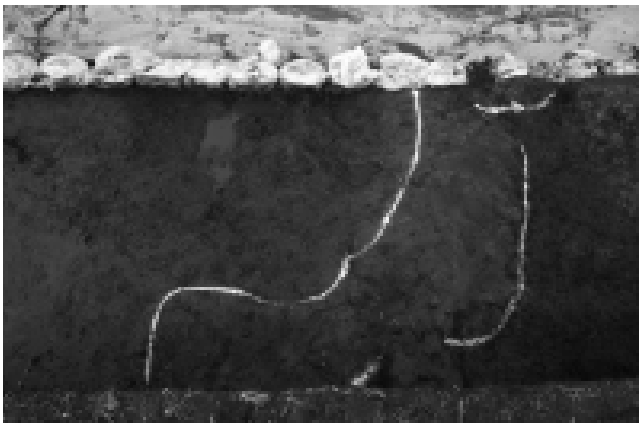
B2－d1区畦畔状遺構土層断面（北から）

Ⅴ次調査第２トレンチ遺構検出状況

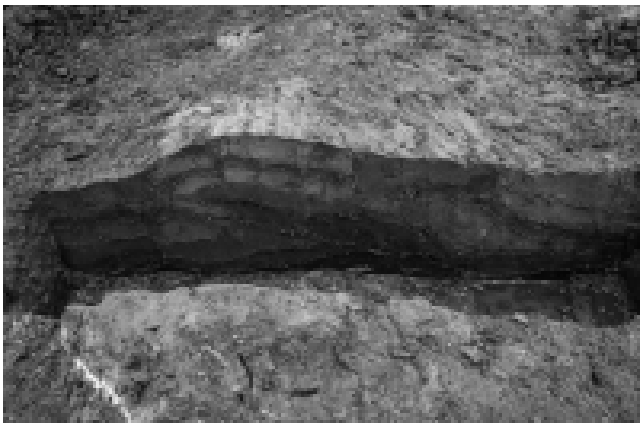
B2－d1区SK501検出状況（南から）



B2－d1区SK501完堀状況（南から）



B2－e・f区畦畔状遺構確認状況（南から）



B2－e・f区畦畔状遺構土層断面（北から）

Ⅵ次調査第１トレンチ河川跡検出状況

SG601土層断面（南から）

SG601木材検出状況（南から）

SG601木材検出状況（東から）

Ⅵ次調査西側・北側拡張区遺構検出状況・土層断面

西側拡張区 SG 601 南半部分検出状況（南から）

西側拡張区 SD 602 土層断面（南東から）

北側拡張区遺構確認状況（南から）

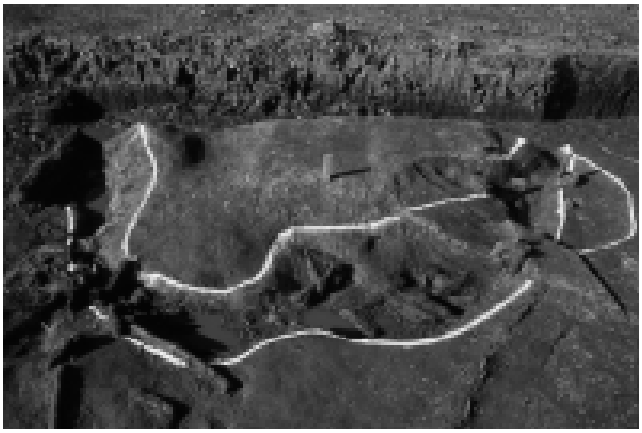
西側拡張区 SD 602・603 完堀状況（南から）

西側拡張区 SD 602 北半部分完堀状況（南から）

西側拡張区 SD 602 南半部分完堀状況（南から）

西側拡張区 SX 604 土層断面（北から）

Ⅵ次調査西側・南側・東側拡張区・第３トレンチ遺構検出状況・土層断面



西側拡張区SX604完堀状況（南から）

西側拡張区遺構完堀状況（南東から）

南側拡張区畦畔状遺構完堀状況（南半部分）（西から）

南側拡張区畦畔状遺構完堀状況（北半部分）（西から）

南側拡張区畦畔状遺構土層断面（E4－i7区）（東から）

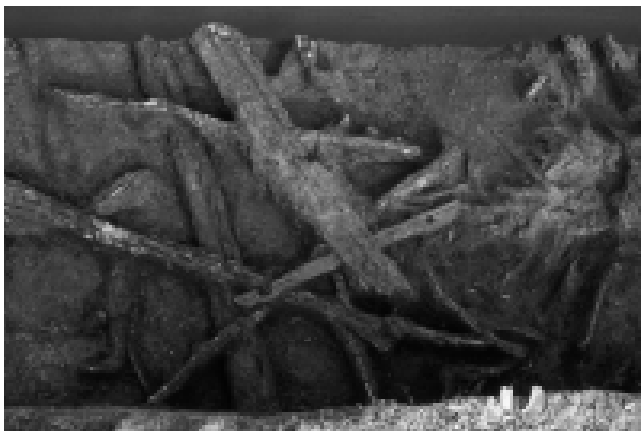
南側拡張区畦畔状遺構土層断面（E4－i6区）（東から）

東側拡張区畦畔状遺構検出状況（南から）

第3トレンチE1－e5区木材検出状況（西から）

Ⅵ次調査第３・第４・第５トレンチ木材検出状況・土層断面・全景

第3トレンチ全景（北から）



第3トレンチE1－e6区木材検出状況（西から）

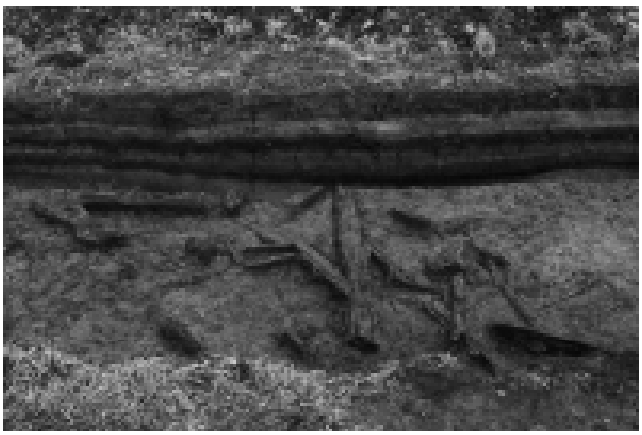
第4トレンチD1－e7・8区土層断面（西から）

第4トレンチD1－e6・7区自然木検出状況（西から）

第5トレンチC1－e6・7区SD605確認状況（西から）

第4トレンチ全景（南から）

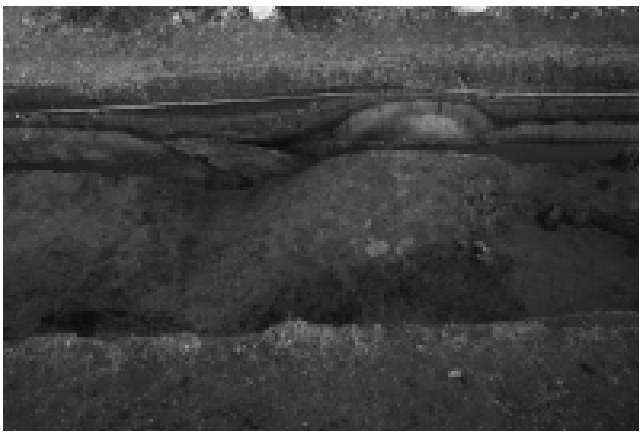
Ⅵ次調査第５・第６トレンチ自然木検出状況・遺物出土状況・全景
Ⅶ次調査第１トレンチ土層断面


第５トレンチＣ１－ｅ６・７区自然木検出状況（西から）

第５トレンチＣ１－ｅ６区252出土状況（西から）

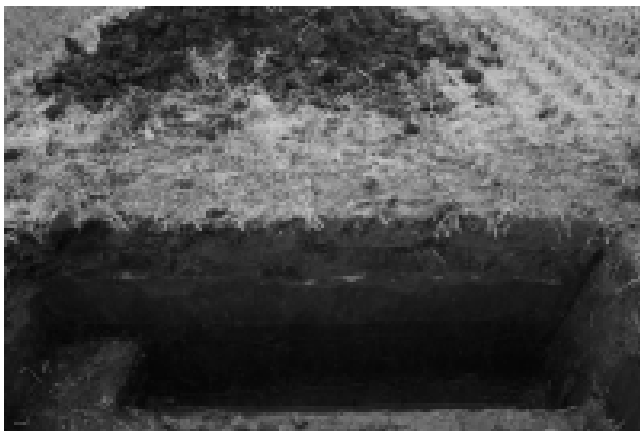
第５トレンチ全景（南から）

第６トレンチ自然木検出状況（南から）

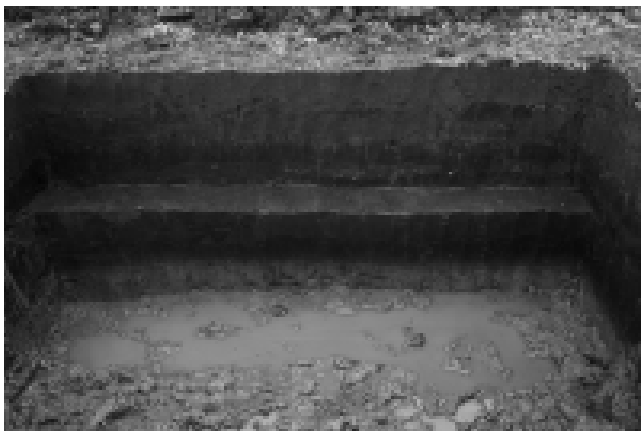

第６トレンチSX606検出状況・土層断面（西から）

Ⅶ次第１トレンチｃ－ｃ′土層断面（南から）

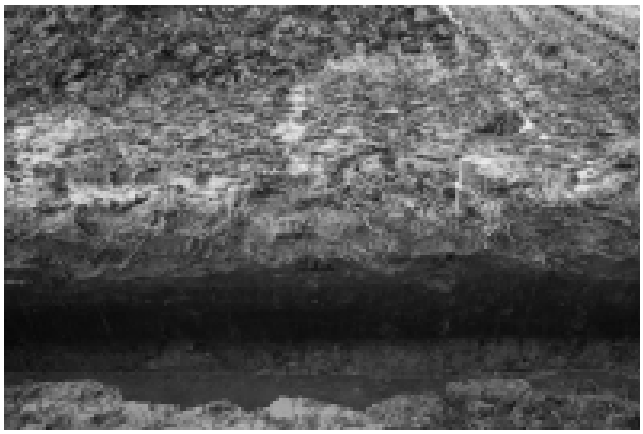
Ⅶ次調査第１～第４トレンチ土層断面



第1トレンチｄ－ｄ′土層断面（南から）

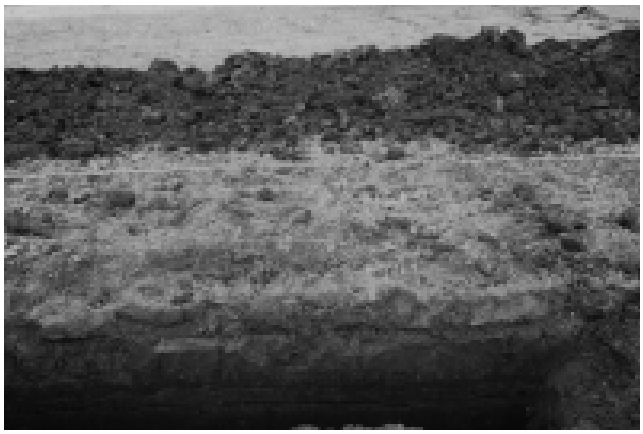


第1トレンチｅ－ｅ′土層断面（南から）

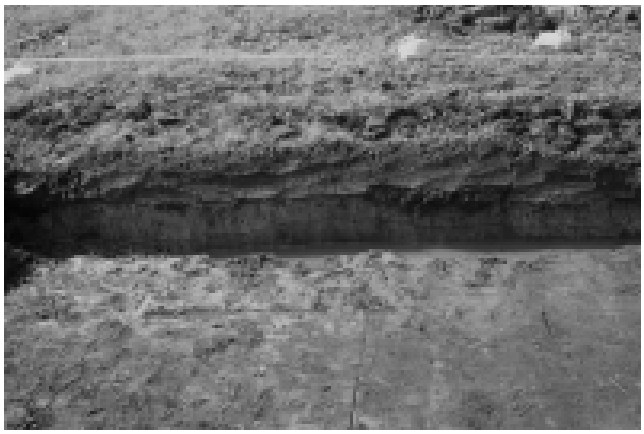


第2トレンチｆ－ｆ′土層断面（南から）

第2トレンチｇ－ｇ′土層断面（南から）



第3トレンチ北端部土層断面（東から）



第3トレンチ南端部土層断面（東から）

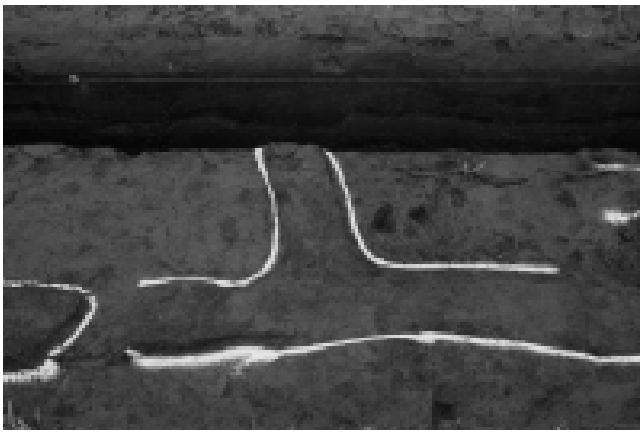
第4トレンチ北端部土層断面（東から）

第4トレンチ南端部土層断面（東から）

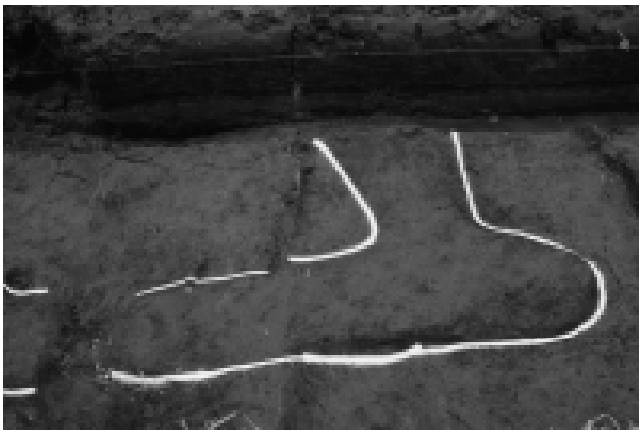
Ⅶ次調査第５トレンチ遺構検出状況・土層断面・遺物検出状況

SD701検出状況（南から）

SD701土層断面・完堀状況（東から）



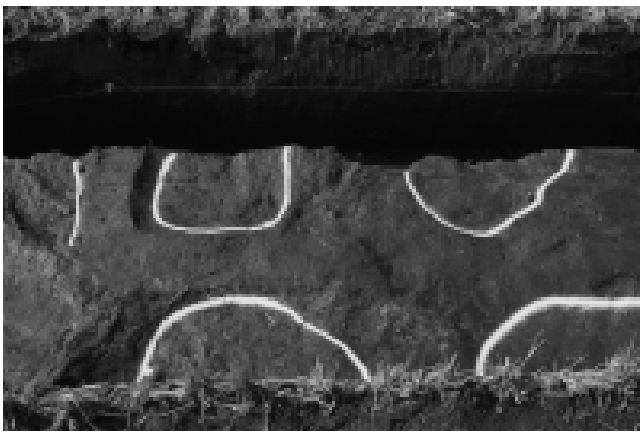
C6－b3・4区畦畔状遺構完堀状況（東から）



C6－b3区畦畔状遺構完堀状況（東から）

C6－b2区土師器出土状況（東から）

C7－b2区畦畔状遺構完堀状況（東から）



C6－b10～C7－b1区畦畔状遺構完堀状況（東から）

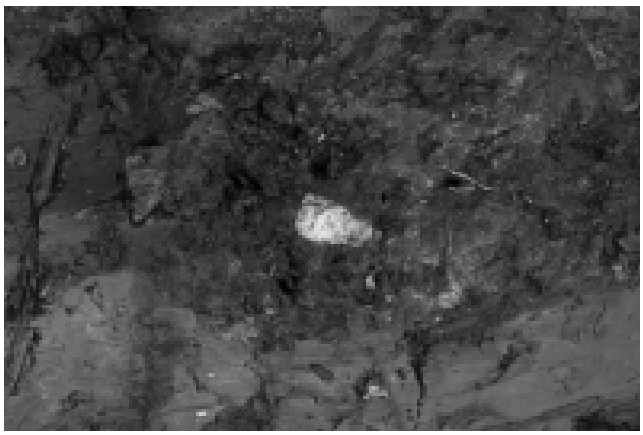
Ⅶ次調査第５トレンチ遺構検出状況　第６トレンチ遺物・木材検出状況

第５トレンチ畦畔状遺構北半部完堀状況（南から）

第５トレンチ畦畔状遺構南半部完堀状況（南から）

第５トレンチＣ６－ｂ９･10区畦畔状遺構完堀状況（東から）

第６トレンチＢ５－ｂ５区307出土状況（西から）



第６トレンチSG702・Ｂ６－ｂ７区306出土状況（東から）

第６トレンチＢ６－ｂ９・10区木材検出状況（東から）

Ⅶ次調査第６トレンチ遺構検出状況・土層断面

SG702完堀状況（南から）

B6－b8・9区木材検出状況（東から）

SD703土層断面（東から）

SD703完堀状況（東から）

B7－b4・5区畦畔状遺構完堀状況（西から）

B7－b4～6区畦畔状遺構完堀状況（南から）

Ⅴ次調査出土遺物(1)

1

2

3

4

5

6

7

8

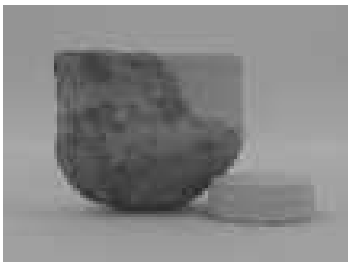
9

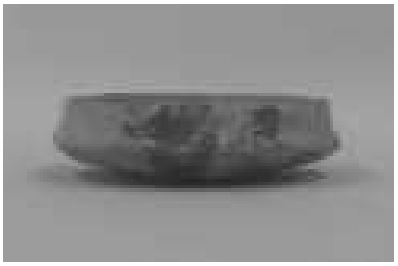
10

11

12

13


14


15

16

17

18

Ⅴ次調査出土遺物(2)

19

20

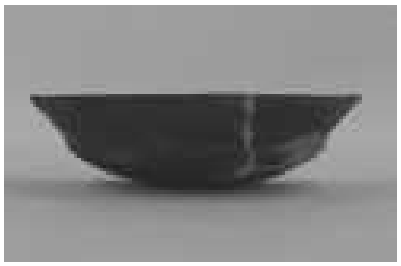
21

22

23

24

25


26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

Ⅴ次調査出土遺物(3)

37

38

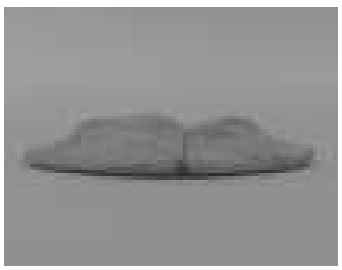
39

40

41

42

43


44

45

46

47

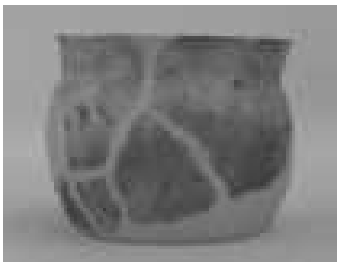
48

49

50

51

52


53

54

Ⅴ次調査出土遺物(4)

55

56

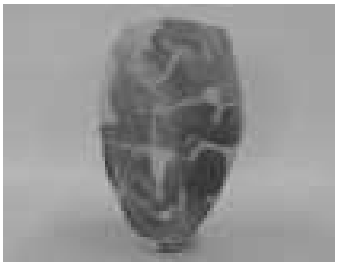
57

58

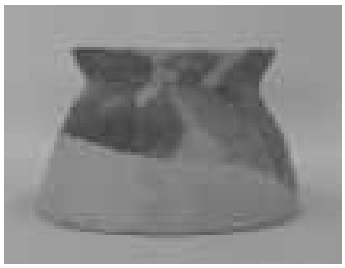
59

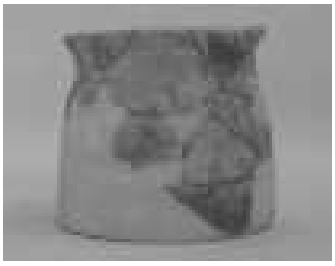
60

61


62

63

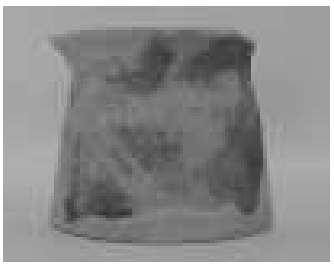

64


65

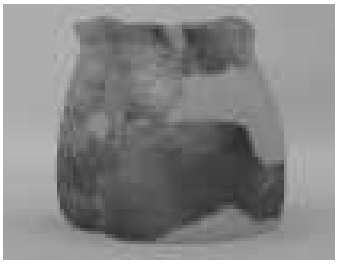
66

67

68

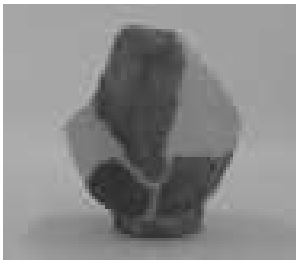

69

70


71

72

Ⅴ次調査出土遺物(5)

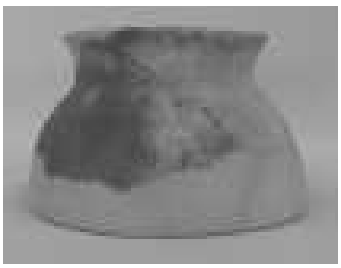

73

74

75

76

77

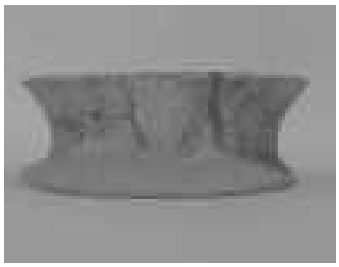

78

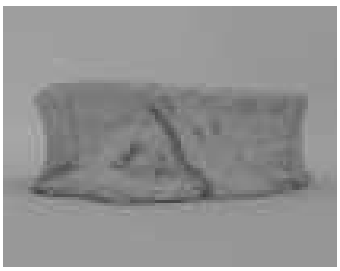
79

80

81

82


83


84

85

86

87

88

89

90

Ⅴ次調査出土遺物(6)

91

92

93

94

95

96

97

98

99

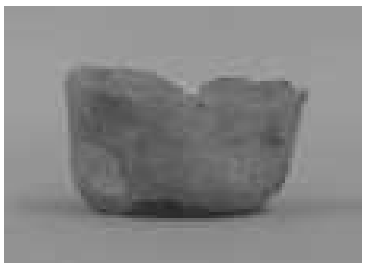
100

101

102

103

104

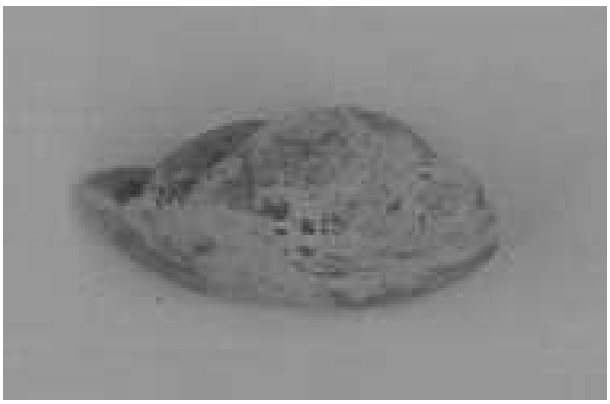

105

106

107

Ⅴ次調査出土遺物(7)

108 ～ 111



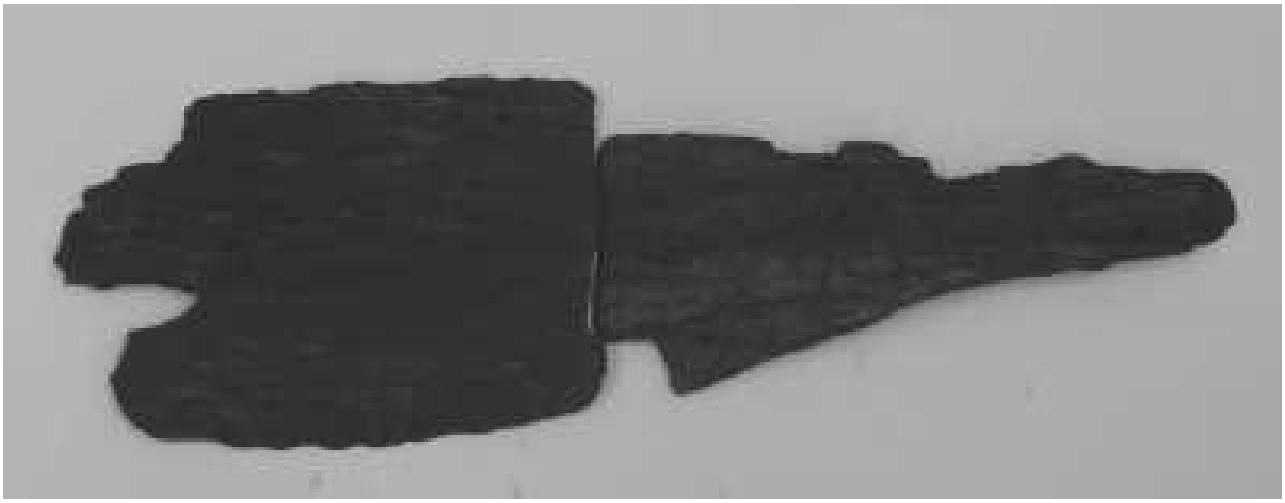
112

113

114

115

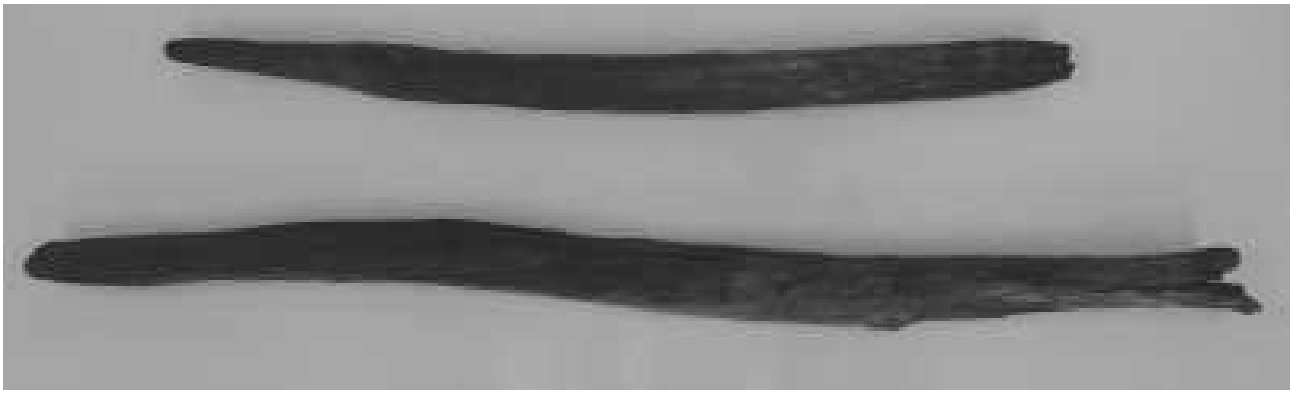
V次調査出土遺物(8)



116

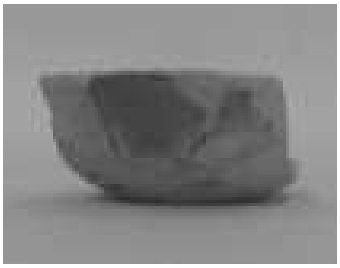
117

118



119　120

Ⅵ次調査出土遺物(1)

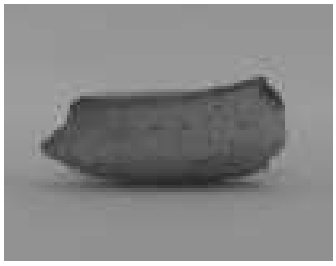

201

202

203

204

205


206

207

208

209

210

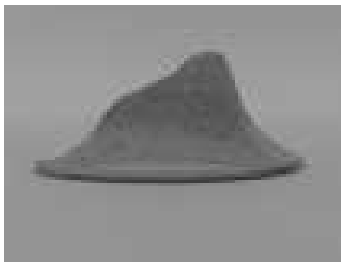
211

212

213

214

215


216

217

218

VI次調査出土遺物(2)

219

220

221

222

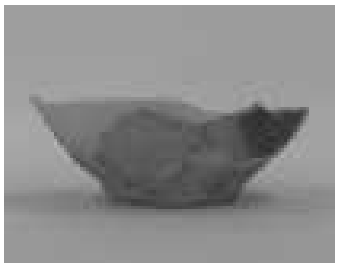
223

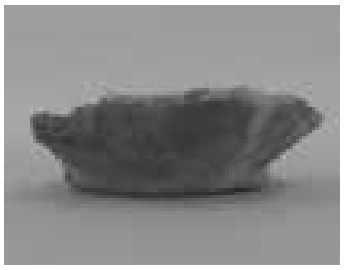
224

225

226

227


228


229

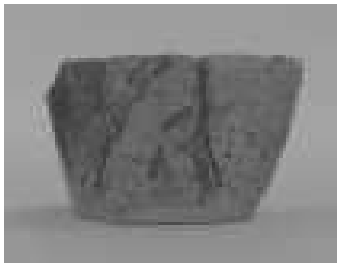
230

231

232

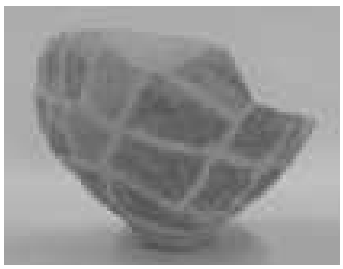
233

234


235

236

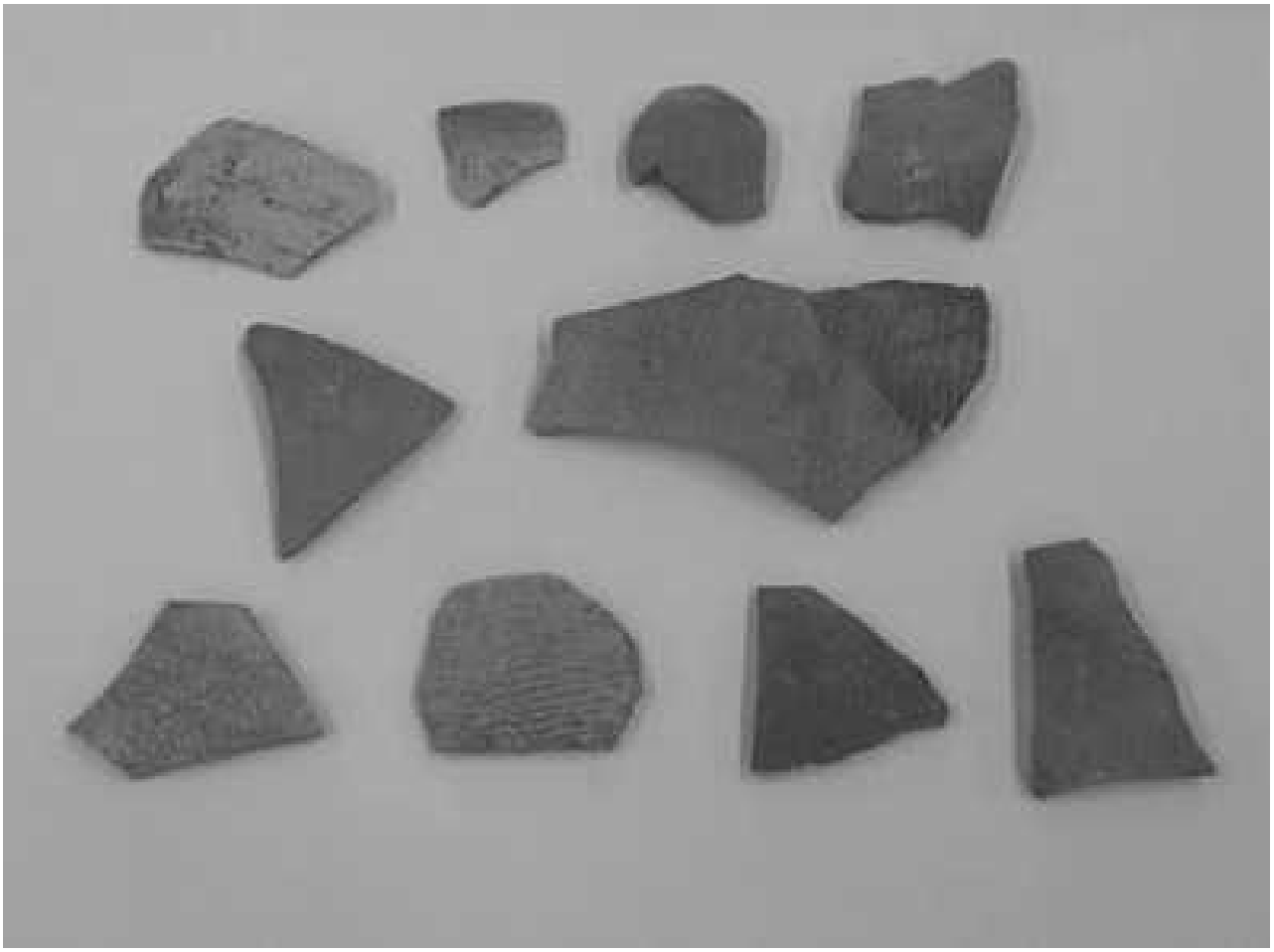
Ⅵ次調査出土遺物(3)



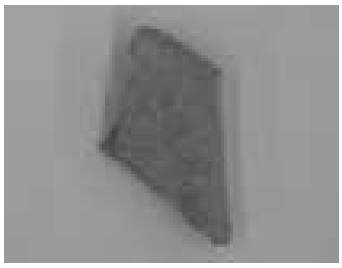
237

238

239



240 ～ 249

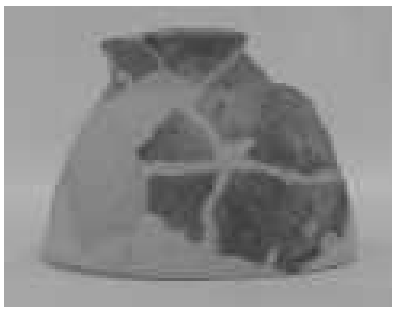


250

251

252

Ⅶ次調査出土遺物



301

302

303 304

305 306

307-1

307-2

307-3

Ⅴ次～Ⅶ次調査出土遺物（参考資料）

5 次調査参考資料 1 ～ 9

6 次調査参考資料 1 ～ 12

6 次調査参考資料 13 ～ 16

報告書抄録

ふりがな	てんどうしにしぬまたいせき
書名	天童市西沼田遺跡
副書名	第Ⅴ次・第Ⅵ次・第Ⅶ次発掘調査報告書
シリーズ名	天童市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第48集
編著者名	稲葉友美
編集機関	天童市教育委員会
所在地	〒994-8510　山形県天童市老野森一丁目１番１号　TEL 023-654-1111㈹
発行年月日	令和５年３月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
西沼田遺跡 （にしぬまたいせき）	山形県天童市大字矢野目字西沼田地内 （やまがたけんてんどうしおおあざやのめあざにしぬまたちない）	06210	172	38° 21′ 24″	140° 20′ 44″	Ⅴ 20011002 ～20011206 Ⅵ 20030804 ～20031120 Ⅶ 20041007 ～20041203	Ⅴ 420㎡ Ⅵ 1,116㎡ Ⅶ 776㎡	史跡の保存及び整備計画に伴う発掘調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
西沼田遺跡	集落跡	古墳時代	建物跡、 河川跡、 畦畔状遺構等	土師器、須恵器、石器、木製品等	特になし

天童市埋蔵文化財調査報告書第48集

天童市西沼田遺跡

－第Ⅴ次・第Ⅵ次・第Ⅶ次発掘調査報告書－

令和５年３月31日

編　集　天童市教育委員会

発　行　天童市教育委員会

住　所　山形県天童市老野森一丁目１番１号
TEL　023-654-1111㈹

印　刷　坂部印刷株式会社
TEL　023-631-2056